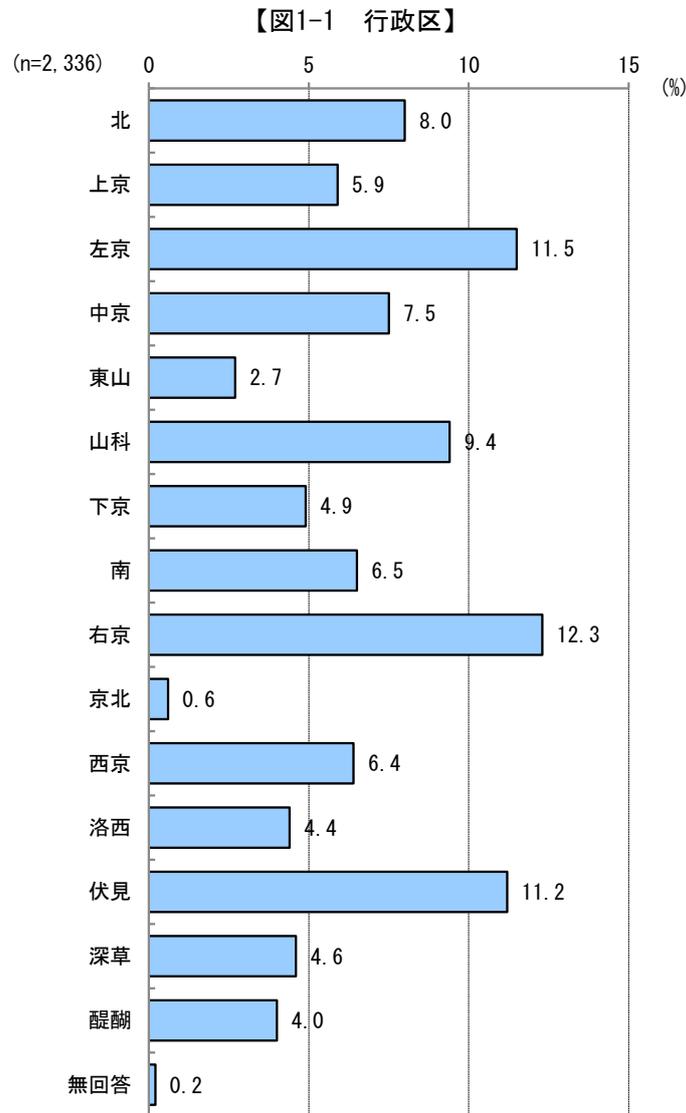


第2章 高齢者調査の結果

1 回答者の基本属性

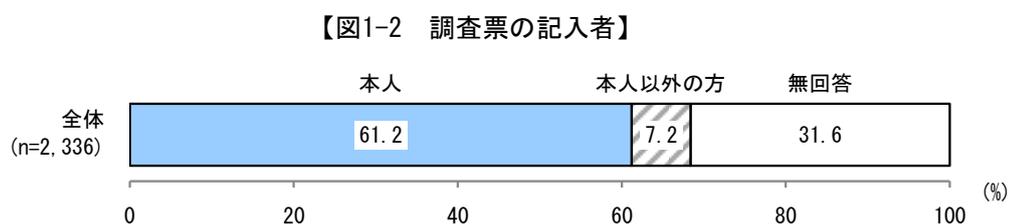
(1) 行政区



回答者が住む行政区は、「右京」が12.3%で最も多く、次いで「左京」が11.5%、「伏見」が11.2%となっています。(図1-1)

(2) 調査票の記入者

Q 調査票を記入された方をお教えてください。〈あてはまる方に○を付けてください。〉

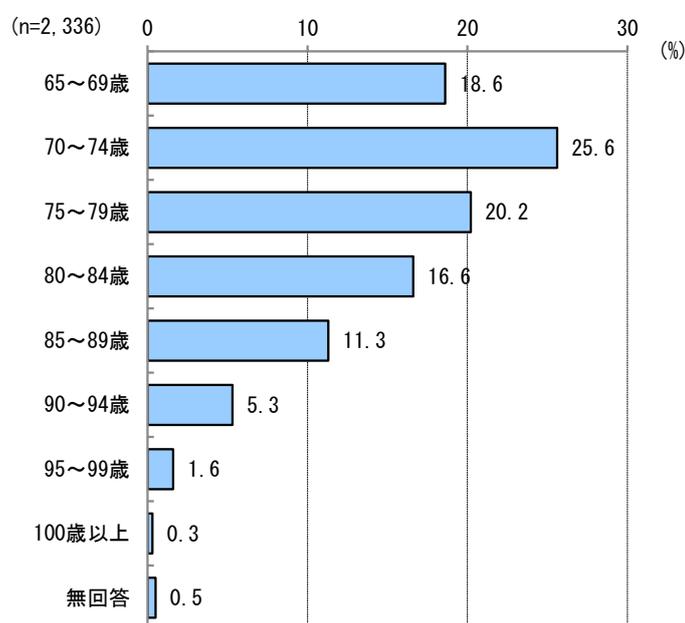


調査票の記入者は、「本人」が61.2%、「本人以外の方」が7.2%となっています。(図1-2)

(3) 年齢

問1 Q1 あなた（あて名の御本人。以下の問も同じです。）の年齢をお教えてください。〈〇は1つ〉

【図1-3 年齢】

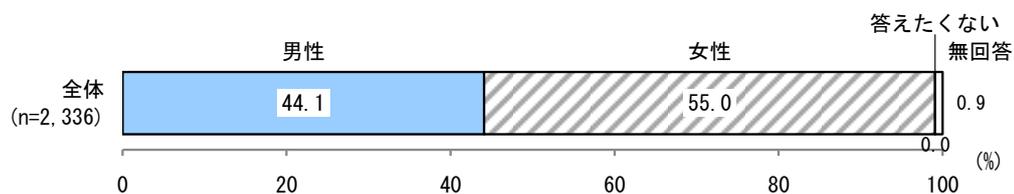


回答者の年齢は、「70～74歳」が25.6%で最も多く、次いで「75～79歳」が20.2%、「65～69歳」が18.6%となっています。（図1-3）

(4) 性別

問1 Q2 あなたの性別をお教えてください。〈〇は1つ〉

【図1-4 性別】

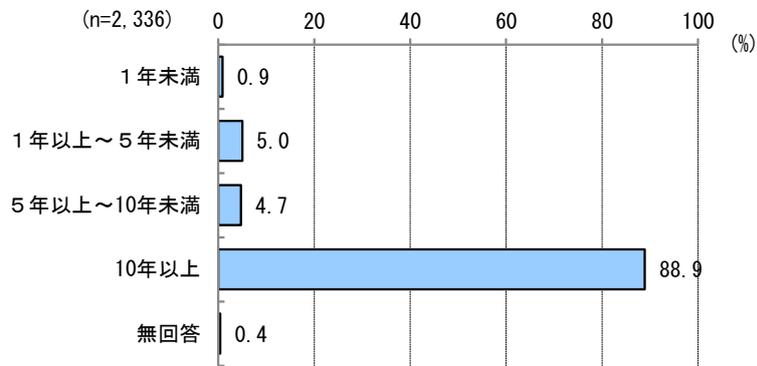


回答者の性別は、「男性」が44.1%、「女性」が55.0%となっています。（図1-4）

(5) 居住年数

問1Q3 あなたは現在の地域(学区)に何年お住まいですか。〈〇は1つ〉

【図1-5 居住年数】

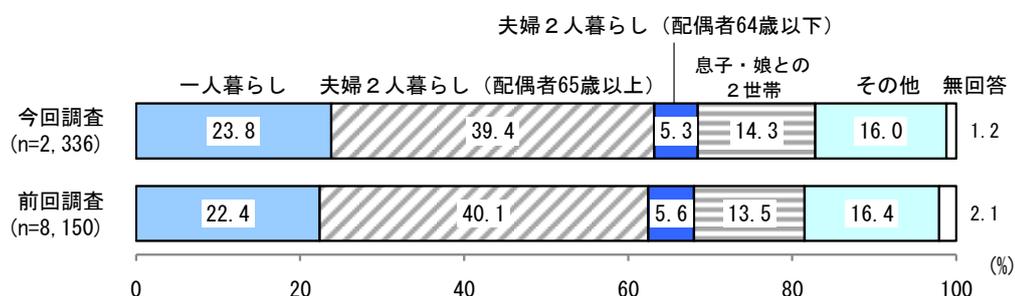


回答者の居住年数は、「10年以上」が88.9%で最も多く、次いで「1年以上～5年未満」が5.0%、「5年以上～10年未満」が4.7%となっています。(図1-5)

(6) 家族構成

問1Q4 あなたの家族構成をお教えてください。〈〇は1つ〉

【図1-6 家族構成】

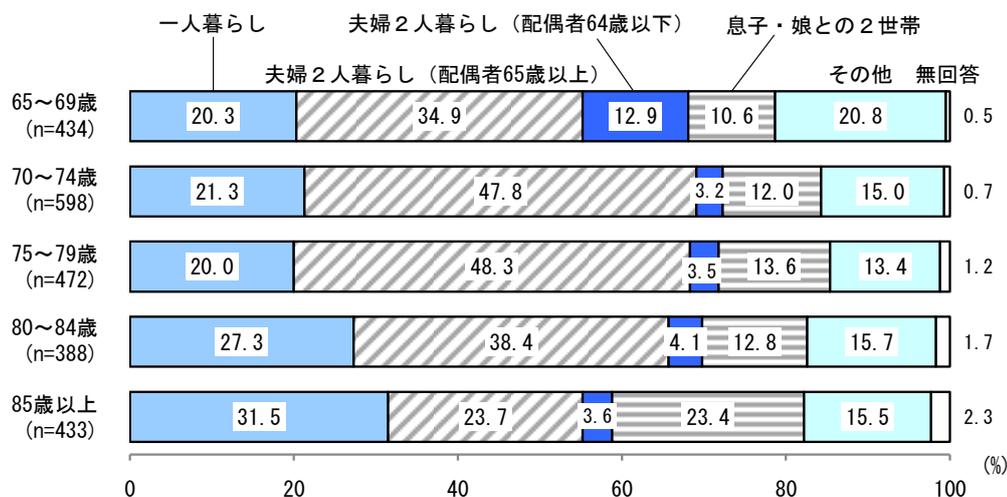


回答者の家族構成は、「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」が39.4%で最も多く、次いで「一人暮らし」が23.8%、「息子・娘との2世帯」が14.3%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図1-6)

年齢別でみると、85歳以上では「一人暮らし」(31.5%)が最も多くなっており、「息子・娘との2世帯」(23.4%)が他の年代より高い割合になっています。(図1-6-1)

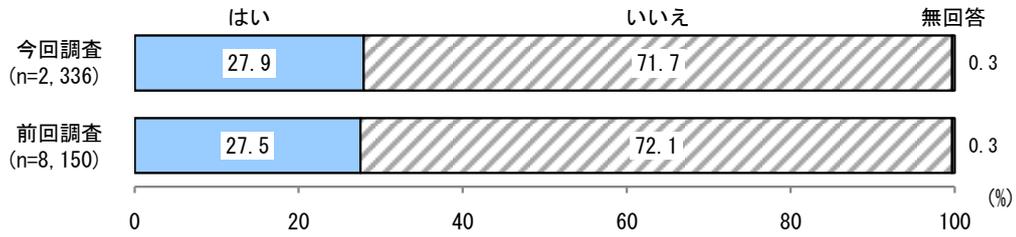
【図1-6-1 年齢別 家族構成】



(7) 収入になる仕事の有無

問1Q5 あなたは現在収入になる仕事をしていますか。〈○は1つ〉

【図1-7 仕事の有無】

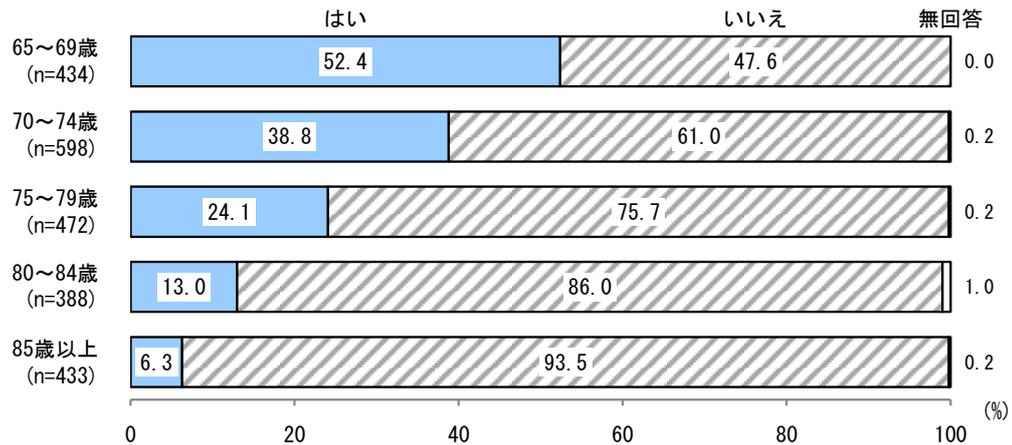


現在収入になる仕事をしているかについては、「はい」が27.9%、「いいえ」が71.7%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図1-7)

年齢別でみると、仕事をしている人の割合は、65～69歳で52.4%、70～74歳で38.8%、75～79歳で24.1%となっています。(図1-7-1)

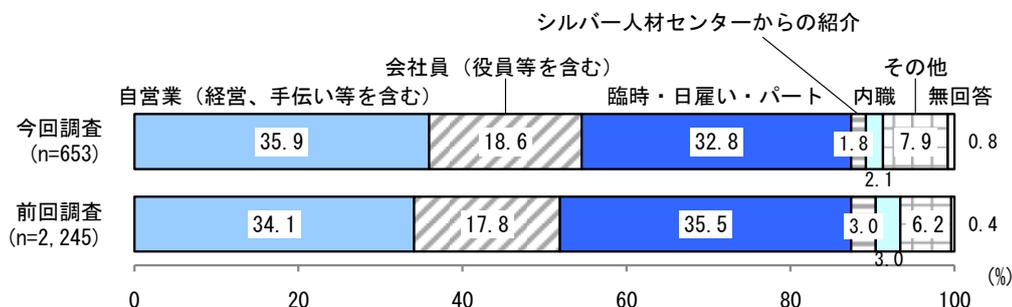
【図1-7-1 年齢別 仕事の有無】



(8) 主な就労形態

問1Q5-1 Q5で「はい（仕事をしている）」と回答した方にお聞きします。
 主な就労形態は、次のどれですか。〈○は1つ〉

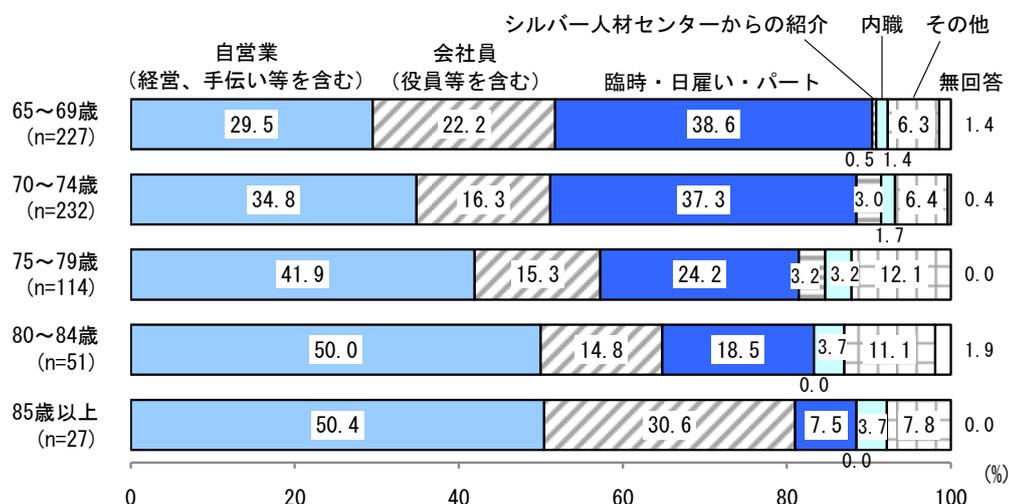
【図1-8 主な就労形態】



仕事をしていると回答した人に、主な就労形態をたずねたところ、「自営業（経営、手伝い等を含む）」が35.9%で最も多く、次いで「臨時・日雇い・パート」が32.8%、「会社員（役員等を含む）」が18.6%となっています。

前回調査と比較すると、「臨時・日雇い・パート」は2.7ポイント低くなっています。（図1-8）
 年齢別でみると、74歳以下では「臨時・日雇い・パート」、75歳以降では「自営業（経営、手伝い等を含む）」が、それぞれ最も多くなっています。（図1-8-1）

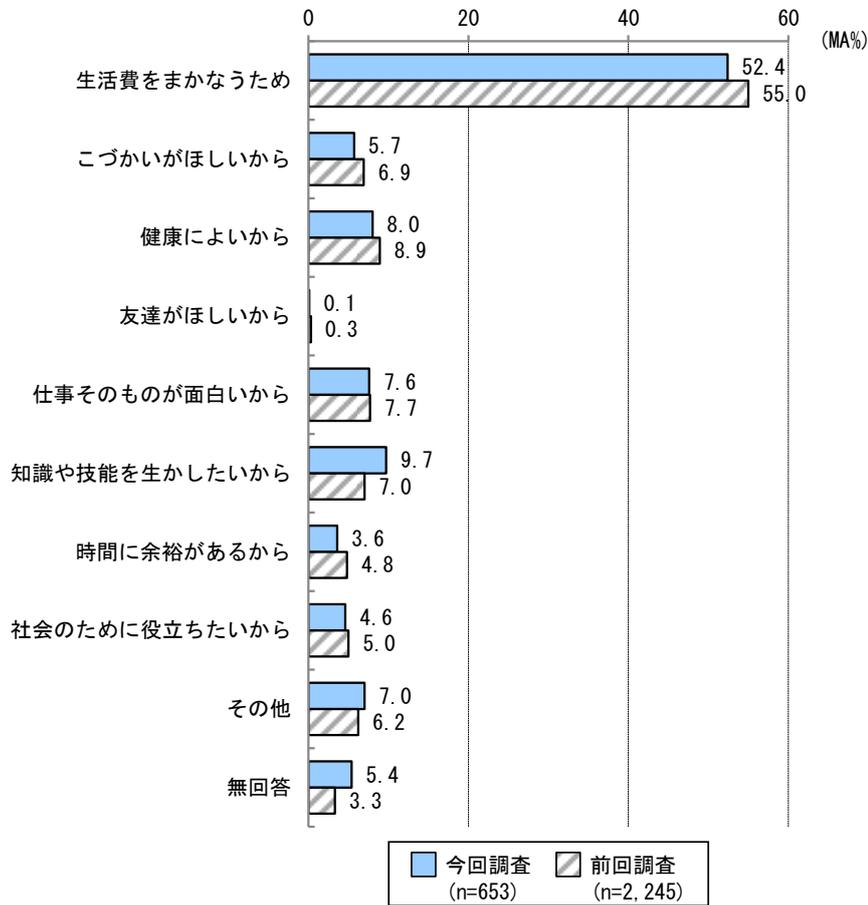
【図1-8-1 年齢別 主な就労形態】



(9) 働いている主な理由

問1Q5-2 Q5で「はい（仕事をしている）」と回答した方にお聞きします。
働いている主な理由は何ですか。〈〇は1つ〉

【図1-9 働いている主な理由】



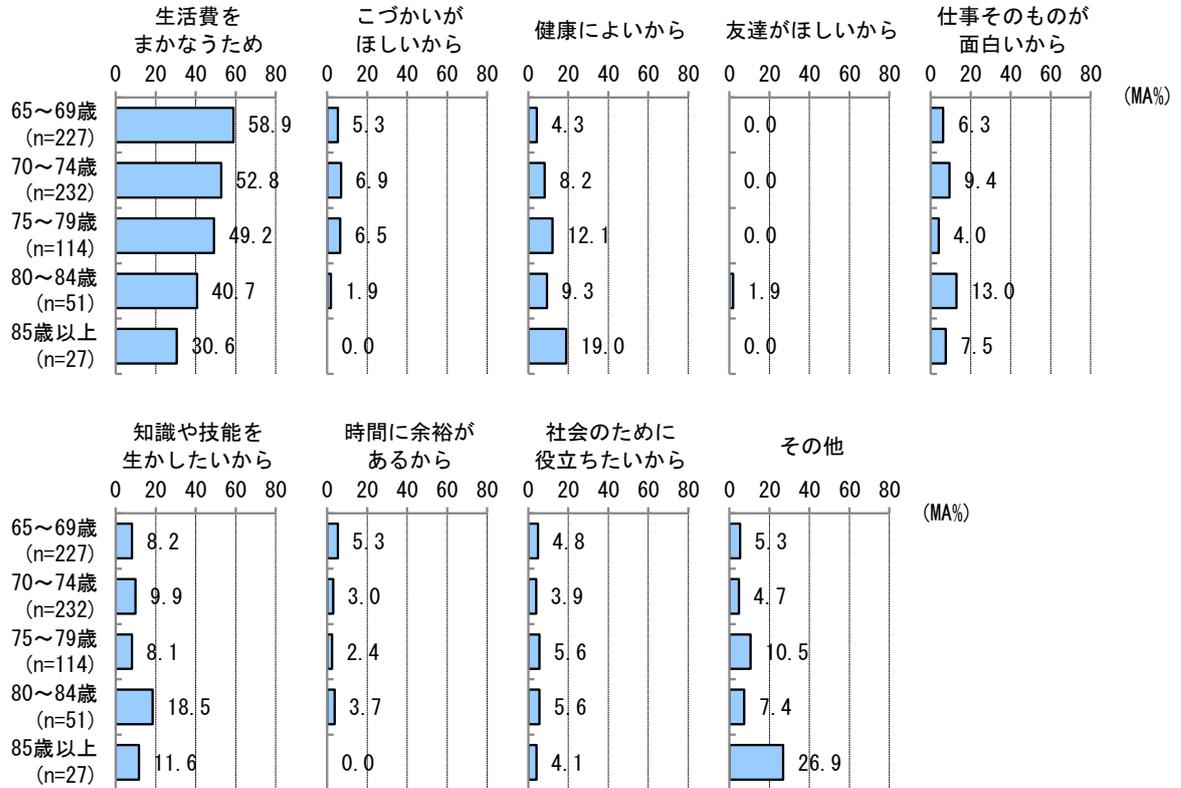
※複数回答をすべて有効としています。

仕事をしていると回答した人に、働いている主な理由をたずねたところ、「生活費をまかなうため」が52.4%で最も多く、次いで「知識や技能を生かしたいから」が9.7%、「健康によいから」が8.0%となっています。

前回調査と比較すると、「生活費をまかなうため」が2.6ポイント低くなっていますが、「知識や技能を生かしたいから」は2.7ポイント高くなっています。(図1-9)

年齢別でみると、いずれの年代も「生活費をまかなうため」が最も多く、高齢になるほど割合が低くなる傾向がみられます。また、「健康によいから」では、85歳以上（19.0%）が他の年代より高い割合になっています。（図1-9-1）

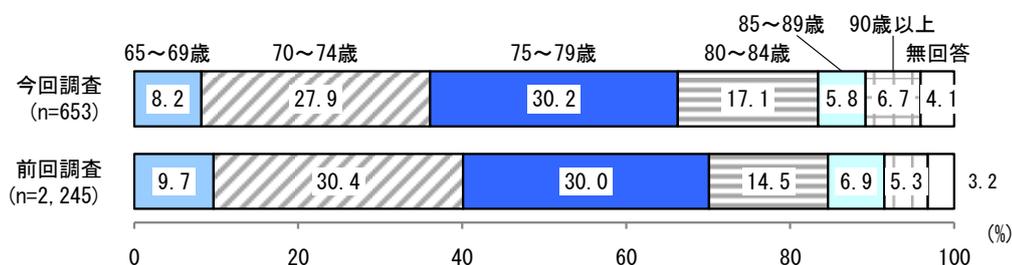
【図1-9-1 年齢別 働いている主な理由】



(10) 何歳まで働きたいか

問1Q5-3 Q5で「はい（仕事をしている）」と回答した方にお聞きします。
何歳まで働きたいですか。〈〇は1つ〉

【図1-10 何歳まで働きたいか】

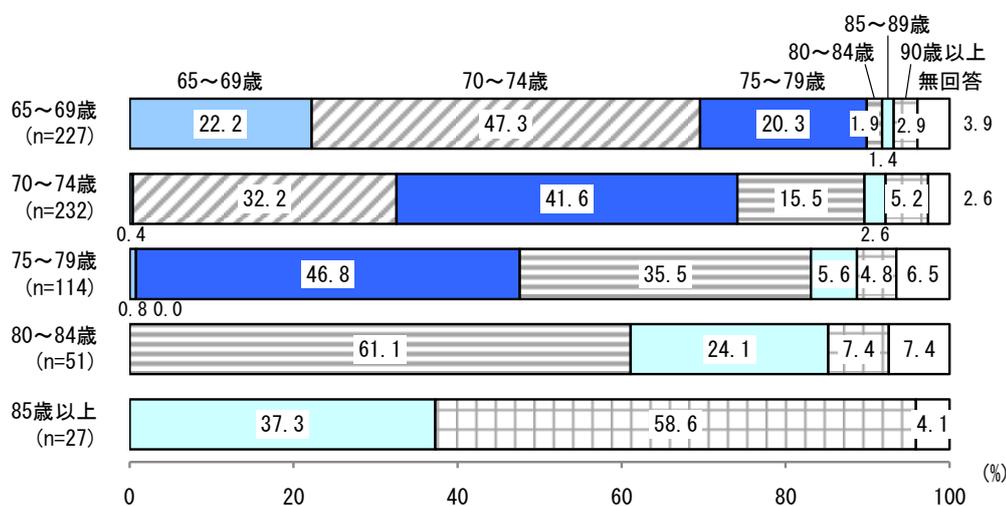


仕事をしていると回答した人に、何歳まで働きたいかたずねたところ、「75～79歳」が30.2%で最も多く、次いで「70～74歳」が27.9%、「80～84歳」が17.1%となっています。

前回調査と比較すると、「70～74歳」が2.5ポイント低くなっていますが、「80～84歳」は2.6ポイント高くなっています。（図1-10）

年齢別でみると、65～69歳の人は「70～74歳」（47.3%）、70～74歳の人は「75～79歳」（41.6%）が、それぞれ最も多くなっています。75歳以降になると、現在の年代が、希望する年代と同じになる傾向がみられます。（図1-10-1）

【図1-10-1 年齢別 何歳まで働きたいか】

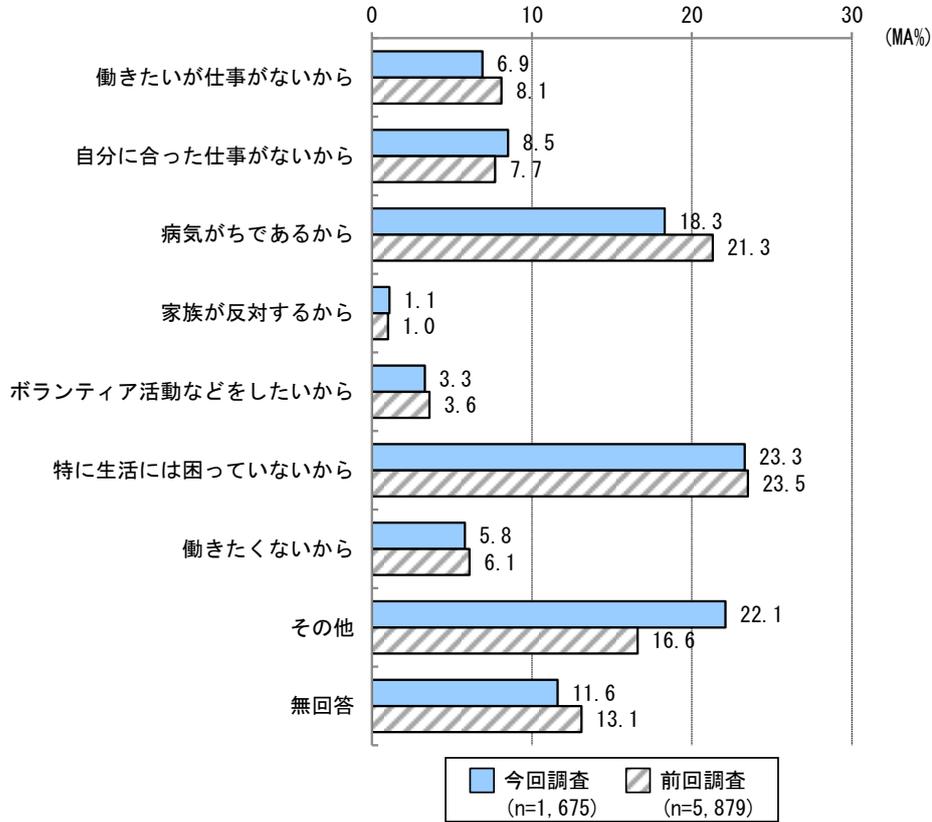


※80～84歳の人及び85歳以上の人は、実年齢より下の回答が0.0%のため省いています。

(11) 働いていない理由

問1Q5-4 Q5で「いいえ（仕事をしていない）」と回答した方にお聞きします。
その主な理由はなんですか。〈〇は1つ〉

【図1-11 働いていない理由】

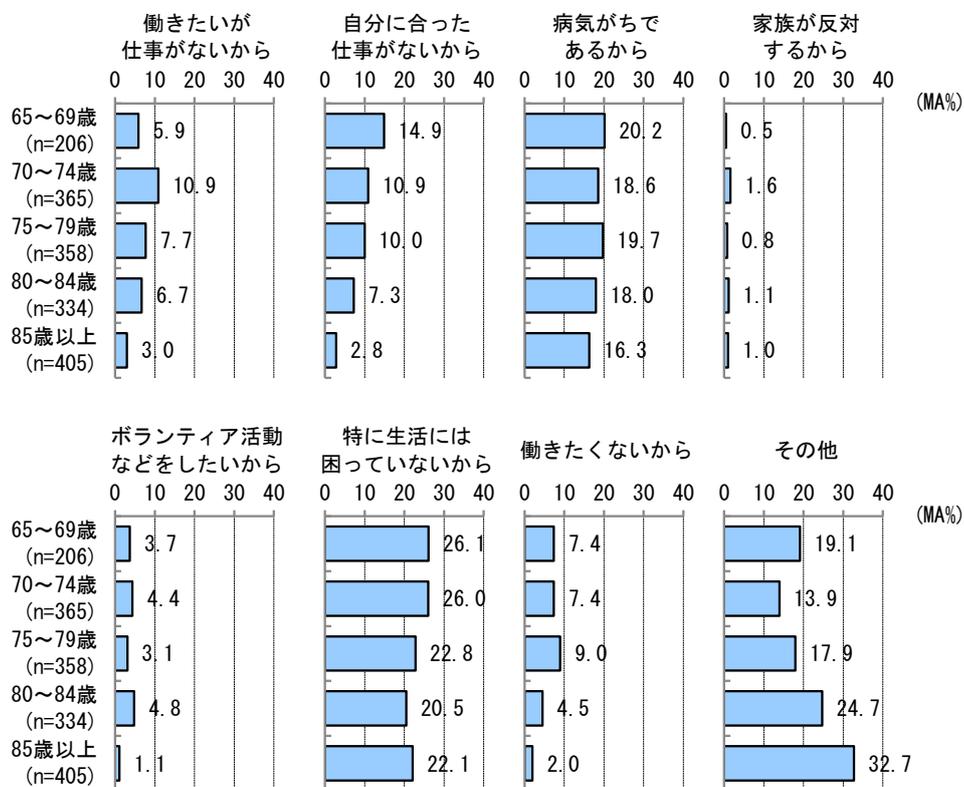


※複数回答をすべて有効としています。

仕事をしていないと回答した人に、働いていない理由をたずねたところ、「特に生活には困っていないから」が23.3%で最も多く、次いで「病気がちであるから」が18.3%となっており、「その他」(22.1%)では「高齢のため」等の理由が多く挙がっています。(図1-11)

年齢別でみると、「働きたいが、仕事がないから」では、70～74歳が10.9%となっています。「自分に合った仕事がないから」では、65～69歳が14.9%、70～74歳が10.9%、75～79歳が10.0%となっています。(図1-11-1)

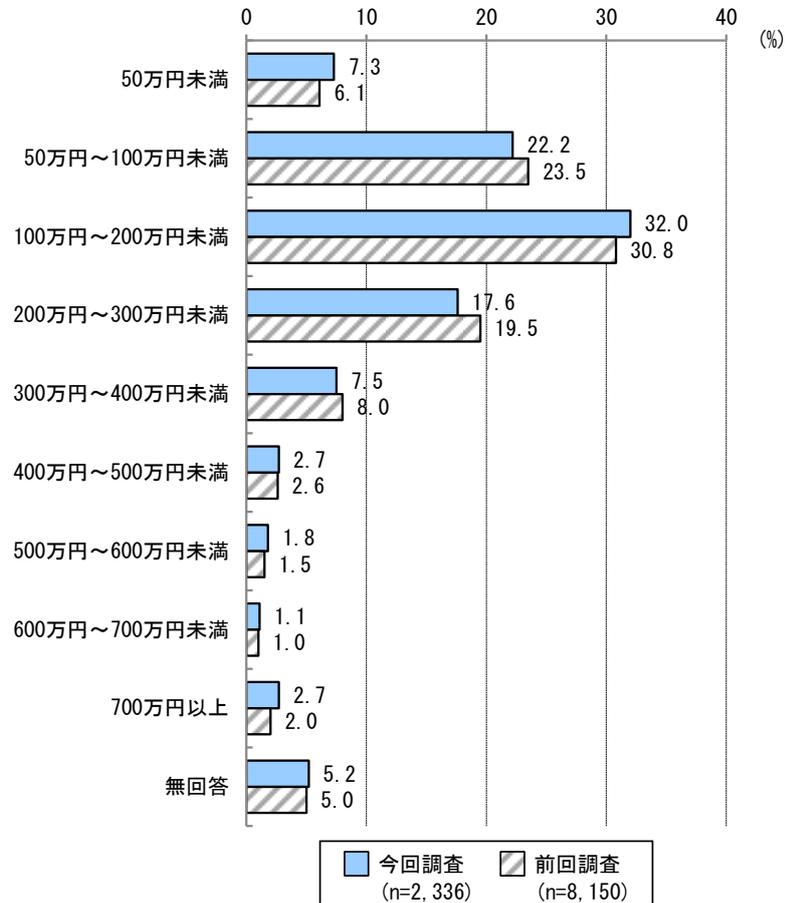
【図1-11-1 年齢別 働いていない理由】



(12) 個人の年間総収入

問1Q6 あなたの個人の年間総収入（年金収入を含む。税込。）はどのくらいですか。
<〇は1つ>

【図1-12 個人の年間総収入】

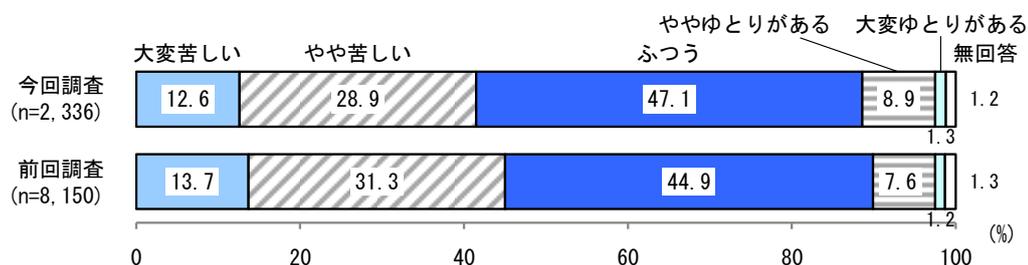


個人の年間総収入については、「100万円～200万円未満」が32.0%で最も多く、次いで「50万円～100万円未満」が22.2%、「200万円～300万円未満」が17.6%となっています。
前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図1-12）

(13) 経済状況

問1 Q7 あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。〈○は1つ〉

【図1-13 経済状況】

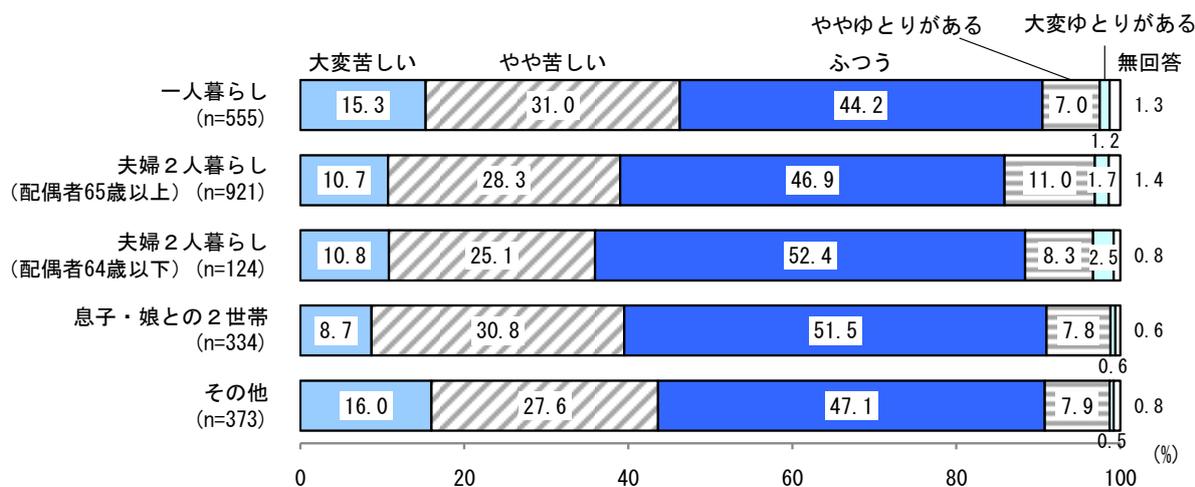


経済的にみた現在の暮らしの状況については、「ふつう」が47.1%で最も多く、次いで「やや苦しい」が28.9%、「大変苦しい」が12.6%となっており、両者を合わせた『苦しい』割合は41.5%となっています。

前回調査と比較すると、『苦しい』割合が3.5ポイント低くなっています。(図1-13)

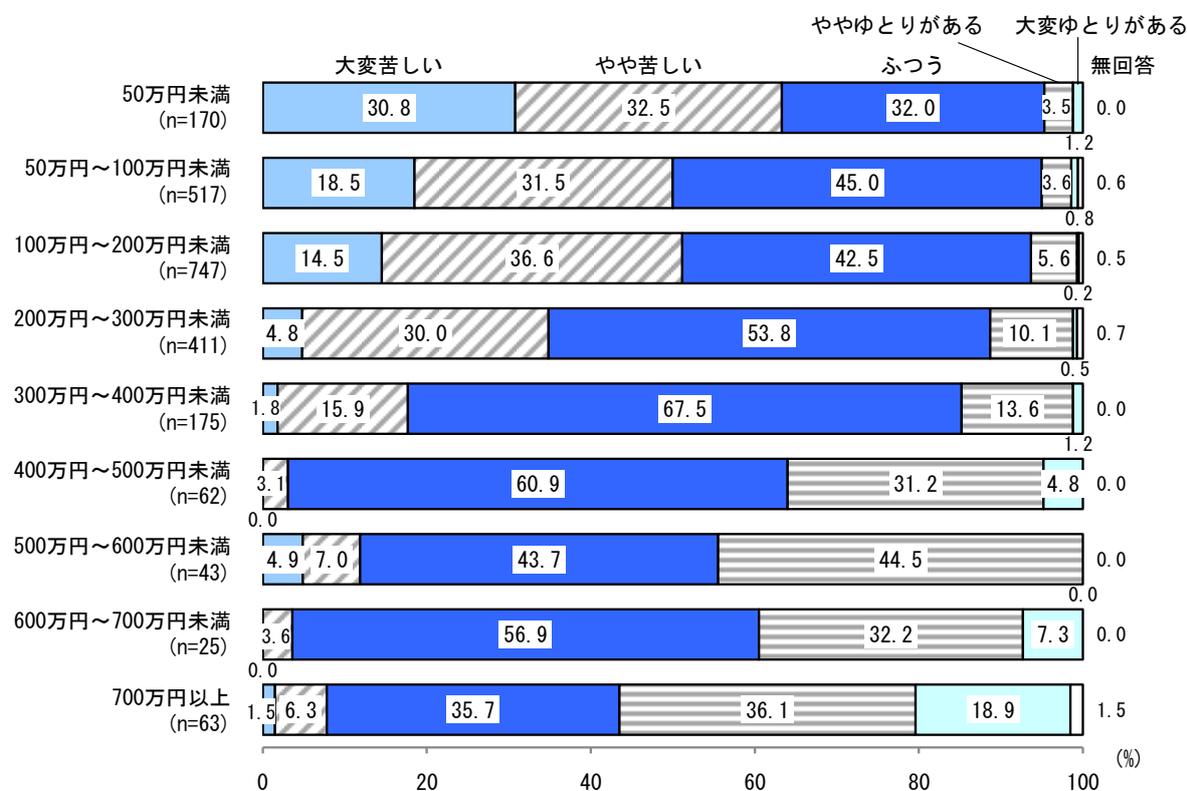
家族構成別でみると、『苦しい』割合は、一人暮らし世帯が46.3%で最も高くなっています。(図1-13-1)

【図1-13-1 家族構成別 経済状況】



個人の年間総収入別で見ると、200万円未満の各世帯が『苦しい』で5割以上を占めています。
(図1-13-2)

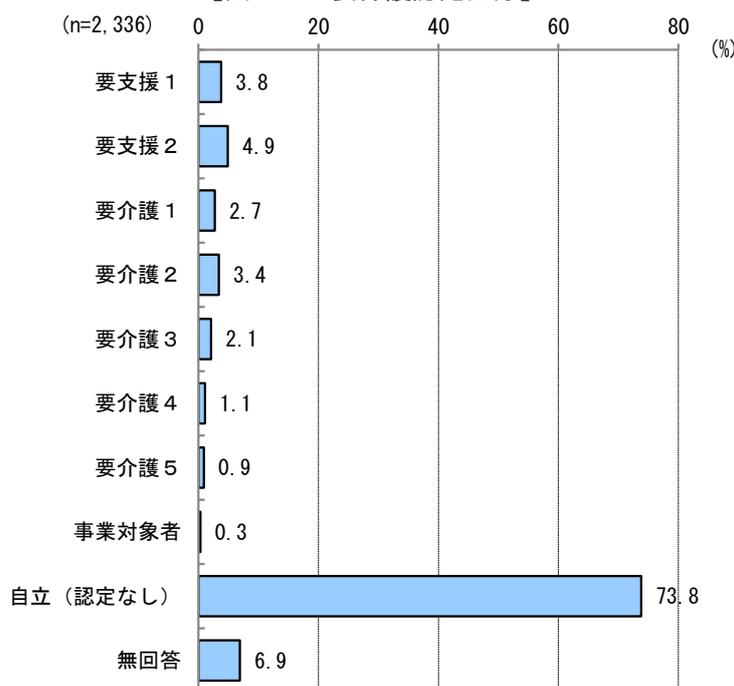
【図1-13-2 個人の年間総収入別 経済状況】



(14) 要介護認定区分

問1 Q8 あなたの要介護認定区分は次のどれにあてはまりますか。〈○は1つ〉

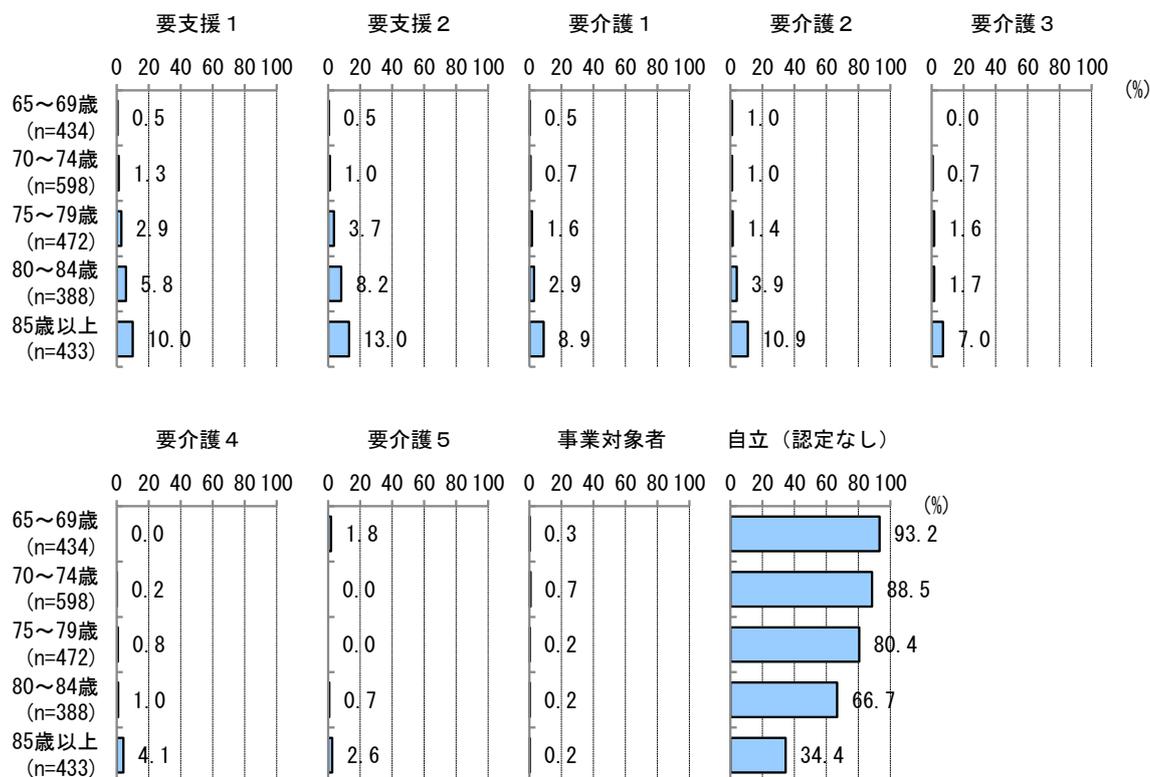
【図1-14 要介護認定区分】



回答者の要介護度については、「自立 (認定なし)」が73.8%で最も多く、次いで「要支援2」が4.9%、「要支援1」が3.8%となっています。(図1-14)

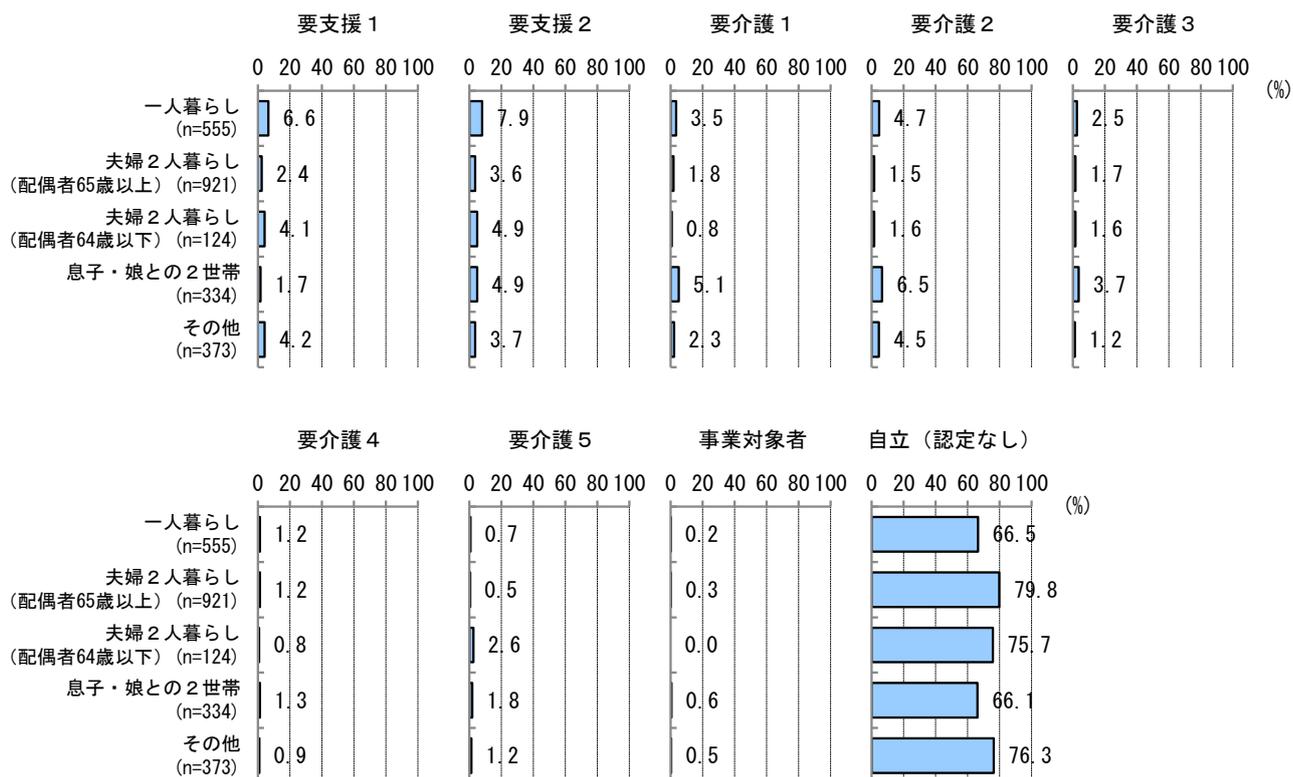
年齢別でみると、『要支援1・2』及び『要介護1～5』では、85歳以上の割合が最も高くなっています。(図1-14-1)

【図1-14-1 年齢別 要介護認定区分】



家族構成別でみると、『要支援1・2』は一人暮らし世帯、『要介護1～4』は息子・娘との2世帯、「要介護5」は夫婦2人暮らし世帯(配偶者64歳以下)が、それぞれ最も高い割合になっています。(図1-14-2)

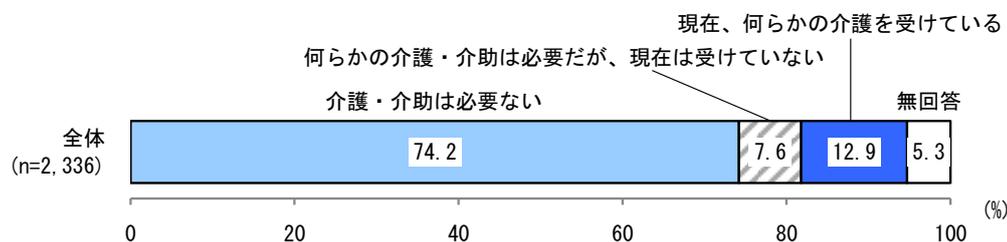
【図1-14-2 家族構成別 要介護認定区分】



(15) 介護・介助の必要性の有無

問1Q9 あなたは普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。〈○は1つ〉

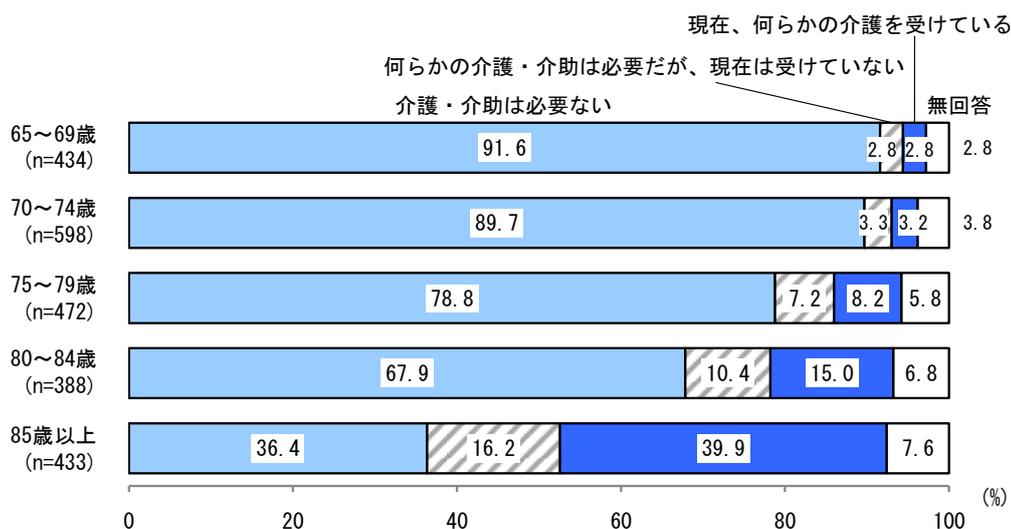
【図1-15 介護・介助の必要性の有無】



介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が74.2%で最も多く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が12.9%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が7.6%となっています。(図1-15)

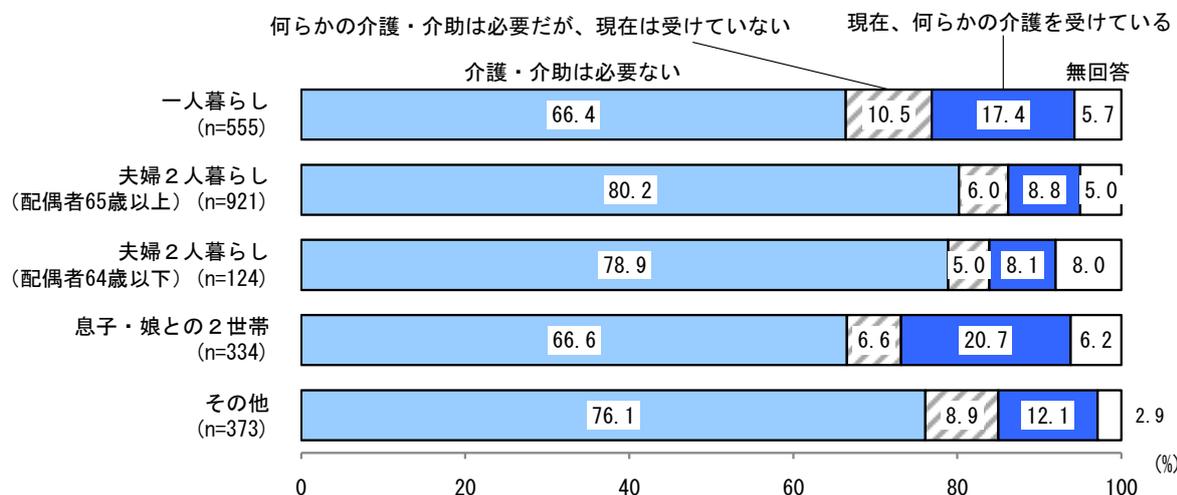
年齢別でみると、介護・介助を必要とする割合は、高齢になるほど高くなっています。なお、85歳以上では「現在、何らかの介護を受けている」が39.9%と高い割合になっています。(図1-15-1)

【図1-15-1 年齢別 介護・介助の必要性の有無】



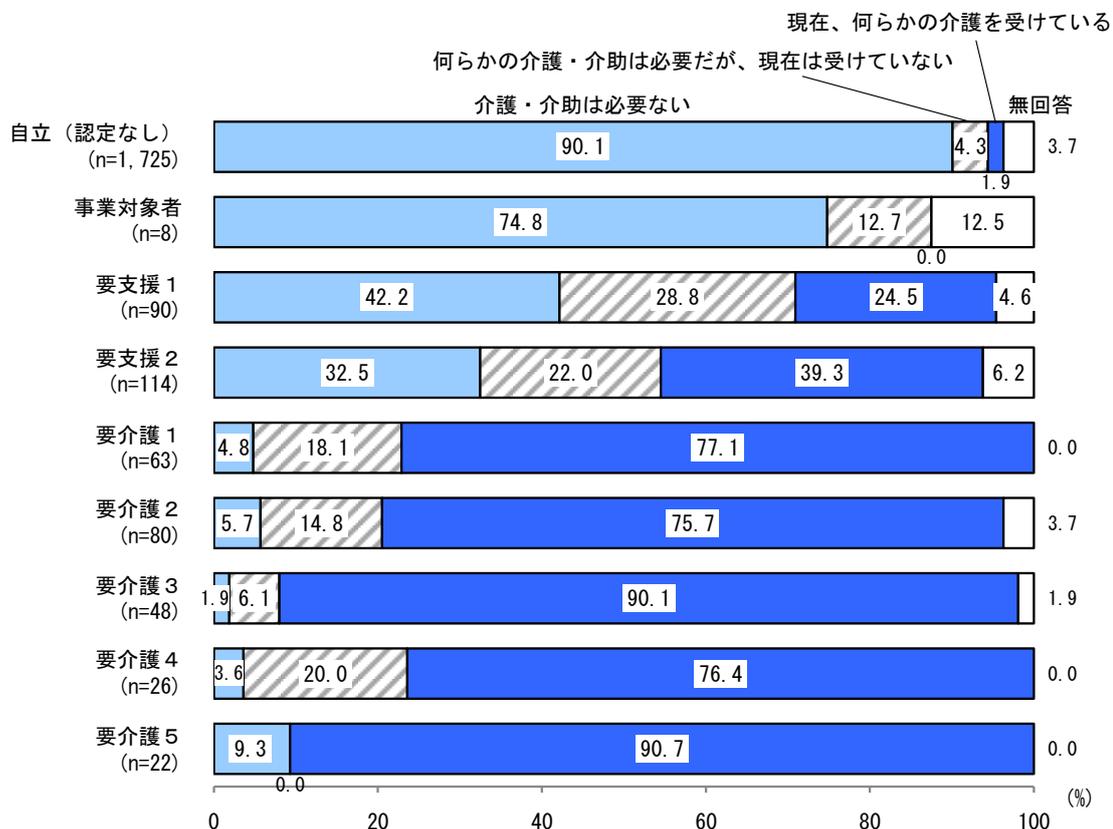
家族構成別でみると、「現在、何らかの介護を受けている」割合では、息子・娘との2世帯が20.7%で最も高く、次いで一人暮らし世帯が17.4%となっています。また、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は、一人暮らし世帯が10.5%と他の世帯より高い割合となっています。(図1-15-2)

【図1-15-2 家族構成別 介護・介助の必要性の有無】



要介護認定区分別でみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」割合は、要支援1が28.8%で最も高く、次いで要支援2が22.0%、要介護4が20.0%となっています。(図1-15-3)

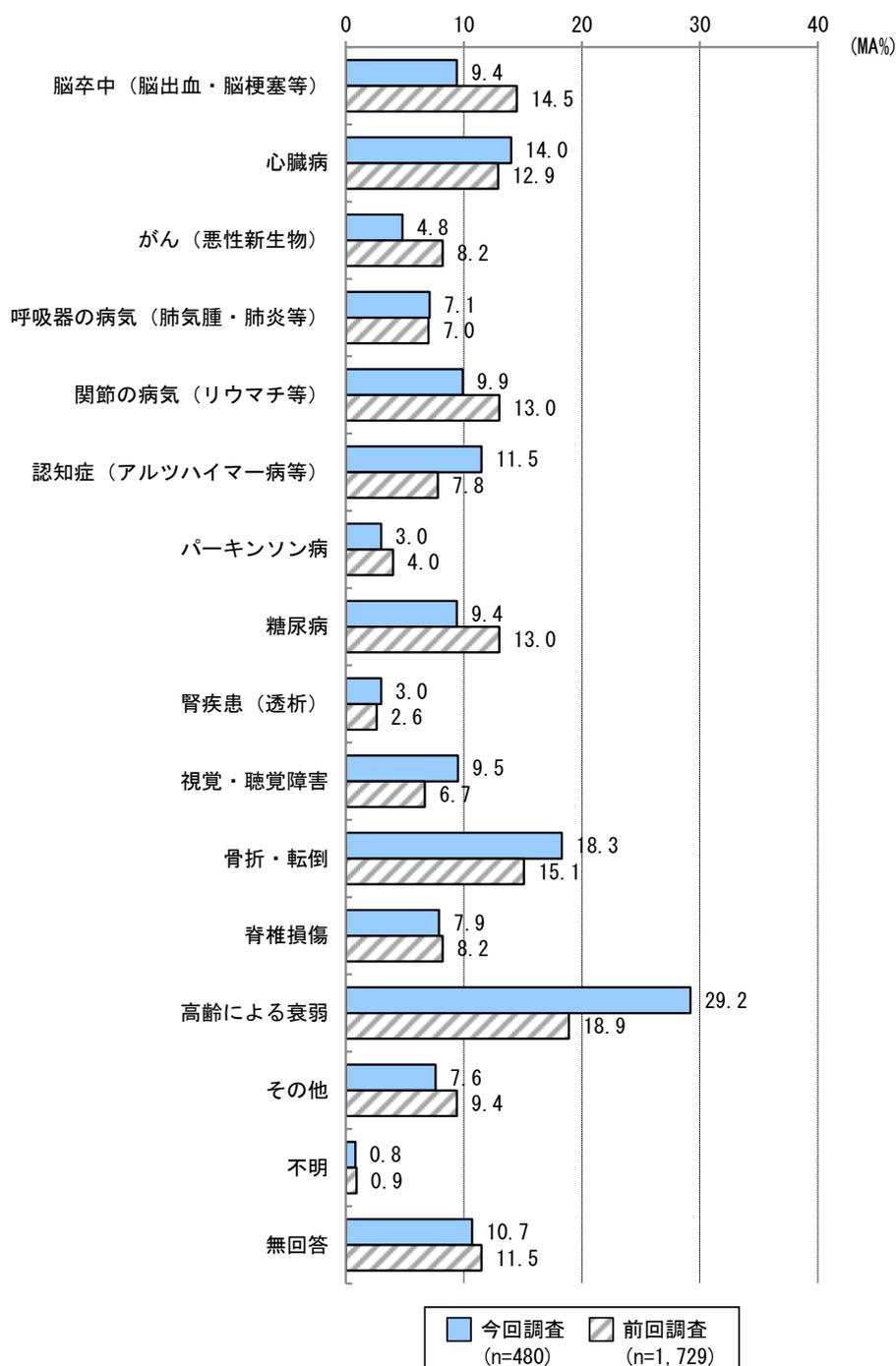
【図1-15-3 要介護認定区分別 介護・介助の必要性の有無】



(16) 介護・介助が必要になった原因

問1 Q9-1 Q9で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」又は、「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお聞きします。
 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図1-16 介護・介助が必要になった原因】

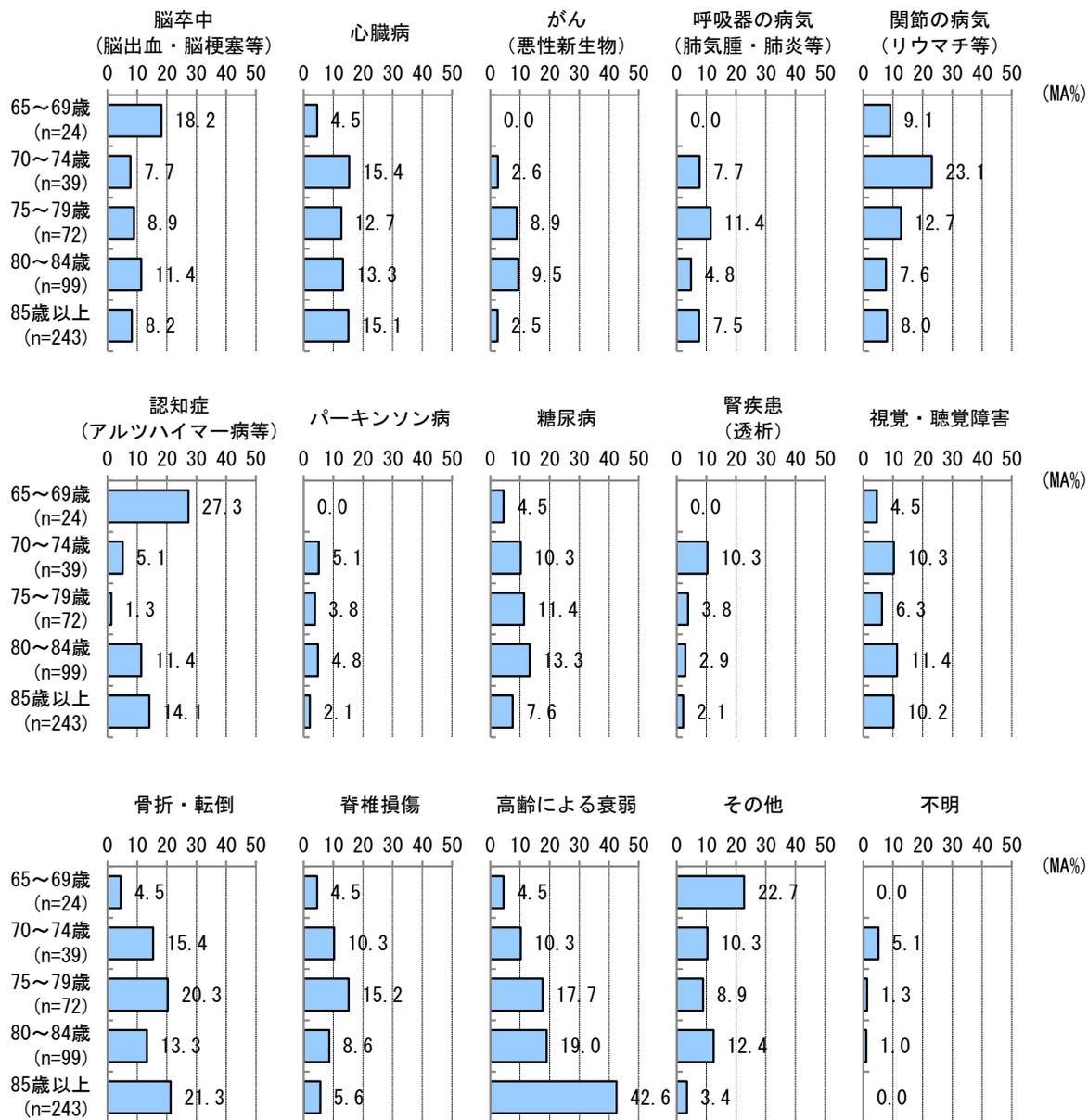


何らかの介護・介助が必要と回答した人に、必要となった原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」が29.2%で最も多く、次いで「骨折・転倒」が18.3%、「心臓病」が14.0%となっています。

前回調査と比較すると、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が5.1ポイント低くなっていますが、「高齢による衰弱」は10.3ポイント高くなっています。（図1-16）

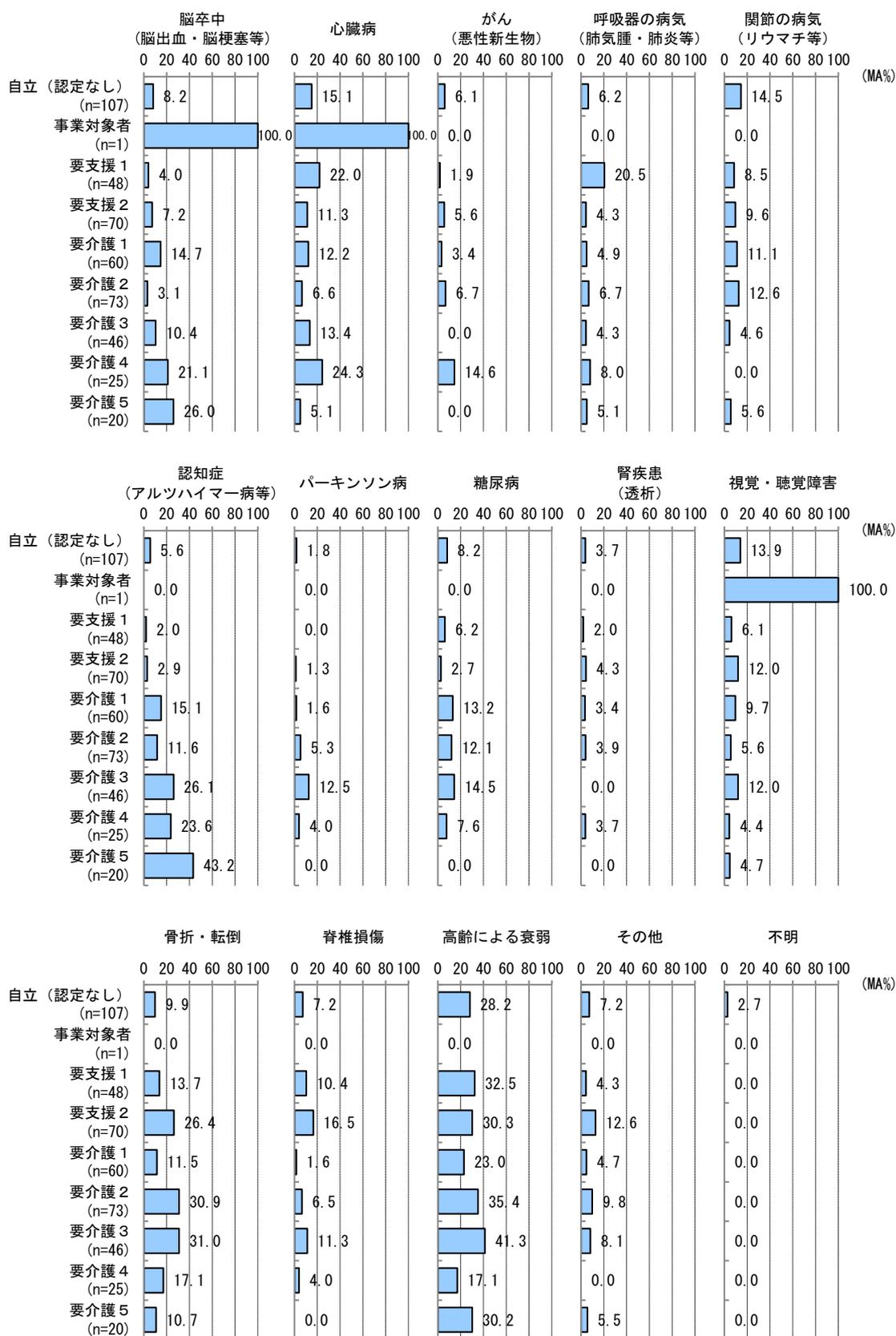
年齢別でみると、65～69歳は「認知症（アルツハイマー病等）」（27.3%）、70～74歳は「関節の病気（リウマチ等）」（23.1%）、75～79歳は「骨折・転倒」（20.3%）、80歳以降では「高齢による衰弱」（80～84歳 19.0%、85歳以上 42.6%）が、それぞれ最も多くなっています。（図1-16-1）

【図1-16-1 年齢別 介護・介助が必要になった原因】



要介護認定区分別でみると、「高齢による衰弱」の他に、要支援1は「心臓病」や「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」、要支援2や要介護2・3は「骨折・転倒」、要介護3以上になると「認知症（アルツハイマー病等）」、要介護4は「心臓病」及び要介護4・5では「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が、それぞれ2割以上と高い割合になっています。（図1-16-2）

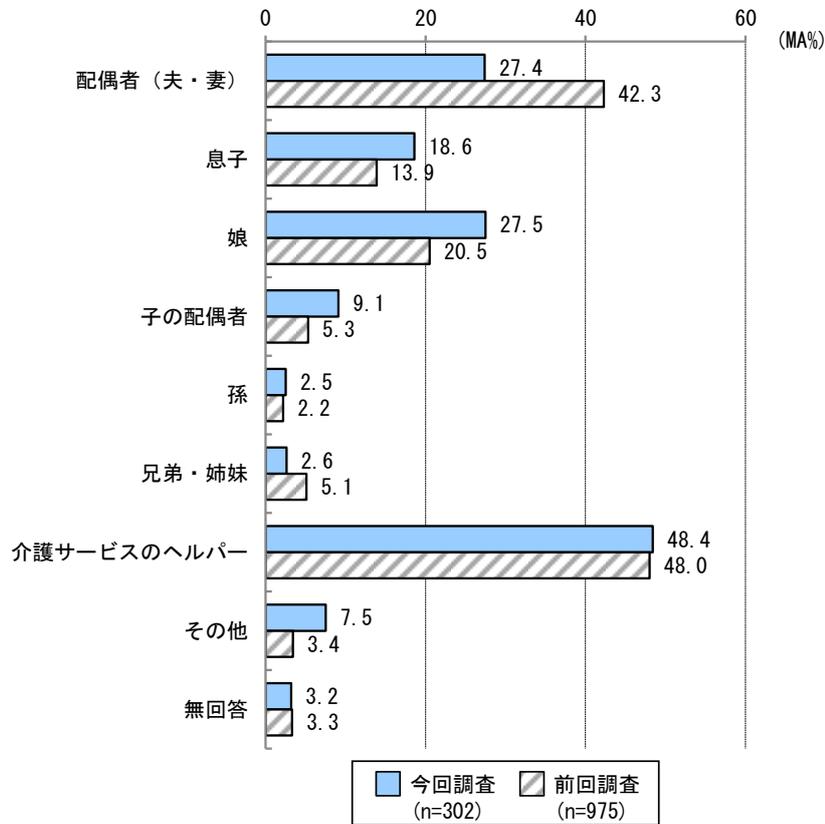
【図1-16-2 要介護認定区分別 介護・介助が必要になった原因】



(17) 主な介護者・介助者

問1 Q9-2 Q9で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお聞きします。
主にどなたの介護・介助を受けていますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図1-17 主な介護者・介助者】

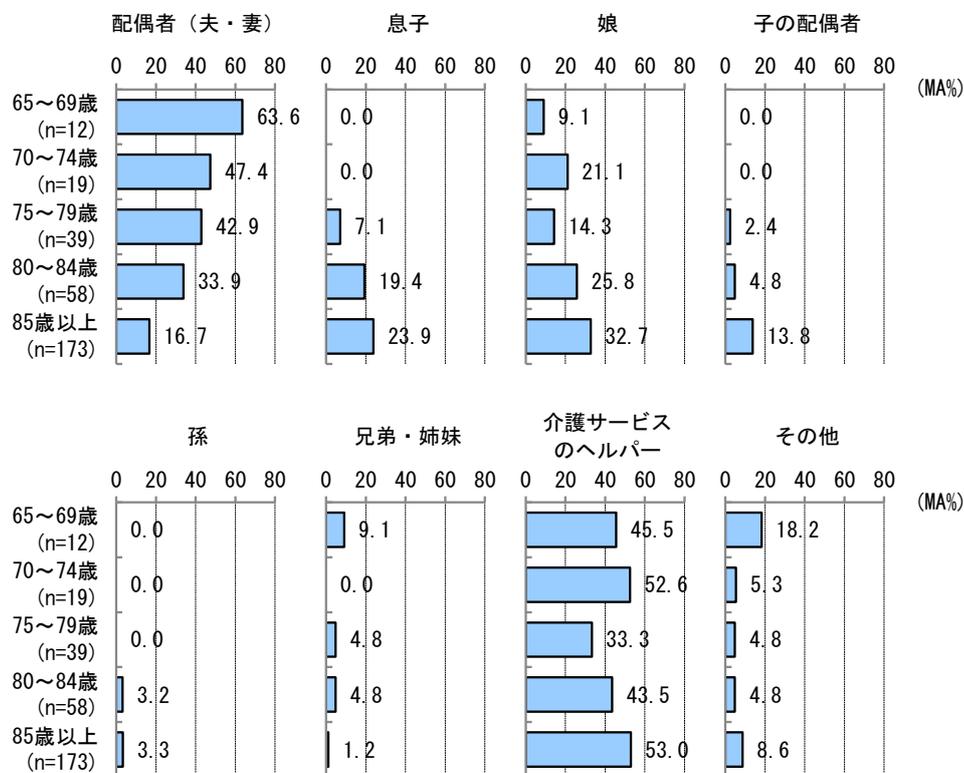


現在、何らかの介護を受けていると回答した人に、主な介護者・介助者をたずねたところ、「介護サービスのヘルパー」が48.4%で最も多く、次いで「娘」が27.5%、「配偶者 (夫・妻)」が27.4%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者 (夫・妻)」が14.9ポイント低くなっていますが、「娘」は7.0ポイント、「息子」は4.7ポイント、「子の配偶者」は3.8ポイント高くなっています。(図1-17)

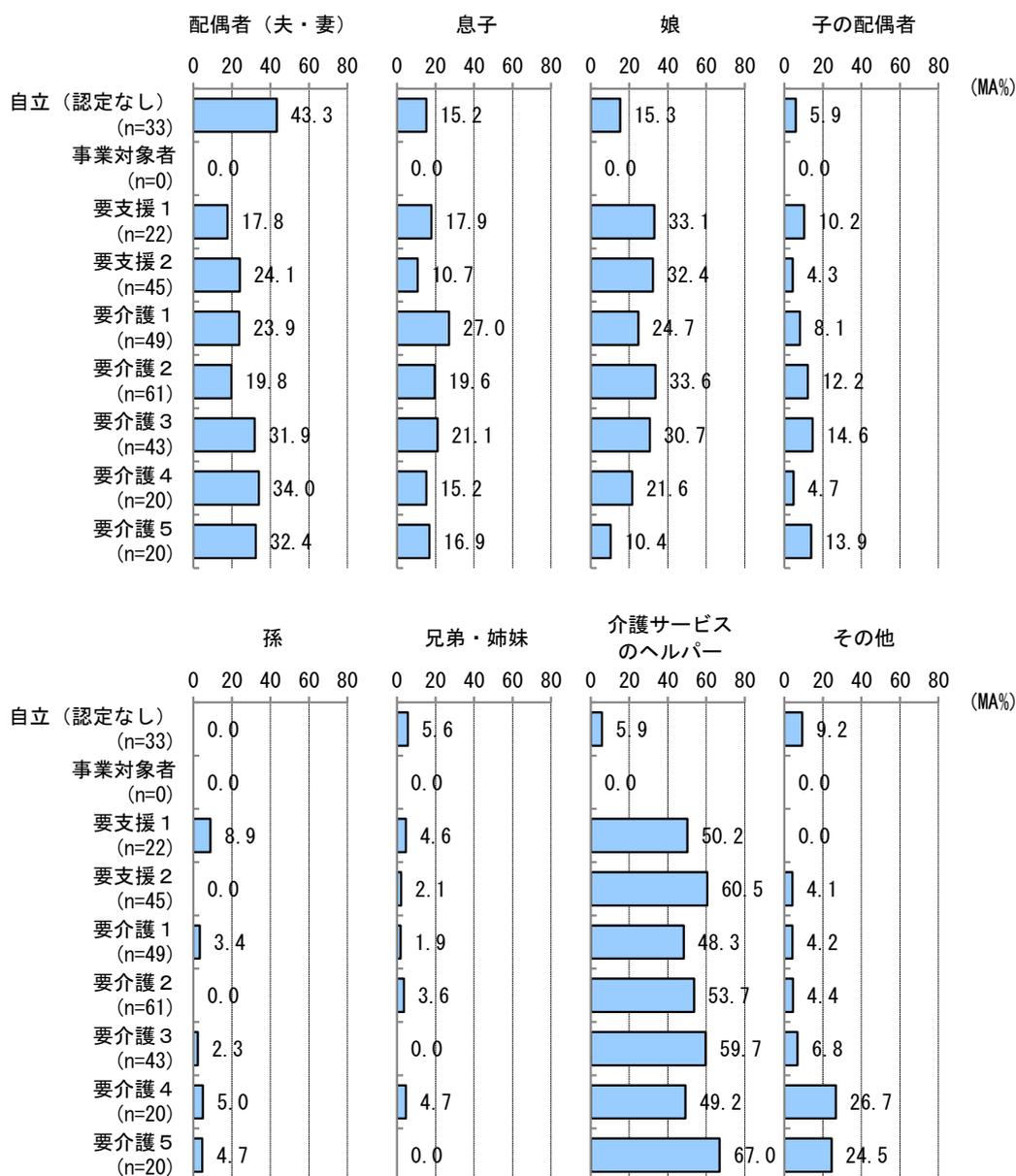
年齢別でみると、高齢になるほど、「配偶者（夫・妻）」の割合は低くなりますが、「娘」の割合が高くなる傾向がみられます。また、75歳以降になると「息子」と「子の配偶者」の割合が上昇する傾向がみられます。（図1-17-1）

【図1-17-1 年齢別 主な介護者・介助者】



要介護認定区分別でみると、認定者では「介護サービスのヘルパー」の他に、要支援1・2及び要介護2は「娘」が多く、要介護1は「配偶者(夫・妻)」「息子」「娘」が、要介護3は「配偶者(夫・妻)」と「娘」がほぼ横並びになっており、要介護4・5では「配偶者(夫・妻)」が多い傾向がみられます。(図1-17-2)

【図1-17-2 要介護認定区分別 主な介護者・介助者】



2 運動について

(1) 運動器の機能低下リスク

① 設問と評価

介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、高齢者の運動機能に関してリスク判定をしています。

具体的には、今回の調査票に含まれる以下の設問5問中3問以上に該当した場合に運動器の機能低下の「リスクあり」に該当します。

表 運動器に関する設問（基本チェックリスト）

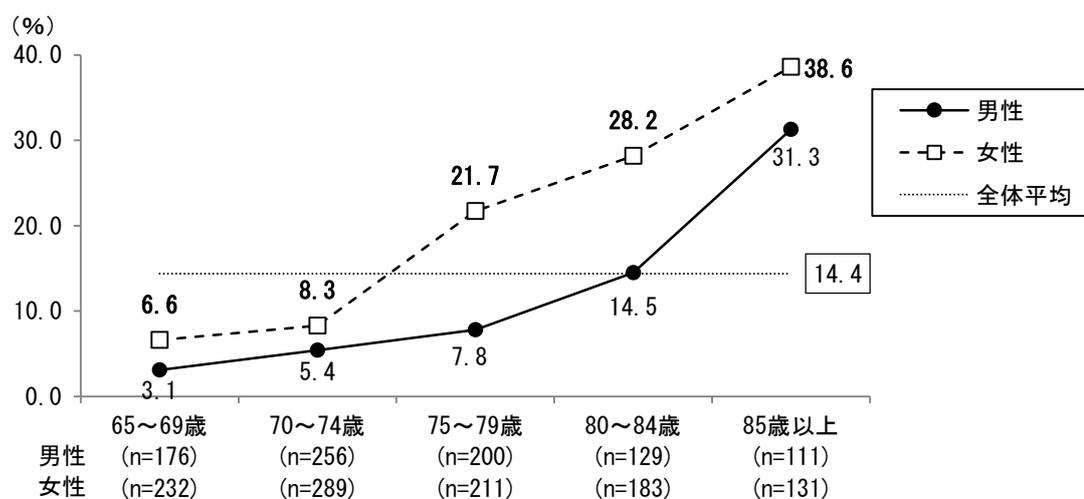
問番号	設問	該当する選択肢
問2Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「できない」
問2Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「できない」
問2Q3	15分位続けて歩いていますか	「できない」
問3Q1	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」「一度ある」
問3Q2	転倒に対する不安は大きいですか	「とても不安である」「やや不安である」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で14.4%となっています。

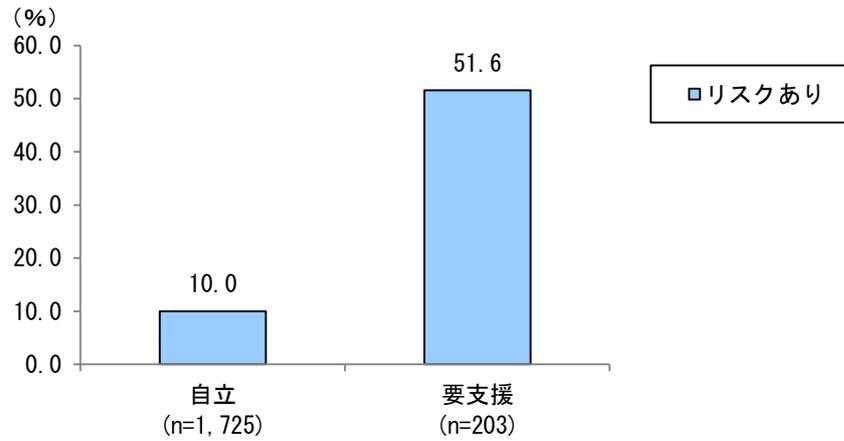
性・年齢別でみると、すべての年代で女性が男性より高い割合になっています。また、女性は75～79歳を境に、割合が大幅に上昇する傾向がみられます。（図2-1-1）

【図2-1-1 性・年齢別 運動器の機能低下リスクあり割合】



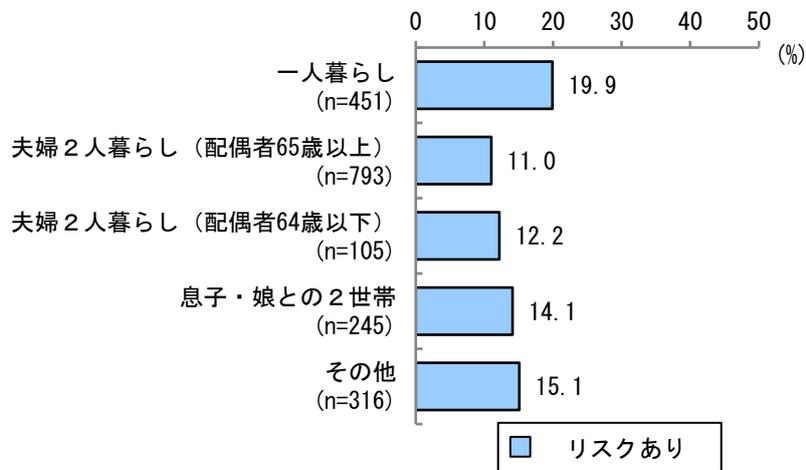
自立・要支援別で見ると、自立が10.0%に対し、要支援者が51.6%と高くなっています。(図2-1-2)

【図2-1-2 自立・要支援別 運動器の機能低下リスクあり割合】



家族構成別で見ると、一人暮らし世帯が19.9%で最も高く、他の世帯より約5ポイント以上高い割合になっています。(図2-1-3)

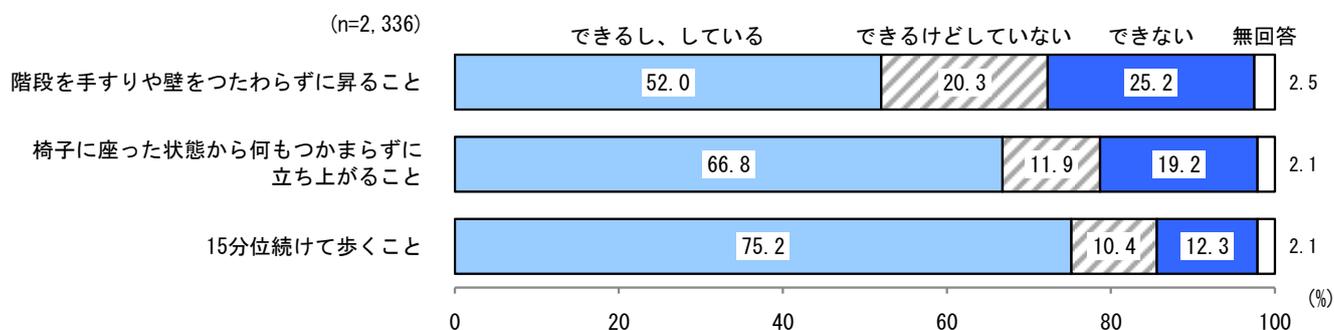
【図2-1-3 家族構成別 運動器の機能低下リスクあり割合】



③ 運動器の機能低下リスク判定に関する項目の回答状況

- 問2 Q 1 あなたは階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。〈〇は1つ〉
 問2 Q 2 あなたは椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。〈〇は1つ〉
 問2 Q 3 あなたは15分位続けて歩いていますか。〈〇は1つ〉

【図2-2 運動器の機能低下リスク判定に関する項目】



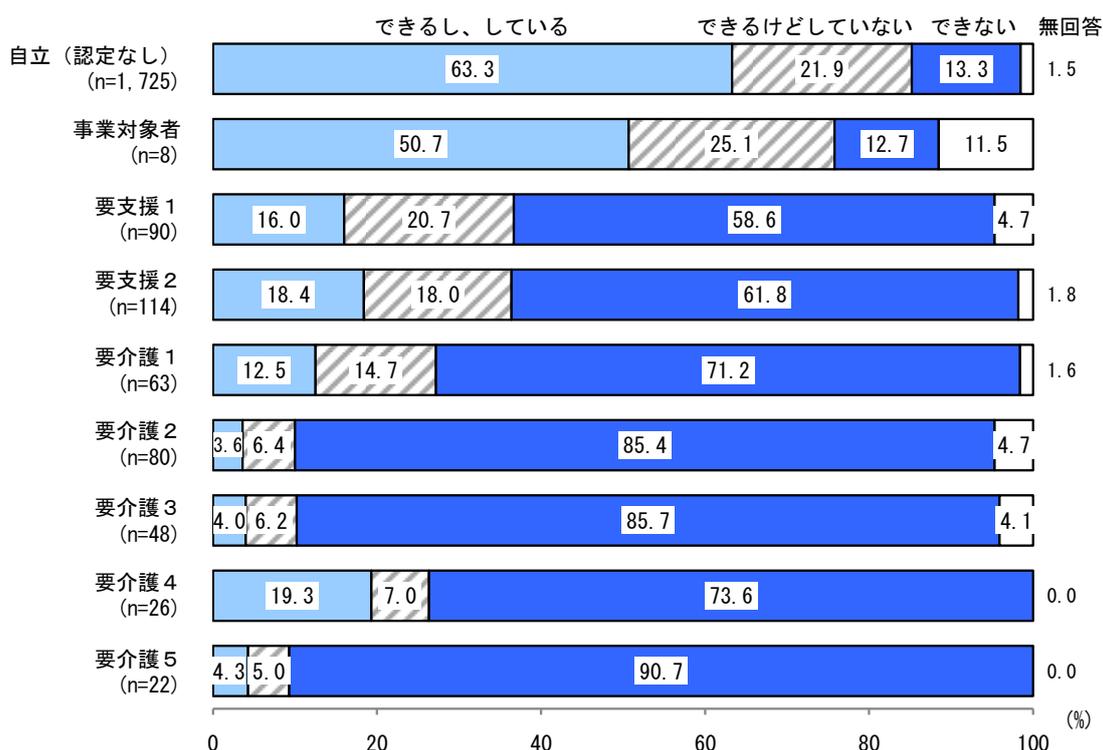
階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が52.0%を占めています。一方、「できない」は25.2%となっています。

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が66.8%を占めています。一方、「できない」は19.2%となっています。

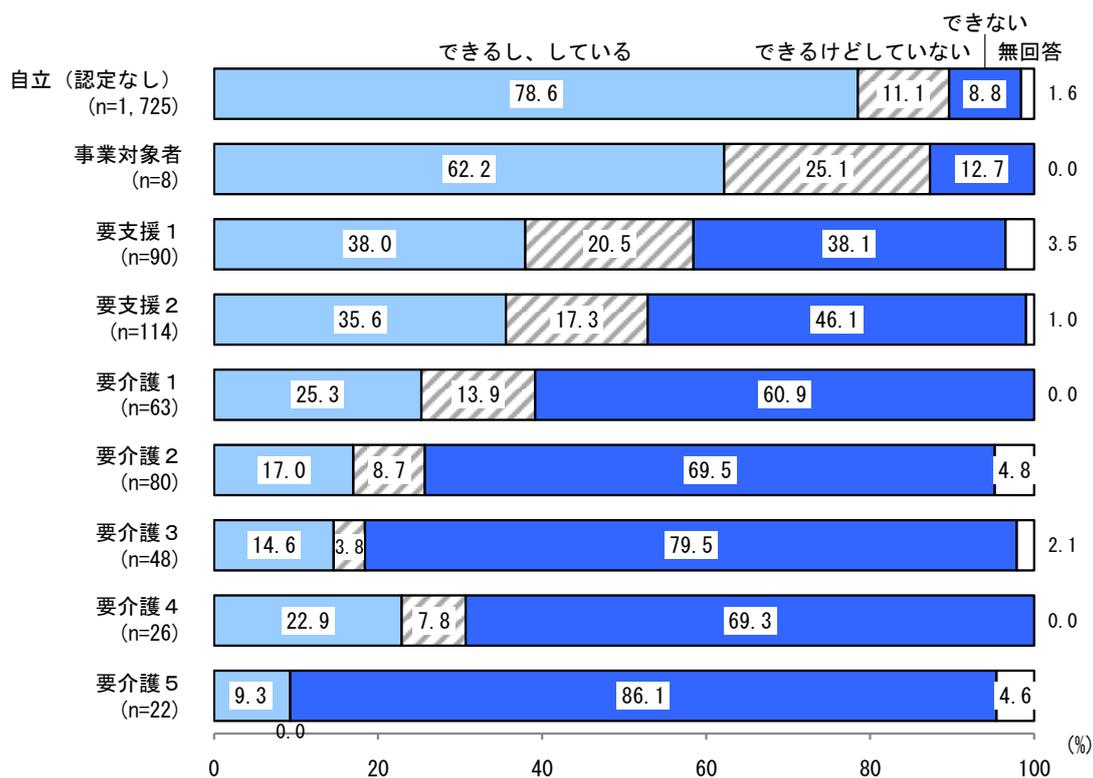
15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が75.2%を占めています。一方、「できない」は12.3%となっています。(図2-2)

要介護認定区分別でみると、要支援1・2では“15分の継続歩行”は「できるし、している」が、“手すりなしの階段の昇降”や“椅子から支えなしの起立”は「できない」が、それぞれ最も多くなっています。要介護1以上となると、3項目とも「できない」が最も多くなっています。(図2-2-1、図2-2-2、図2-2-3)

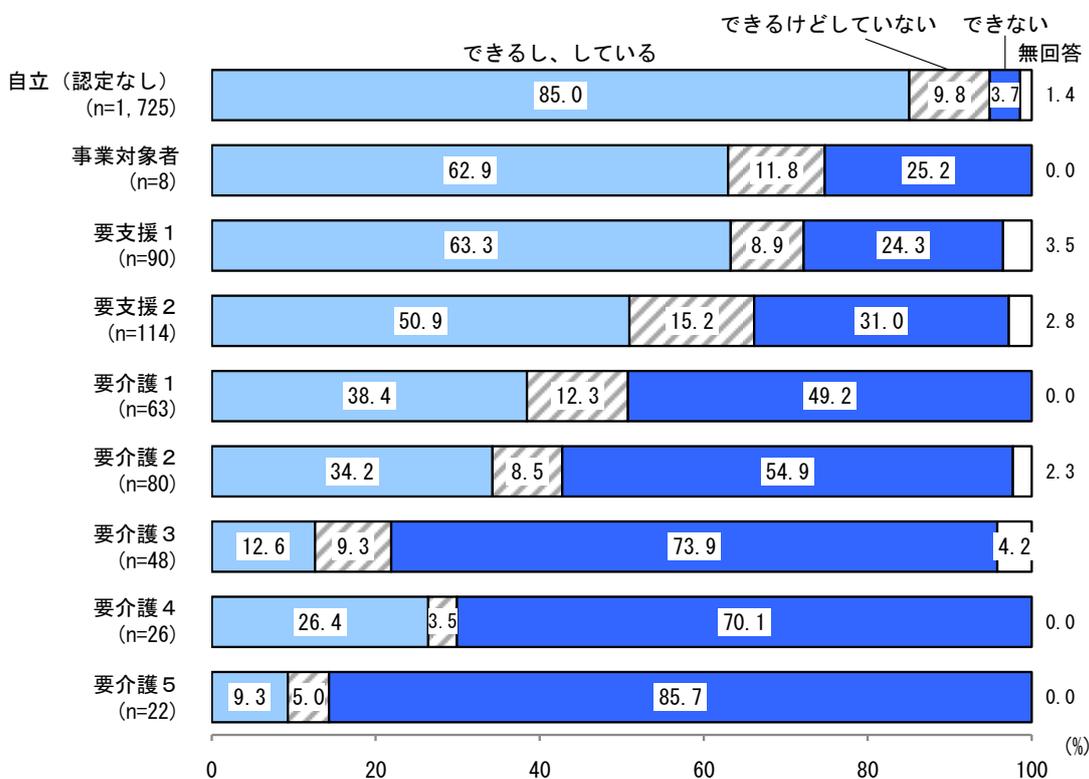
【図2-2-1 要介護認定区分別 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること】



【図2-2-2 要介護認定区分別 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること】



【図2-2-3 要介護認定区分別 15分位続けて歩くこと】



3 外出について

(1) 閉じこもりリスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問2問中2問とも該当した場合に閉じこもりの「リスクあり」に該当します。

表 閉じこもりに関する設問（基本チェックリスト）

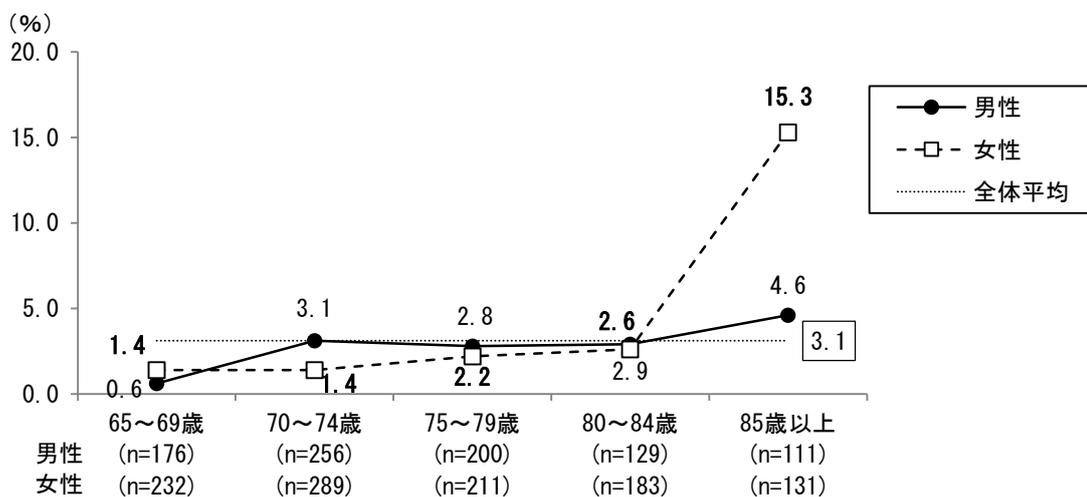
問番号	設問	該当する選択肢
問2Q4	週に1回以上は外出していますか	「ほとんど外出しない」
問2Q5	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「とても減っている」 「減っている」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、閉じこもりの「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で3.1%となっています。

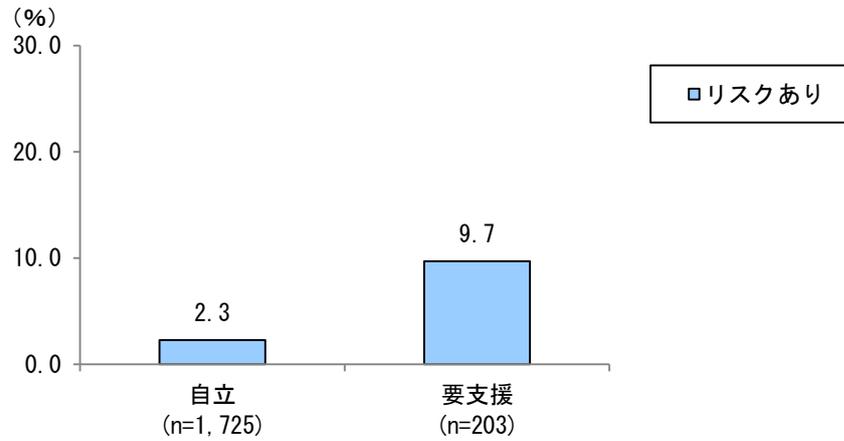
性・年齢別でみると、84歳以下までは、男女に大きな差異はみられませんが、85歳以上になると女性は男性より10.7ポイント高くなっています。（図3-1-1）

【図3-1-1 性・年齢別 閉じこもりリスク】



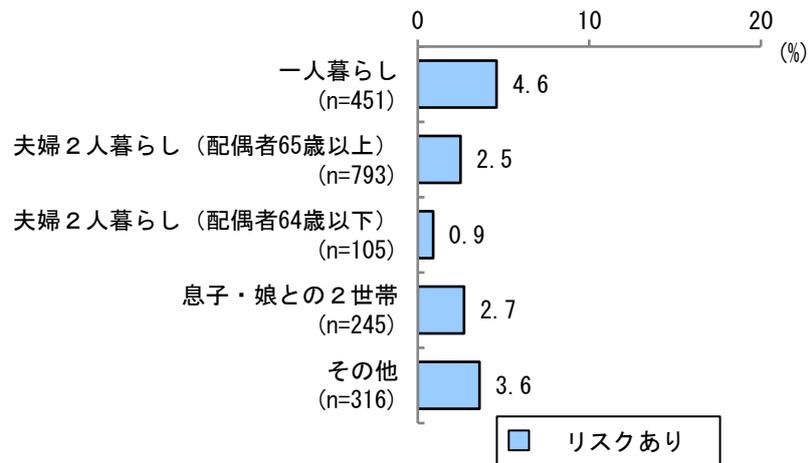
自立・要支援別で見ると、自立が2.3%に対し、要支援者が9.7%と高くなっています。(図3-1-2)

【図3-1-2 自立・要支援別 閉じこもりリスク】



家族構成別で見ると、一人暮らし世帯が4.6%で最も高くなっています。(図3-1-3)

【図3-1-3 家族構成別 閉じこもりリスク】

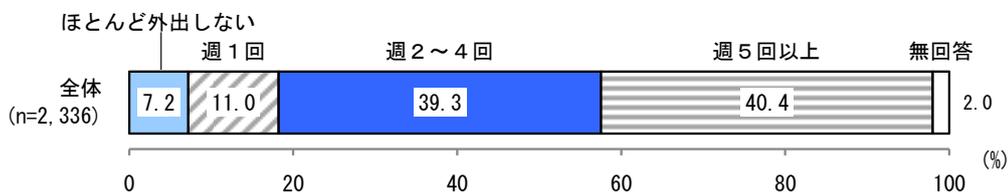


③ 閉じこもりリスク判定に関する項目の回答状況

(ア) 外出頻度

問2 Q4 あなたは週に1回以上は外出していますか。〈〇は1つ〉

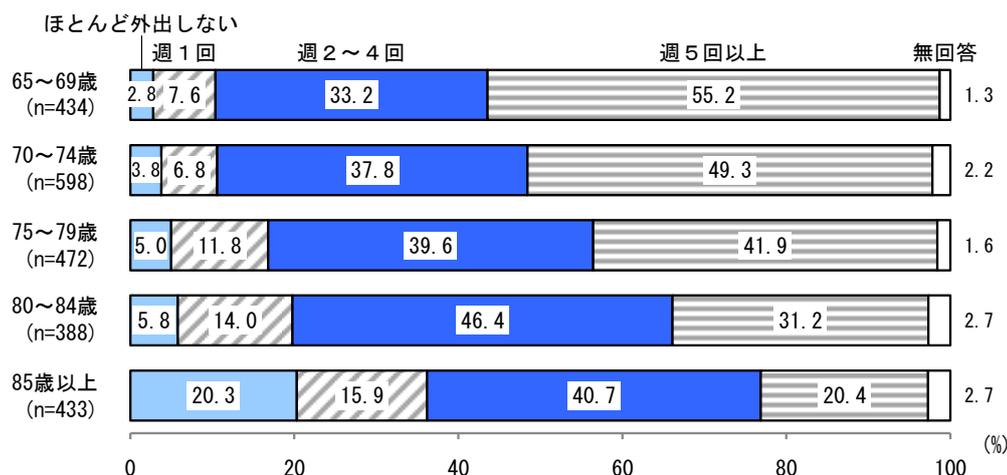
【図3-2 外出頻度】



週1回以上の外出をしているかについては、「週5回以上」が40.4%で最も多く、次いで「週2~4回」が39.3%、「週1回」が11.0%、「ほとんど外出しない」が7.2%となっています。(図3-2)

年齢別でみると、高齢になるほど外出の頻度が減少する傾向がみられます。なお、85歳以上では「ほとんど外出しない」が20.3%と高い割合になっています。(図3-2-1)

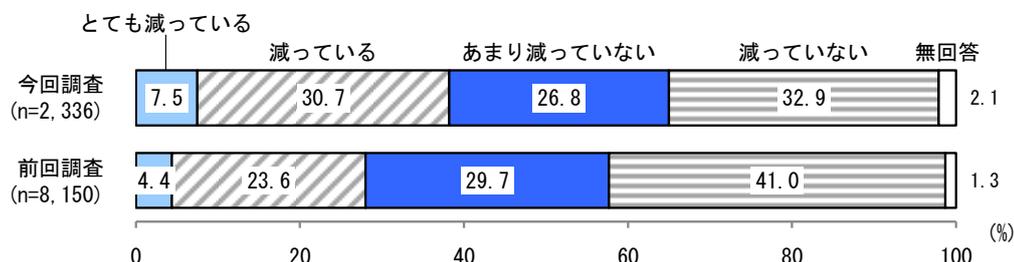
【図3-2-1 年齢別 外出頻度】



(イ) 昨年と比べた外出回数の状況

問2 Q5 あなたは昨年と比べて外出の回数が減っていますか。〈○は1つ〉

【図3-3 昨年と比べた外出回数の状況】

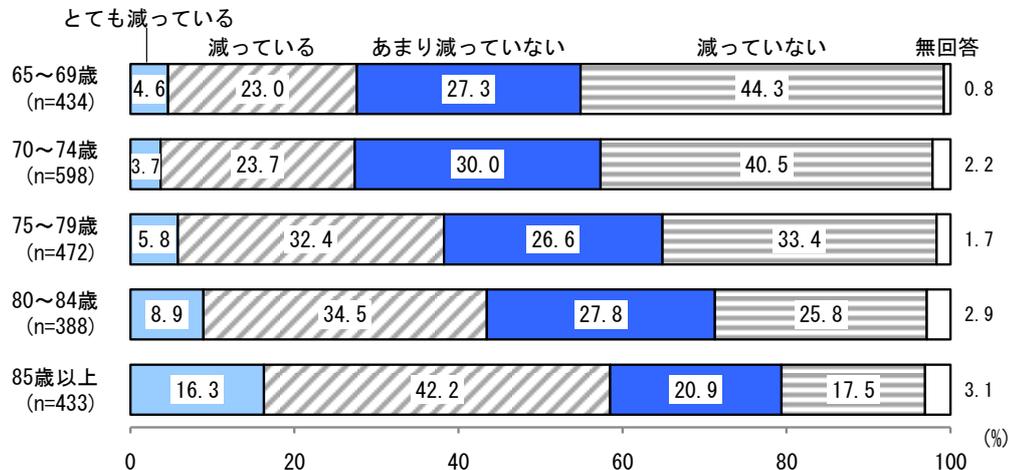


昨年と比べて外出回数が減っているかについては、「減っていない」が32.9%で最も多く、次いで「減っている」が30.7%、「あまり減っていない」が26.8%となっています。

前回調査と比較すると、「とても減っている」が3.1ポイント、「減っている」が7.1ポイント高くなっています。(図3-3)

年齢別で見ると、高齢になるほど、昨年より外出が減った人が多い傾向がみられます。なお、85歳以上では「とても減っている」と「減っている」を合わせると5割以上となります。(図3-3-1)

【図3-3-1 年齢別 昨年と比べた外出回数の状況】



4 転倒について

(1) 転倒リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問に該当した場合に転倒の「リスクあり」に該当します。

表 転倒に関する設問（基本チェックリスト）

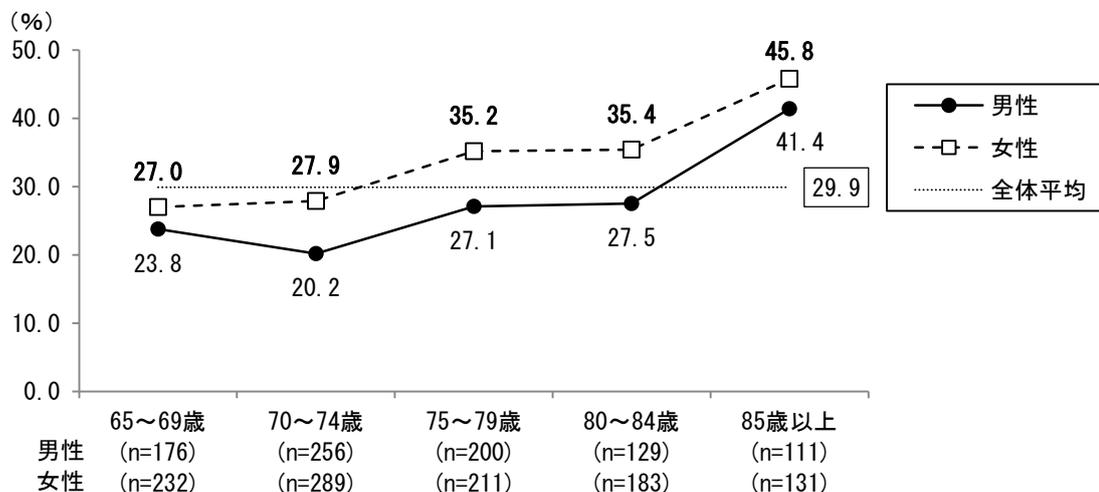
問番号	設問	該当する選択肢
問3Q1	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」「一度ある」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、転倒の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で29.9%となっています。

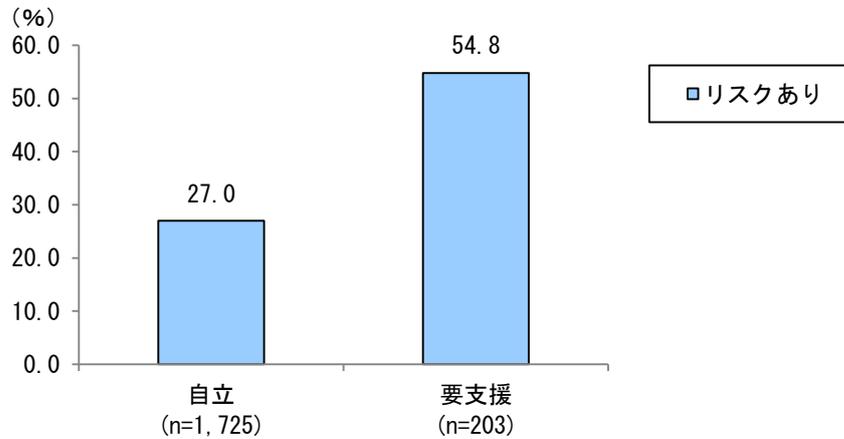
性・年齢別でみると、女性の年代が上がるほど割合も高くなっており、すべての年代で男性より高い割合になっています。（図4-1-1）

【図4-1-1 性・年齢別 転倒リスク】



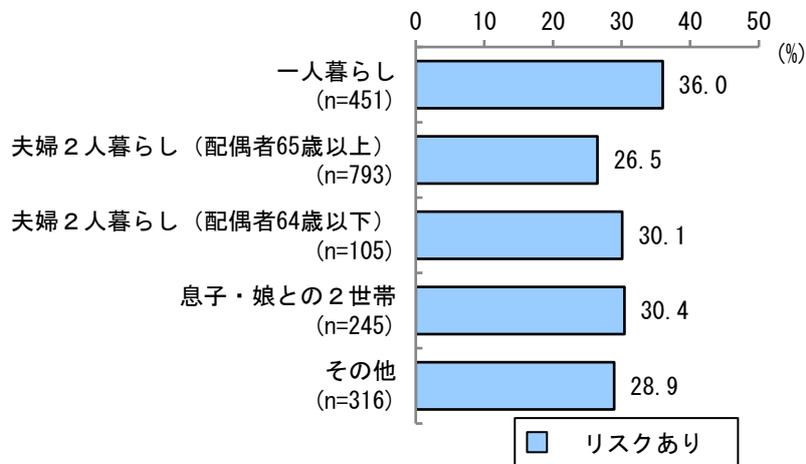
自立・要支援別で見ると、自立が27.0%に対し、要支援者が54.8%と高くなっています。(図4-1-2)

【図4-1-2 自立・要支援別 転倒リスク】



家族構成別で見ると、一人暮らし世帯が36.0%で最も高く、他の世帯に比べて5ポイント以上高い割合になっています。(図4-1-3)

【図4-1-3 家族構成別 転倒リスク】

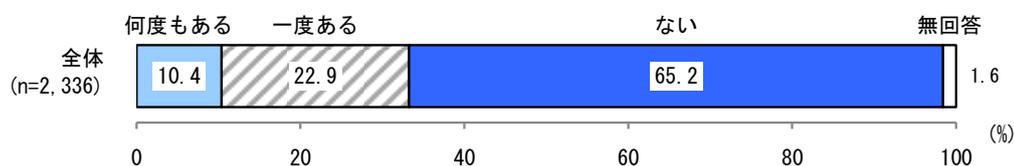


③ 転倒リスク判定に関する項目の回答状況

(ア) 過去1年間に転んだ経験

問3 Q1 あなたは過去1年間に転んだ経験がありますか。〈○は1つ〉

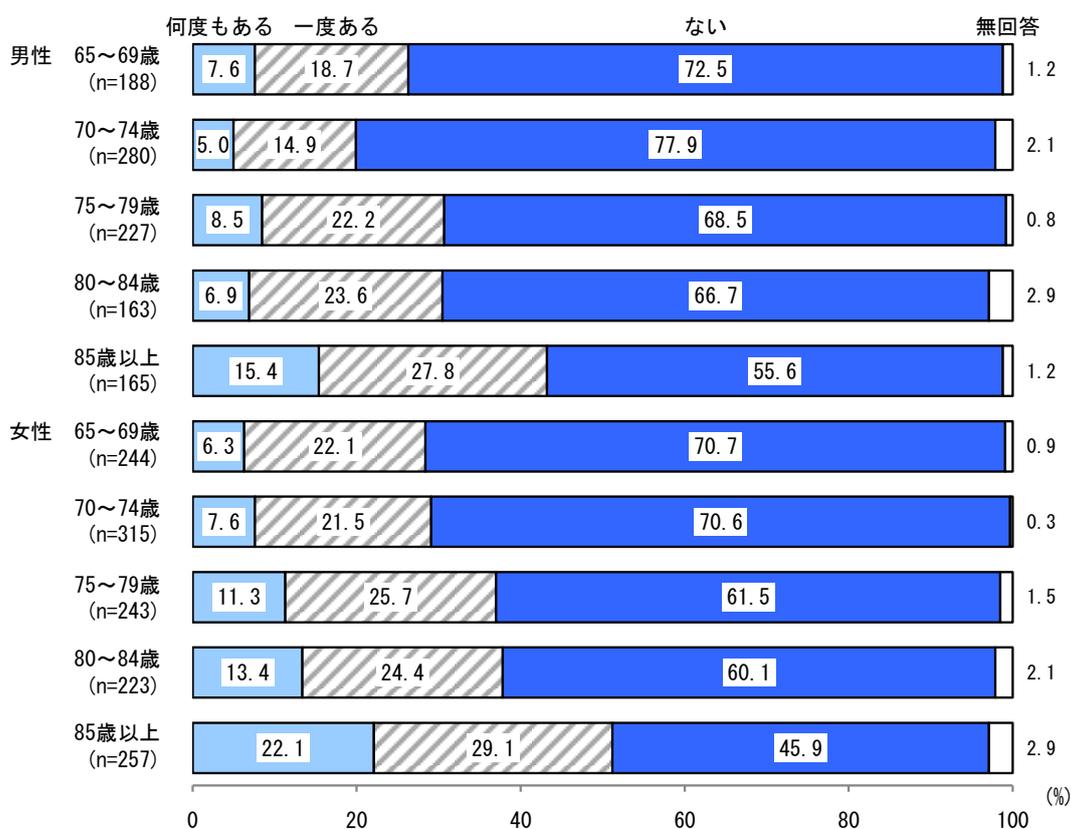
【図4-2 過去1年間に転んだ経験】



過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が65.2%で最も多く、次いで「一度ある」が22.9%、「何度もある」が10.4%となっています。(図4-2)

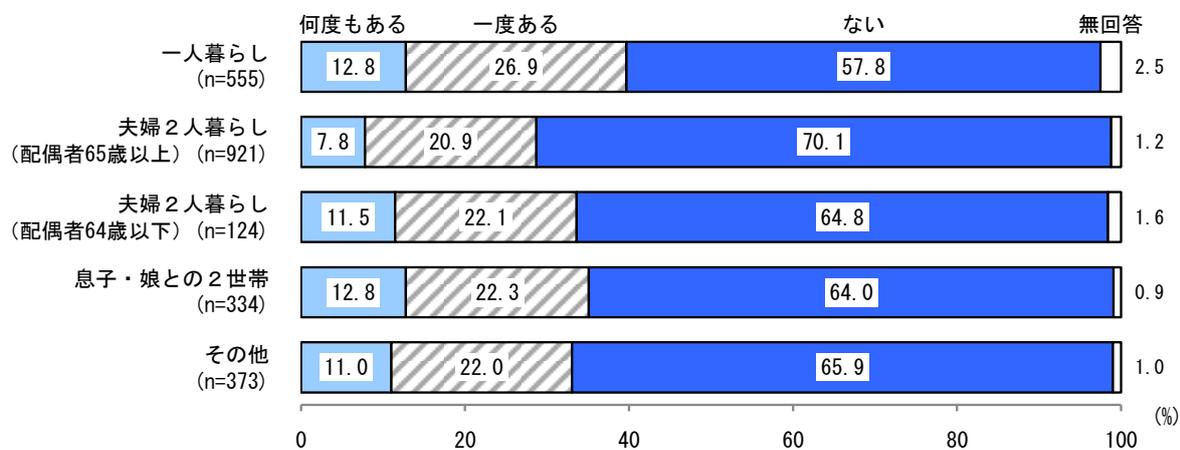
性・年齢別でみると、転倒経験者は、男性より女性のほうが多くみられます。また、男性の「何度もある」割合は、84歳以下まで1割未満ですが、85歳以上になると15.4%と高くなっています。一方、女性の「何度もある」割合は、高齢になるほど高くなる傾向がみられ、85歳以上になると22.1%となっています。(図4-2-1)

【図4-2-1 性・年齢別 過去1年間に転んだ経験】



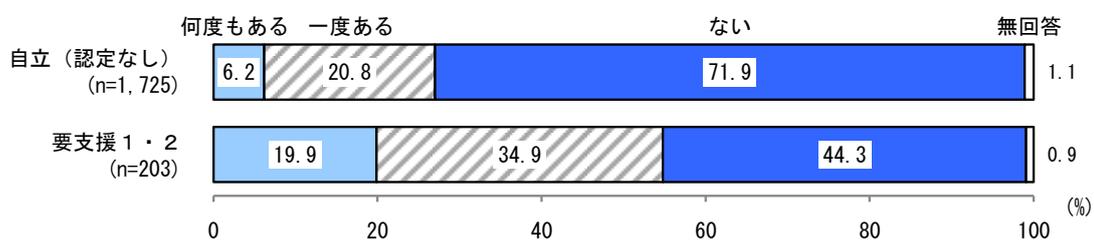
家族構成別でみると、転倒経験者は、一人暮らし世帯に多くみられ、夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上）に少なくみられます。（図4-2-2）

【図4-2-2 家族構成別 過去1年間に転んだ経験】



自立・要支援者別でみると、自立の人と比べて、要支援と認定された人では「何でもある」が13.7ポイント、「一度ある」が14.1ポイント高い割合になっています。（図4-2-3）

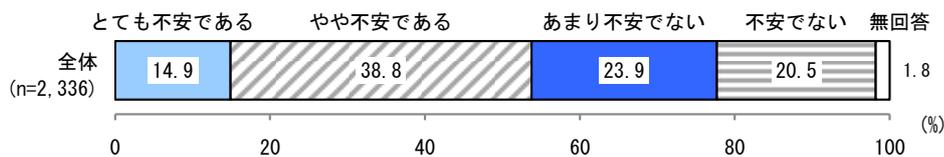
【図4-2-3 自立・要支援者別 過去1年間に転んだ経験】



(2) 転倒に対する不安

問3 Q2 あなたは転倒に対する不安は大きいですか。〈〇は1つ〉

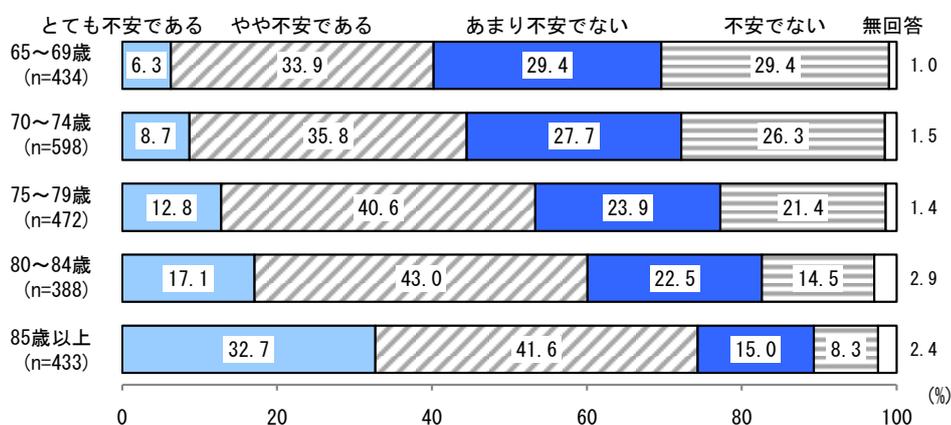
【図4-3 転倒に対する不安】



転倒に対する不安については、「やや不安である」が38.8%で最も多く、次いで「あまり不安でない」が23.9%、「不安でない」が20.5%となっています。なお、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』割合は53.7%となっています。(図4-3)

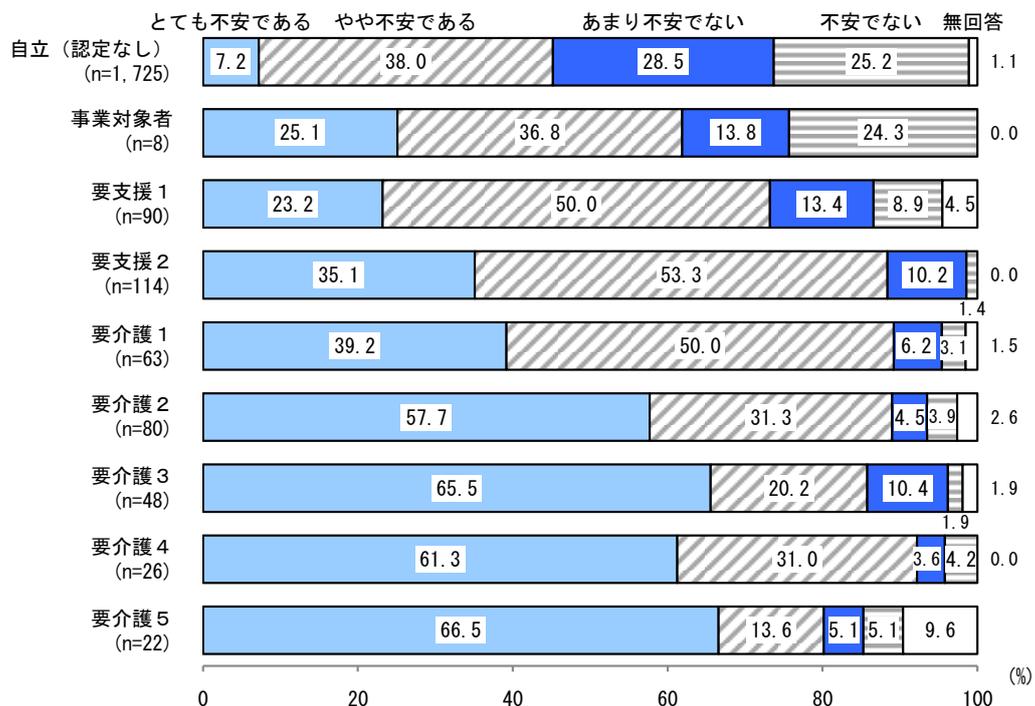
年齢別でみると、高齢になるほど、転倒に対する不安感が高くなる傾向がみられます。なお、75歳以降になると『不安である』割合が5割以上となっています。(図4-3-1)

【図4-3-1 年齢別 転倒に対する不安】



要介護認定区分別でみると、要介護度が重度になるほど「とても不安である」割合が高くなる傾向にあり、要介護2以上になると「とても不安である」は5割以上となります。(図4-3-2)

【図4-3-2 要介護認定区分別 転倒に対する不安】



5 口腔・栄養について

(1) 栄養改善リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問2問中2問とも該当した場合に栄養改善の「リスクあり」に該当します。

表 栄養改善に関する設問（基本チェックリスト）

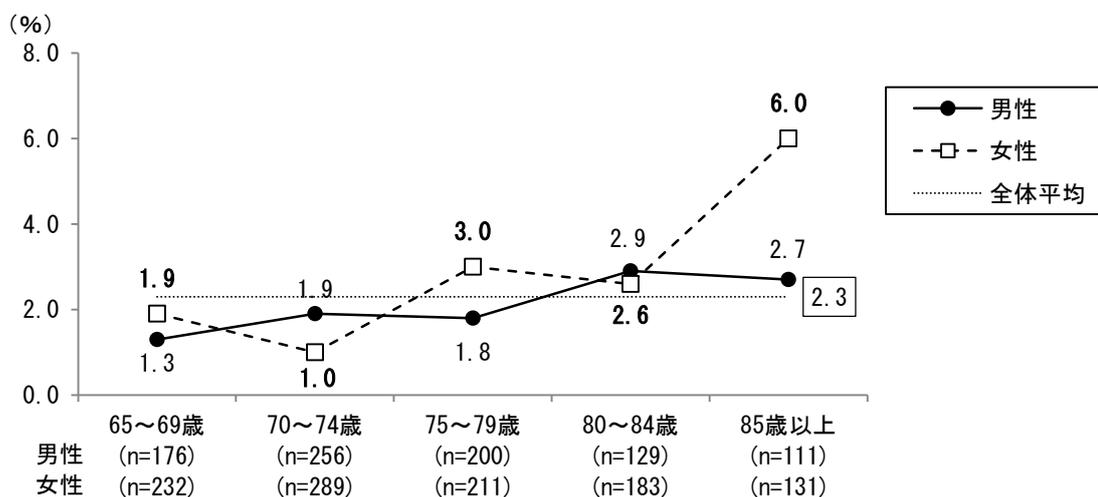
問番号	設問	該当する選択肢
問4 Q 1	6箇月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「はい」
問4 Q 2	身長・体重 BMI値=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))	18.5未満

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、栄養改善の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で2.3%となっています。

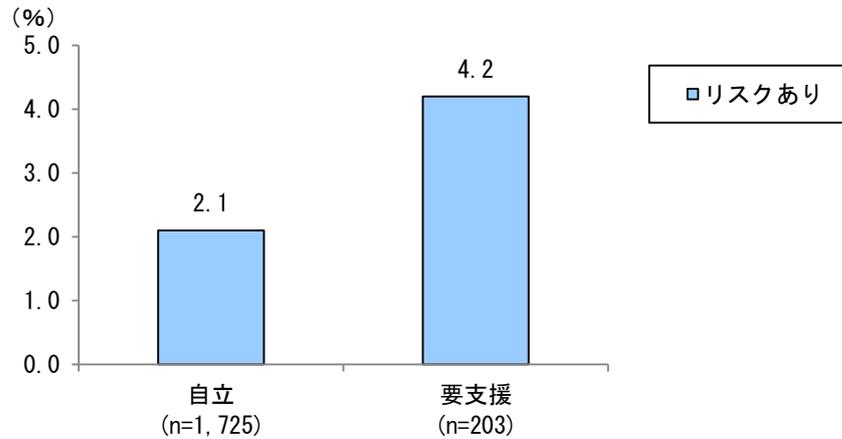
性・年齢別でみると、男性は79歳以下まで2%未満ですが、80歳以降になると3%弱に上昇しています。一方、女性の70～74歳は1.0%で最も低くなっていますが、85歳以上になると6.0%にまで上昇しています。(図5-1-1)

【図5-1-1 性・年齢別 栄養改善リスク】



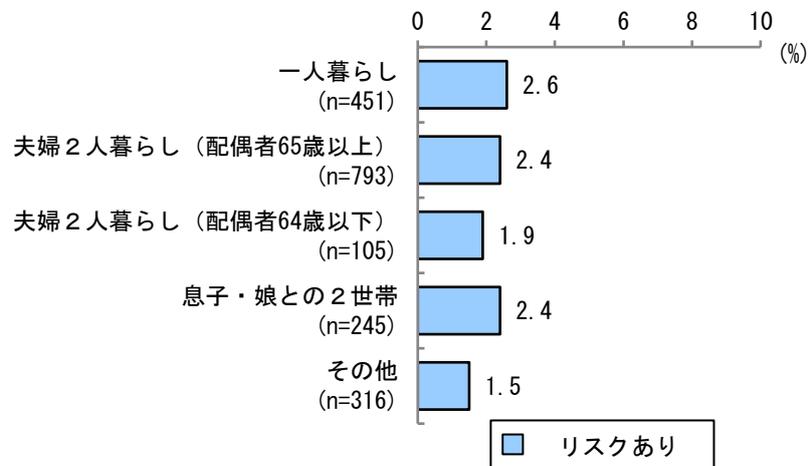
自立・要支援別で見ると、自立が2.1%に対し、要支援者が4.2%と高くなっています。(図5-1-2)

【図5-1-2 自立・要支援別 栄養改善リスク】



家族構成別で見ると、一人暮らし世帯が2.6%で最も高く、次いで夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上）と、息子・娘との2世帯がともに2.4%となっています。(図5-1-3)

【図5-1-3 家族構成別 栄養改善リスク】

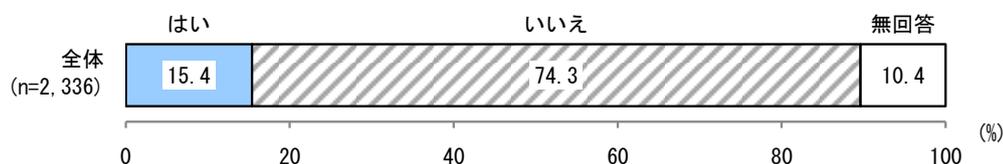


③ 栄養改善リスクに関する項目の回答状況

(ア) 6箇月間での体重減少

問4 Q1 あなたは6箇月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。〈○は1つ〉

【図5-2 6箇月間での体重減少】



6箇月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が15.4%、「いいえ」が74.3%となっています。(図5-2)

(イ) BMI

問4 Q2 身長・体重

【図5-3 BMI】



* BMI = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))

18.5未満「低体重」、18.5～25.0未満「普通体重」、25.0以上「肥満」

回答された身長・体重から算出したBMIについては、「低体重」が9.9%、「普通体重」が59.8%、「肥満」が18.9%となっています。(図5-3)

(2) 口腔機能の低下リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問3問中2問以上に該当した場合に口腔機能の「リスクあり」に該当します。

表 口腔機能に関する設問（基本チェックリスト）

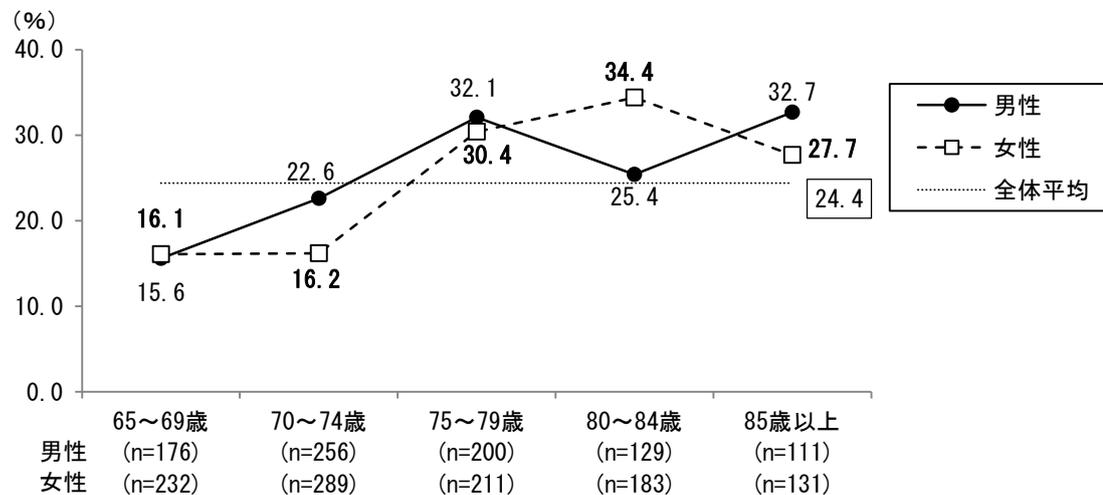
問番号	設問	該当する選択肢
問4Q3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「はい」
問4Q4	お茶や汁物等でむせることがありますか	「はい」
問4Q5	口の渇きが気になりますか	「はい」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、口腔機能の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で24.4%となっています。

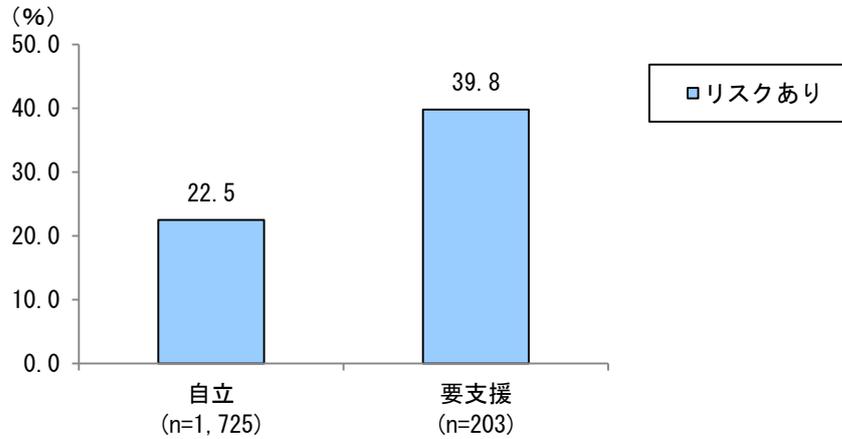
性・年齢別でみると、男性は79歳までの各年代で上昇傾向にあり、85歳以上が32.7%と最も高くなっています。一方、女性は75～79歳を境に、割合が大幅に上昇し、80～84歳が34.4%と最も高くなっています。(図5-4-1)

【図5-4-1 性・年齢別 口腔機能の低下リスク】



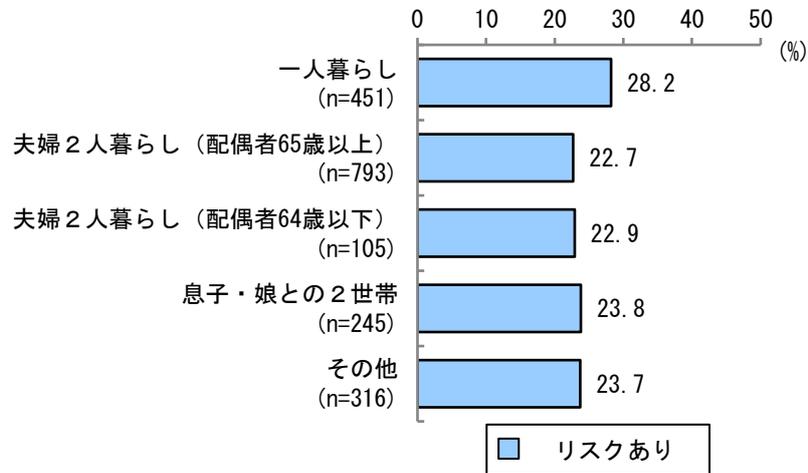
自立・要支援別でみると、自立が22.5%に対し、要支援者が39.8%と高くなっています。(図5-4-2)

【図5-4-2 自立・要支援別 口腔機能の低下リスク】



家族構成別でみると、一人暮らし世帯が28.2%で最も高く、夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上・64歳以下）より5ポイント以上、息子・娘との2世帯より4.4ポイント高い割合になっています。(図5-4-3)

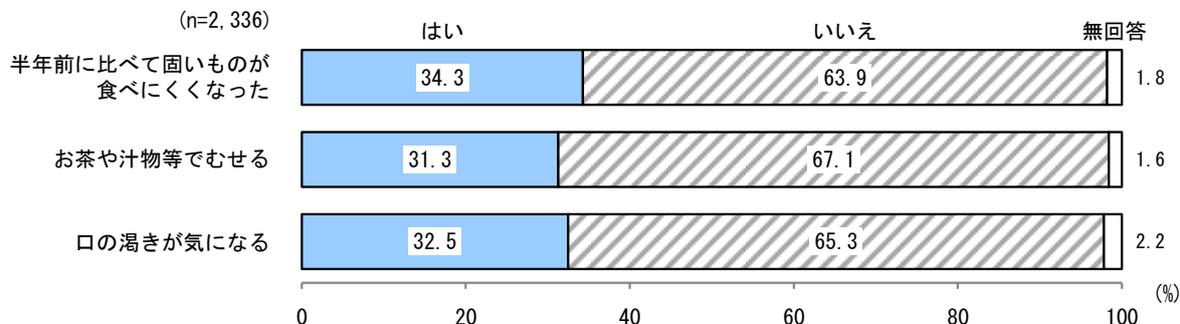
【図5-4-3 家族構成別 口腔機能の低下リスク】



③ 口腔の機能低下リスク判定に関する項目の回答状況

問4 Q3 あなたは半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。〈〇は1つ〉
 問4 Q4 あなたはお茶や汁物等でむせることがありますか。〈〇は1つ〉
 問4 Q5 あなたは口の渇きが気になりますか。〈〇は1つ〉

【図5-5 口腔の機能低下リスク判定に関する項目】



半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が34.3%、「いいえ」が63.9%となっています。

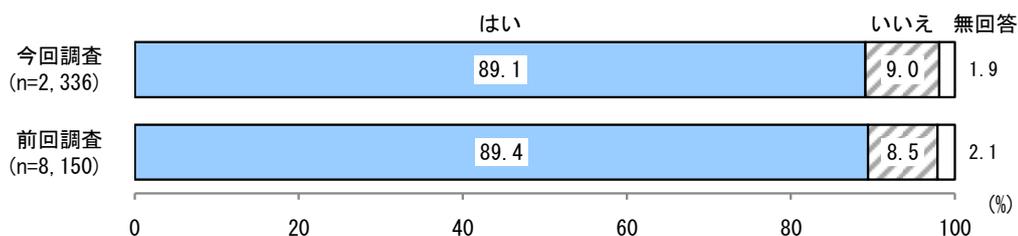
お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「はい」が31.3%、「いいえ」が67.1%となっています。

口の渇きが気になるかについては、「はい」が32.5%、「いいえ」が65.3%となっています。(図5-5)

(3) 歯磨きの状況

問4 Q6 あなたは歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。〈〇は1つ〉

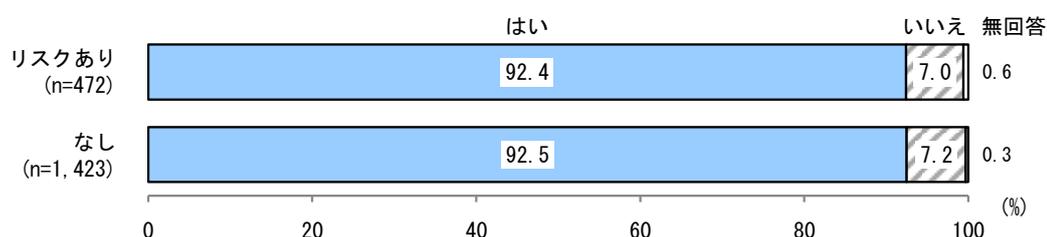
【図5-6 歯磨きの状況】



歯磨きを毎日しているかについては、「はい」が89.1%、「いいえ」が9.0%となっています。前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図5-6)

口腔機能低下のリスク有無別でも、大きな差異はみられません。(図5-6-1)

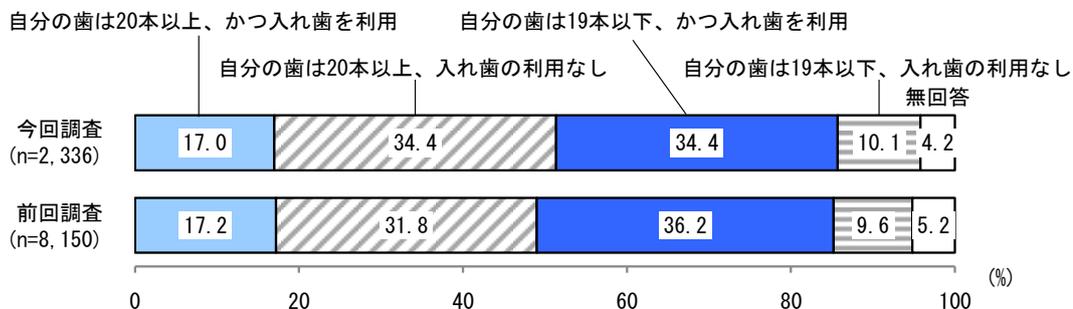
【図5-6-1 口腔機能低下のリスク有無別 歯磨きの状況】



(4) 歯の本数

問4 Q7 あなたの歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)。<〇は1つ>

【図5-7 歯の本数】

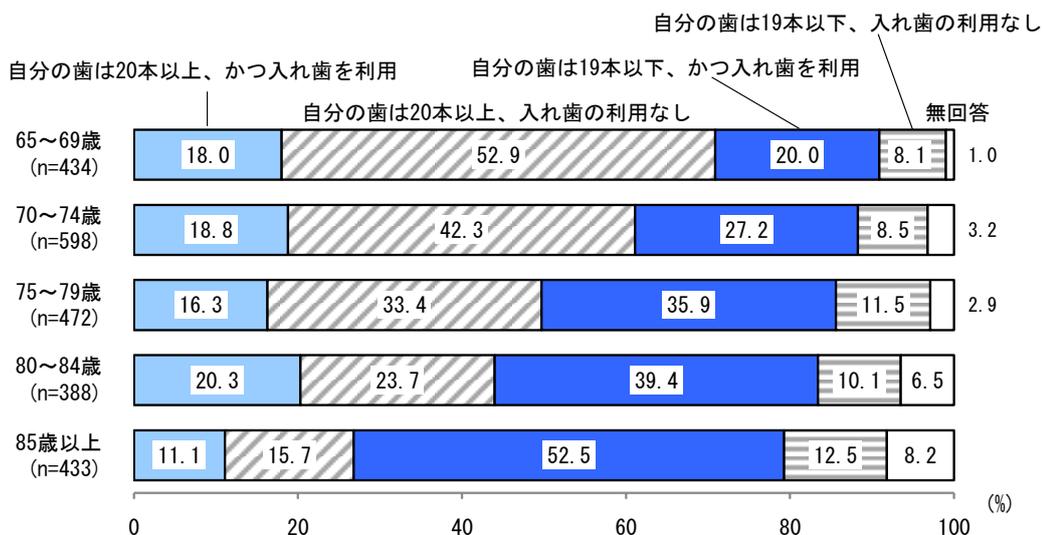


歯の本数については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」がともに34.4%で最も多く、続いて「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が17.0%となっています。

前回調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が2.6ポイント高くなっています。(図5-7)

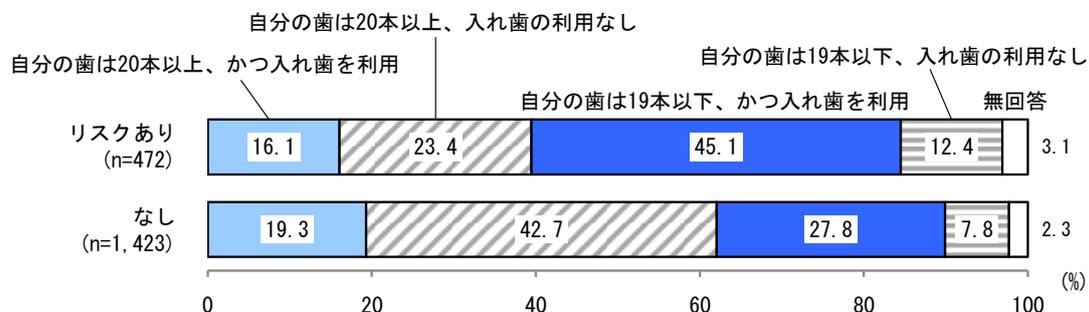
年齢別でみると、高齢になるほど「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が低くなる一方で、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が高くなる傾向がみられます。また、75歳以降になると、自分の歯が20本以上ある割合が5割未満となり、入れ歯の利用率は5割以上となります。(図5-7-1)

【図5-7-1 年齢別 歯の本数】



口腔機能低下のリスク有無別でみると、リスクのない人に比べて、リスクありの人は、自分の歯が20本以上の割合が22.5ポイント低く、入れ歯の利用率が14.1ポイント高くなっています。(図5-7-2)

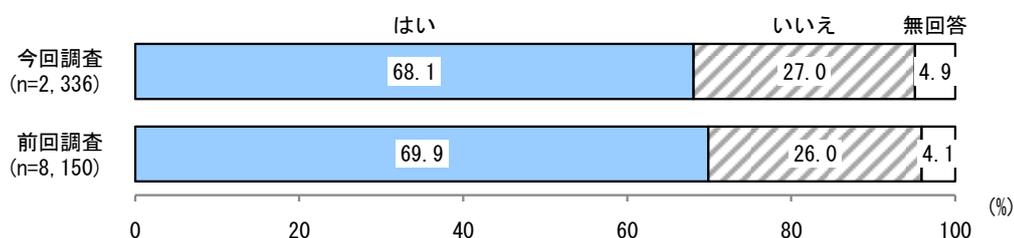
【図5-7-2 口腔機能低下のリスク有無別 歯の本数】



(5) 歯の噛み合わせ

問4 Q7-1 あなたの歯の噛み合わせは良いですか。〈○は1つ〉

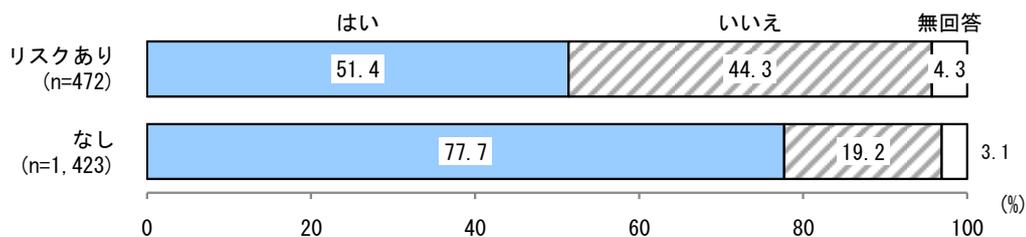
【図5-8 歯の噛み合わせ】



歯の噛み合わせは良いかについては、「はい」が68.1%、「いいえ」が27.0%となっています。前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図5-8)

口腔機能低下のリスク有無別でみると、リスクのない人に比べて、リスクありの人は「いいえ」が25.1ポイント高くなっています。(図5-8-1)

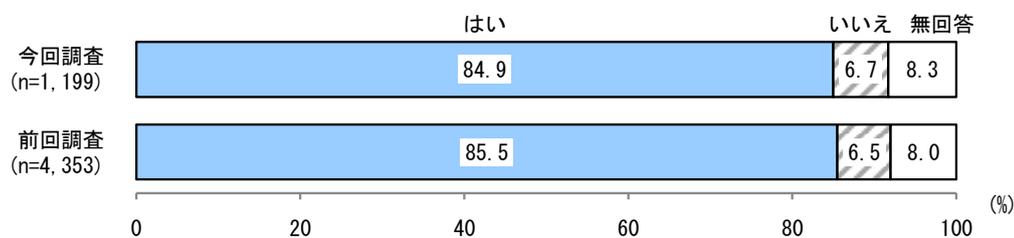
【図5-8-1 口腔機能低下のリスク有無別 歯の噛み合わせ】



(6) 入れ歯の手入れ

問4 Q7-2 Q7で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」又は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方にお聞きします。
 毎日入れ歯の手入れをしていますか。〈○は1つ〉

【図5-9 入れ歯の手入れ】

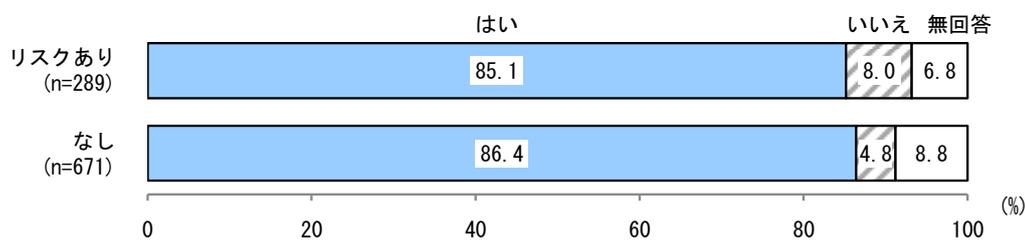


入れ歯を利用していると回答した人に、毎日入れ歯の手入れをしているかたずねたところ、「はい」が84.9%、「いいえ」が6.7%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図5-9)

口腔機能低下のリスク有無別でみると、リスクのない人と比べて、リスクありの人は「いいえ」が3.2ポイント高くなっています。(図5-9-1)

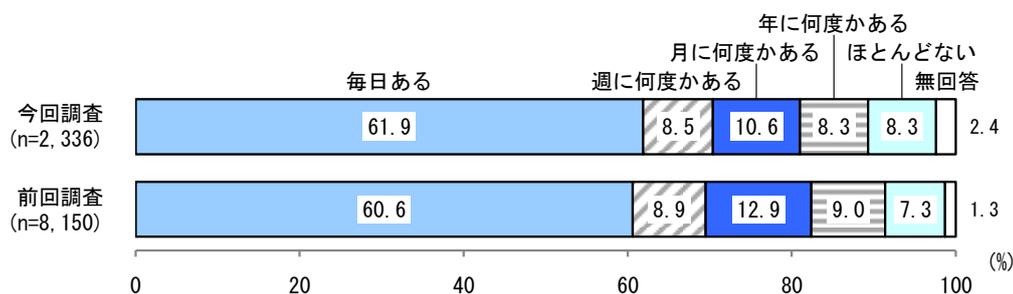
【図5-9-1 口腔機能低下のリスク有無別 入れ歯の手入れ】



(7) 共食頻度

問4Q8 あなたはどなたかと食事をとにもする機会がありますか。〈○は1つ〉

【図5-10 共食頻度】

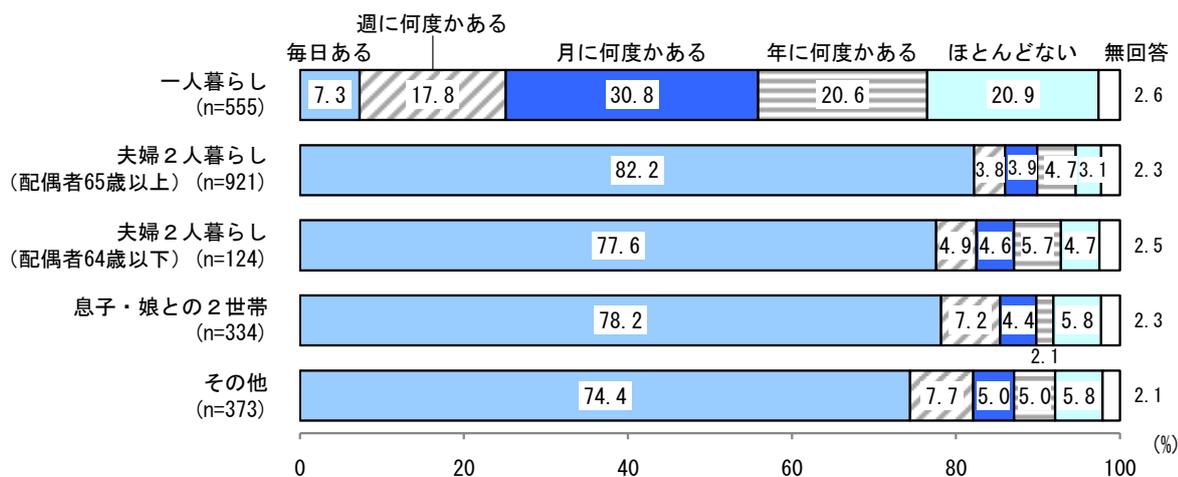


食事をとにもする機会の頻度については、「毎日ある」が61.9%で最も多く、次いで「月に何度かある」が10.6%、「週に何度かある」が8.5%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図5-10)

家族構成別でみると、一人暮らし世帯では、「月に何度かある」が30.8%で最も多く、次いで「ほとんどない」が20.9%、「年に何度かある」が20.6%、「週に何度かある」が17.8%、「毎日ある」は7.3%となっています。(図5-10-1)

【図5-10-1 家族構成別 共食頻度】



6 物忘れについて

(1) 認知機能低下リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問3問中1問以上に該当した場合に認知機能の「リスクあり」に該当します。

表 認知機能に関する設問（基本チェックリスト）

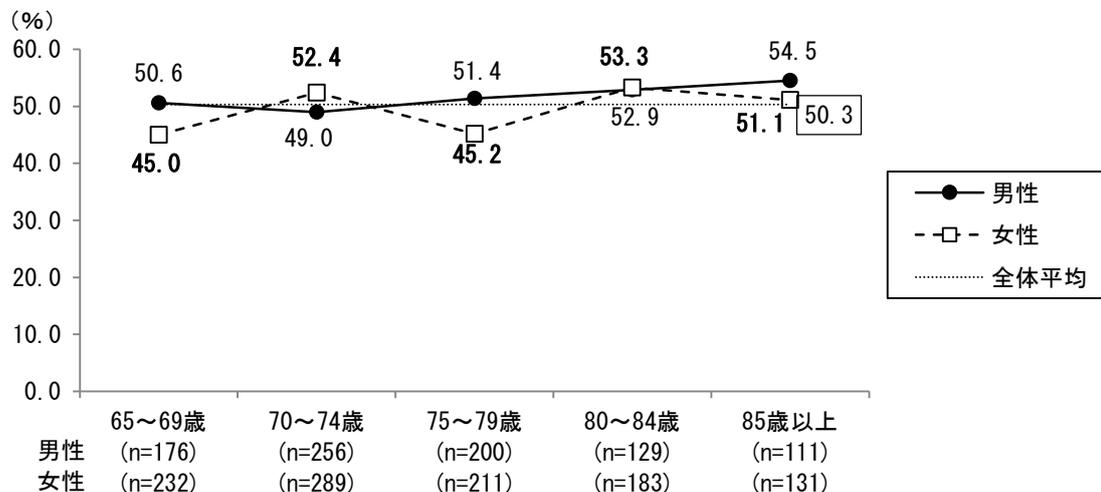
問番号	設問	該当する選択肢
問5Q1	物忘れが多いと感じますか	「はい」
問5Q2	自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか	「いいえ」
問5Q3	今日が何月何日かわからない時がありますか	「はい」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、認知機能の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で50.3%となっています。

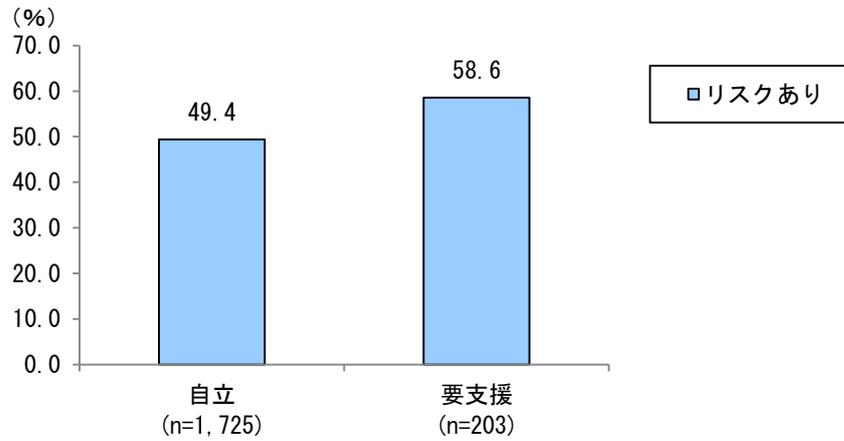
性・年齢別でみると、男女共に、年代にかかわらず5割前後で推移しています。(図6-1-1)

【図6-1-1 性・年齢別 認知機能低下リスク】



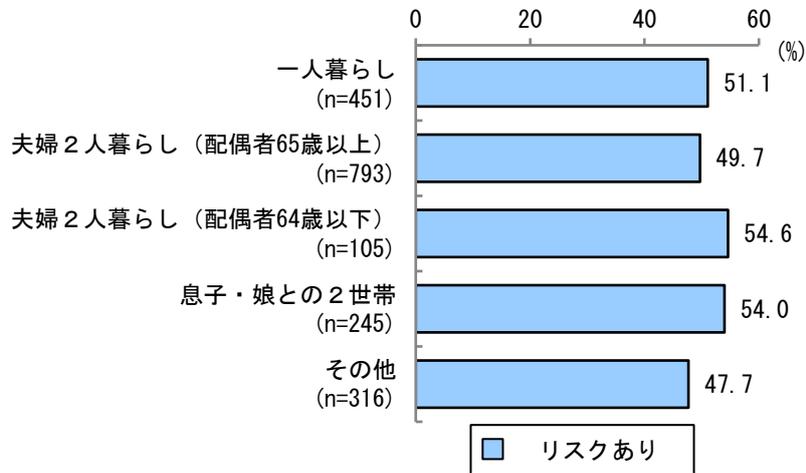
自立・要支援別で見ると、自立が49.4%に対し、要支援者が58.6%と高くなっています。(図6-1-2)

【図6-1-2 自立・要支援別 認知機能低下リスク】



家族構成別で見ると、夫婦2人暮らし世帯（配偶者64歳以下）が54.6%で最も高く、次いで息子・娘との2世帯が54.0%、一人暮らし世帯が51.1%となっています。(図6-1-3)

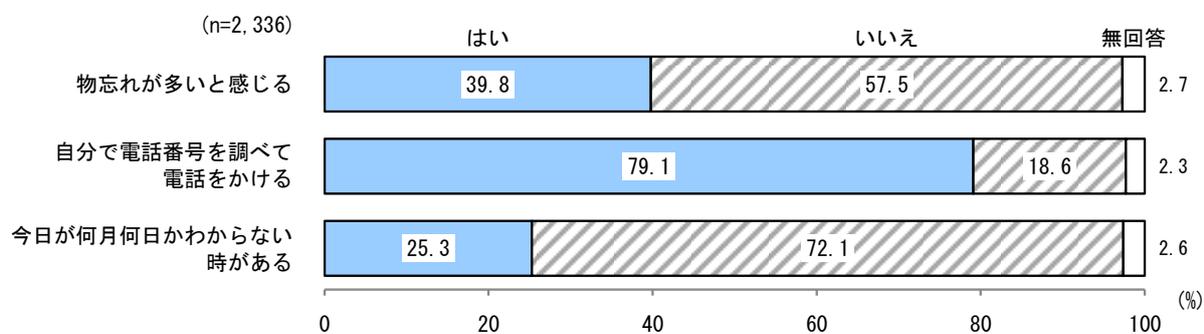
【図6-1-3 家族構成別 認知機能低下リスク】



③ 認知機能低下リスク判定に関する項目の回答状況

- 問5 Q1 あなたは物忘れが多いと感じますか。〈○は1つ〉
問5 Q2 あなたは自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか。〈○は1つ〉
問5 Q3 あなたは今日が何月何日かわからない時がありますか。〈○は1つ〉

【図6-2 認知機能低下リスク判定に関する項目】



物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が39.8%、「いいえ」が57.5%となっています。

自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているかについては、「はい」が79.1%、「いいえ」が18.6%となっています。

今日が何月何日かわからない時があるかについては、「はい」が25.3%、「いいえ」が72.1%となっています。(図6-2)

7 日常生活について

(1) 手段的自立度 (IADL)

① 設問と評価

今回の調査票には、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられています。ここではそのうち、手段的自立度（問6Q1～5）に関する結果についてみてみます。

各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価しています。

表 手段的自立度に関する設問（老研指標）

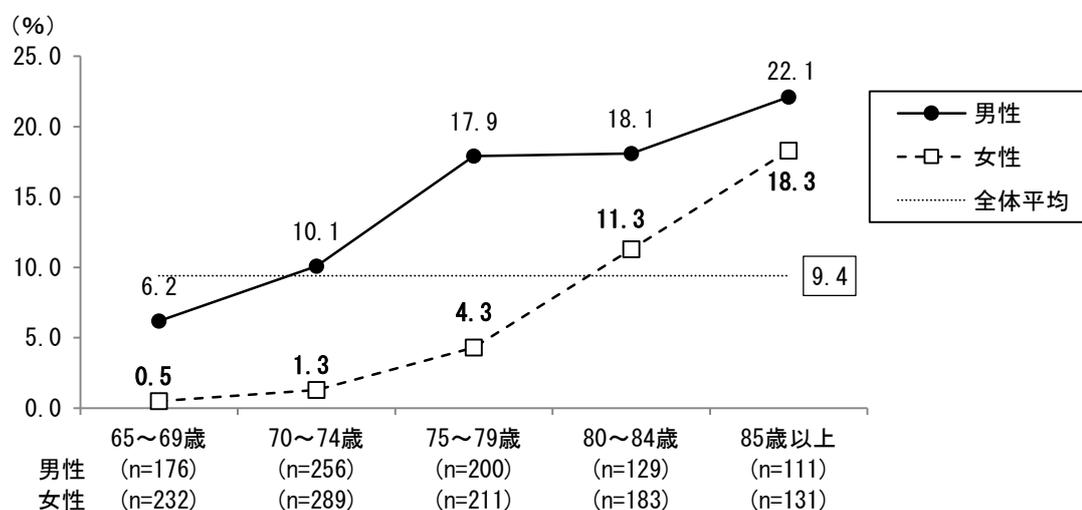
問番号	設問	該当する選択肢
問6Q1	バスや電車を使って一人で外出していますか（自家用車でも可）	「できるし、している」 「できるけどしていない」を 1点とした各問の合計
問6Q2	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問6Q3	自分で食事の用意をしていますか	
問6Q4	自分で請求書の支払いをしていますか	
問6Q5	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

② 評価結果

4点以下を「低下者」とした評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、「低下者」に該当する人の割合は全体平均で9.4%となっています。

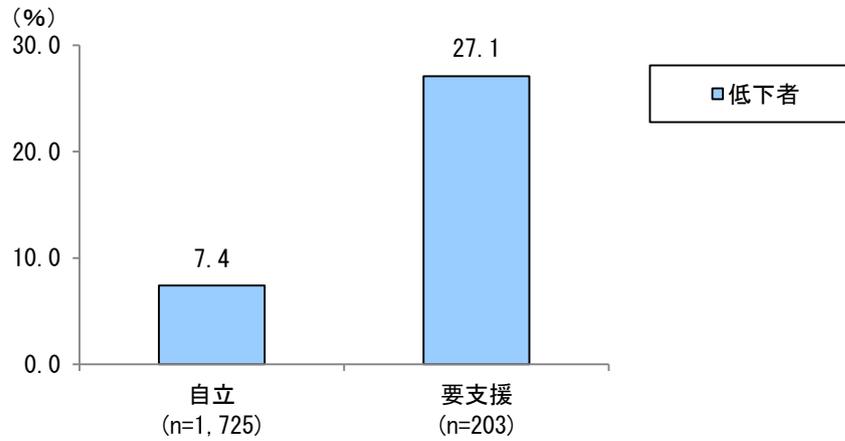
性・年齢別でみると、男性は、前期高齢者のうちに急激な上昇傾向がみられますが、後期高齢者になると緩やかな上昇となる傾向がみられます。一方、女性は、年代が上がるにつれて上昇する傾向がみられます。（図7-1-1）

【図7-1-1 性・年齢別 手段的自立度】



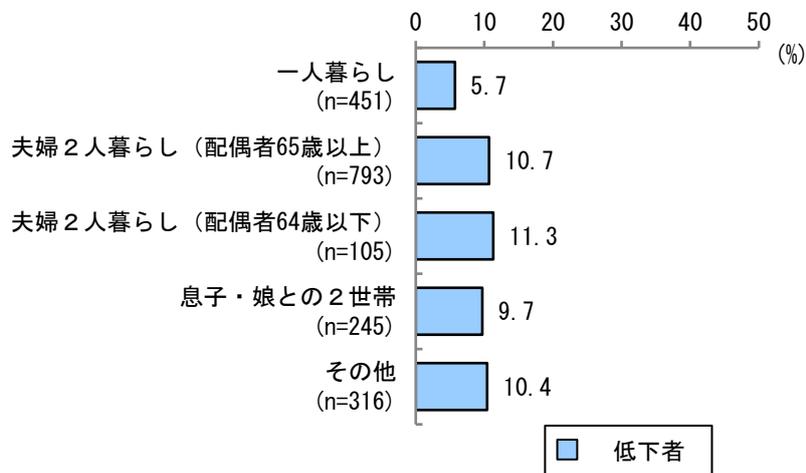
自立・要支援別で見ると、自立が7.4%に対し、要支援者が27.1%と高くなっています。(図7-1-2)

【図7-1-2 自立・要支援別 手段的自立度】



家族構成別で見ると、夫婦2人暮らし世帯（配偶者64歳以下）が11.3%で最も高く、次いで夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上）が10.7%となっています。また、同居者のいる世帯が1割前後に対して、一人暮らし世帯は5.7%と比較的低い割合になっています。(図7-1-3)

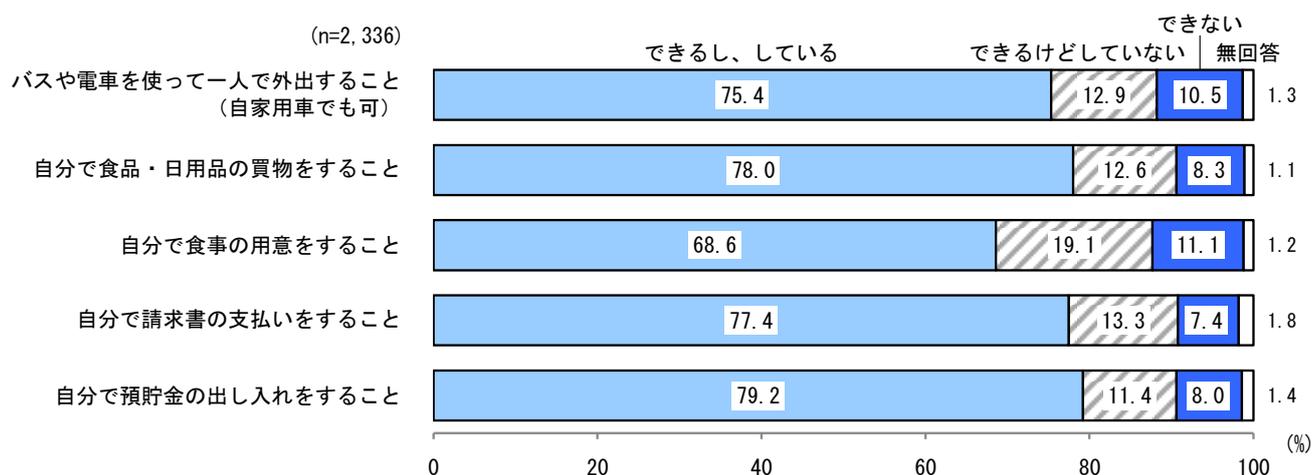
【図7-1-3 家族構成別 手段的自立度】



③ 手段的自立度評価に関する項目の回答状況

問6 Q 1	あなたはバスや電車を使って一人で外出していますか。(自家用車でも可) <○は1つ>
問6 Q 2	あなたは自分で食品・日用品の買物をしていますか。<○は1つ>
問6 Q 3	あなたは自分で食事の用意をしていますか。<○は1つ>
問6 Q 4	あなたは自分で請求書の支払いをしていますか。<○は1つ>
問6 Q 5	あなたは自分で預貯金の出し入れをしていますか。<○は1つ>

【図7-2 手段的自立度評価に関する項目】



バスや電車を使って一人で外出しているかについては、「できるし、している」が75.4%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が12.9%、「できない」が10.5%となっています。

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が78.0%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が12.6%、「できない」が8.3%となっています。

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が68.6%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が19.1%、「できない」が11.1%となっています。

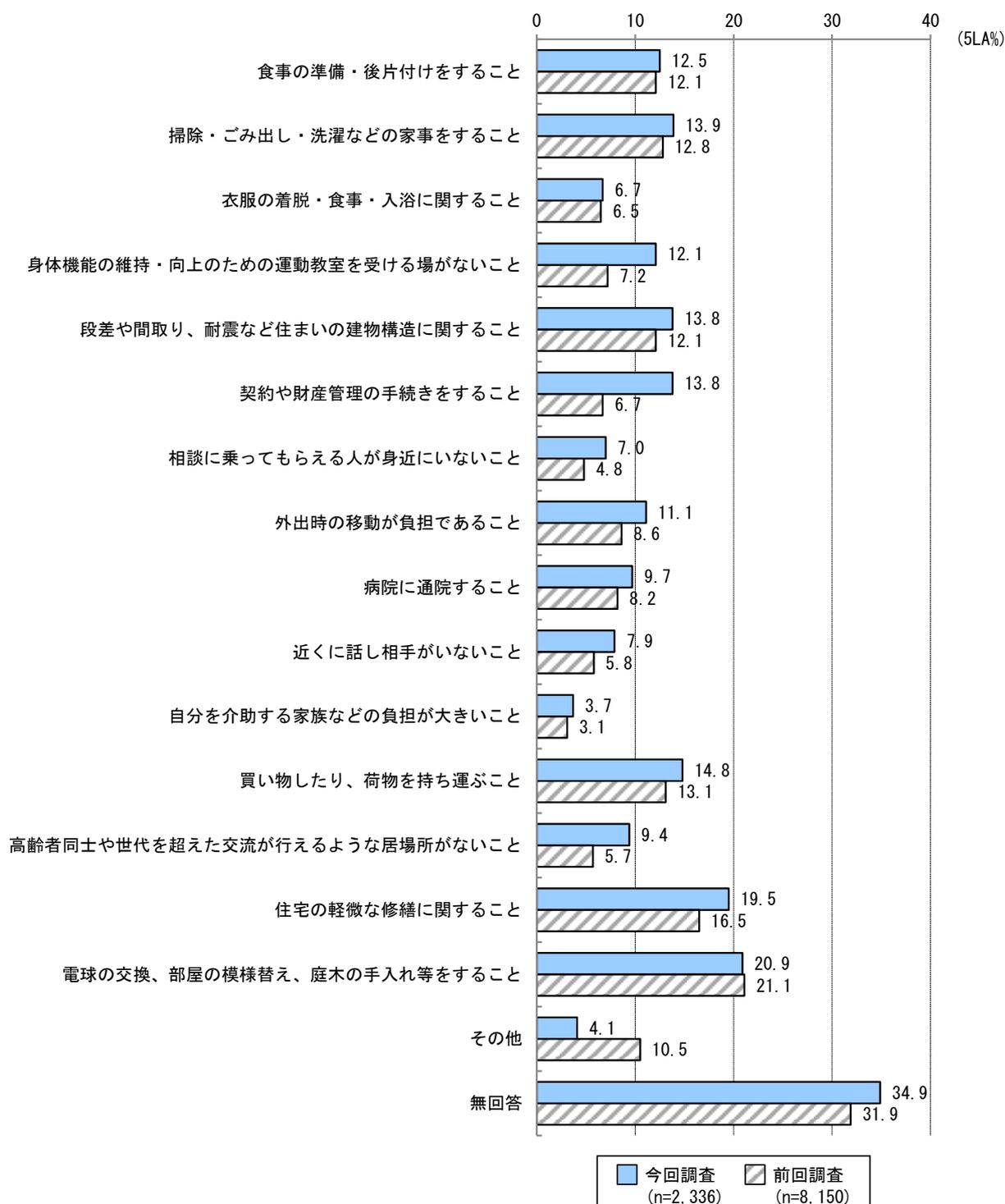
自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が77.4%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が13.3%、「できない」が7.4%となっています。

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が79.2%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が11.4%、「できない」が8.0%となっています。(図7-2)

(2) 日常生活で不自由に感じていること

問6 Q6 現在、あなたが日常生活の中で不自由と感じているのはどんなことですか。
 <○は5つまで。うち最もそう感じるものに◎>

【図7-3 日常生活で不自由を感じていること】

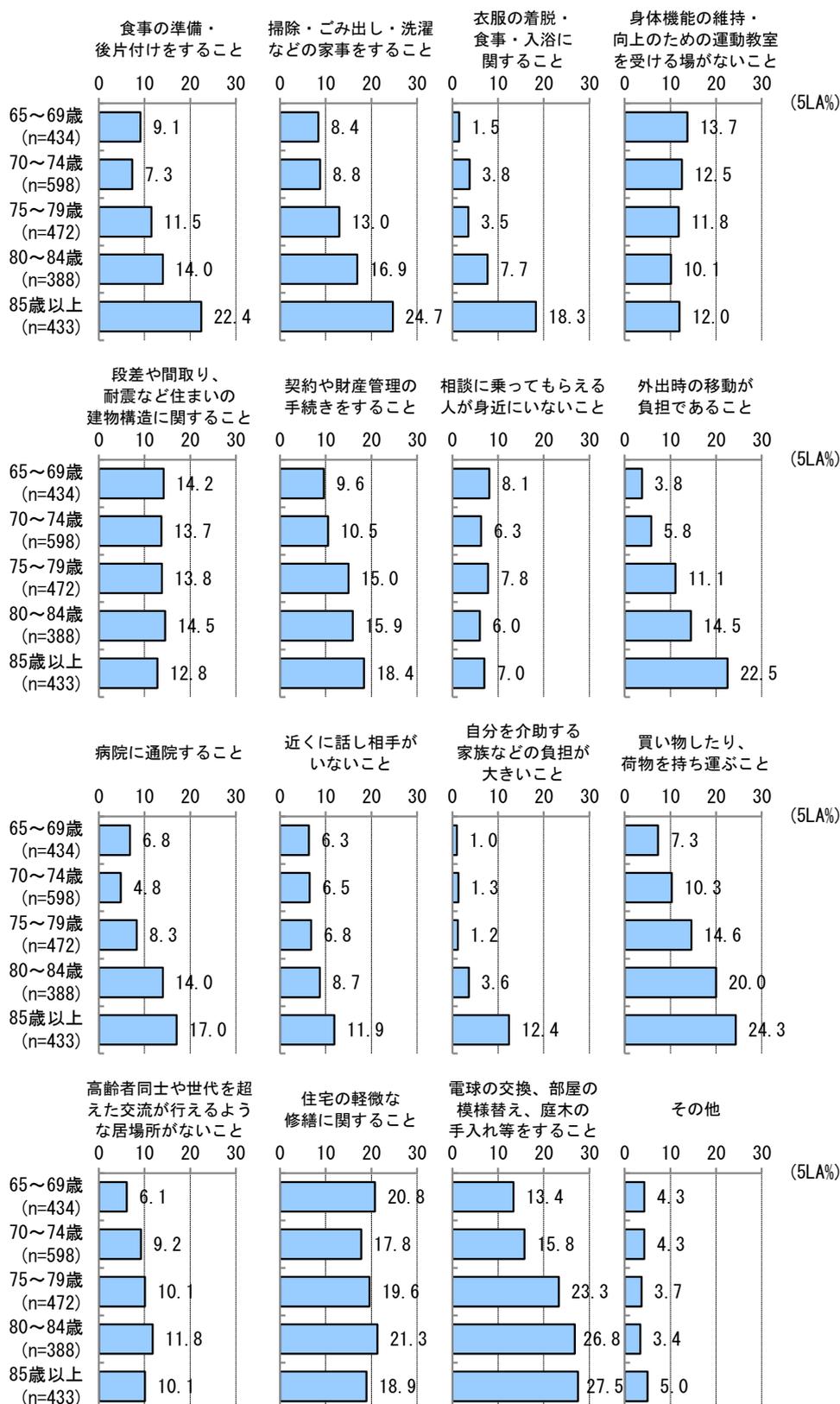


日常生活で不自由を感じていることについては、「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をする事」が20.9%で最も多く、次いで「住宅の軽微な修繕に関すること」が19.5%、「買い物したり、荷物を持ち運ぶこと」が14.8%となっています。

前回調査と比較すると、「契約や財産管理の手続きをすること」が7.1ポイント、「身体機能の維持・向上のための運動教室を受ける場がないこと」が4.9ポイント高くなっています。(図7-3)

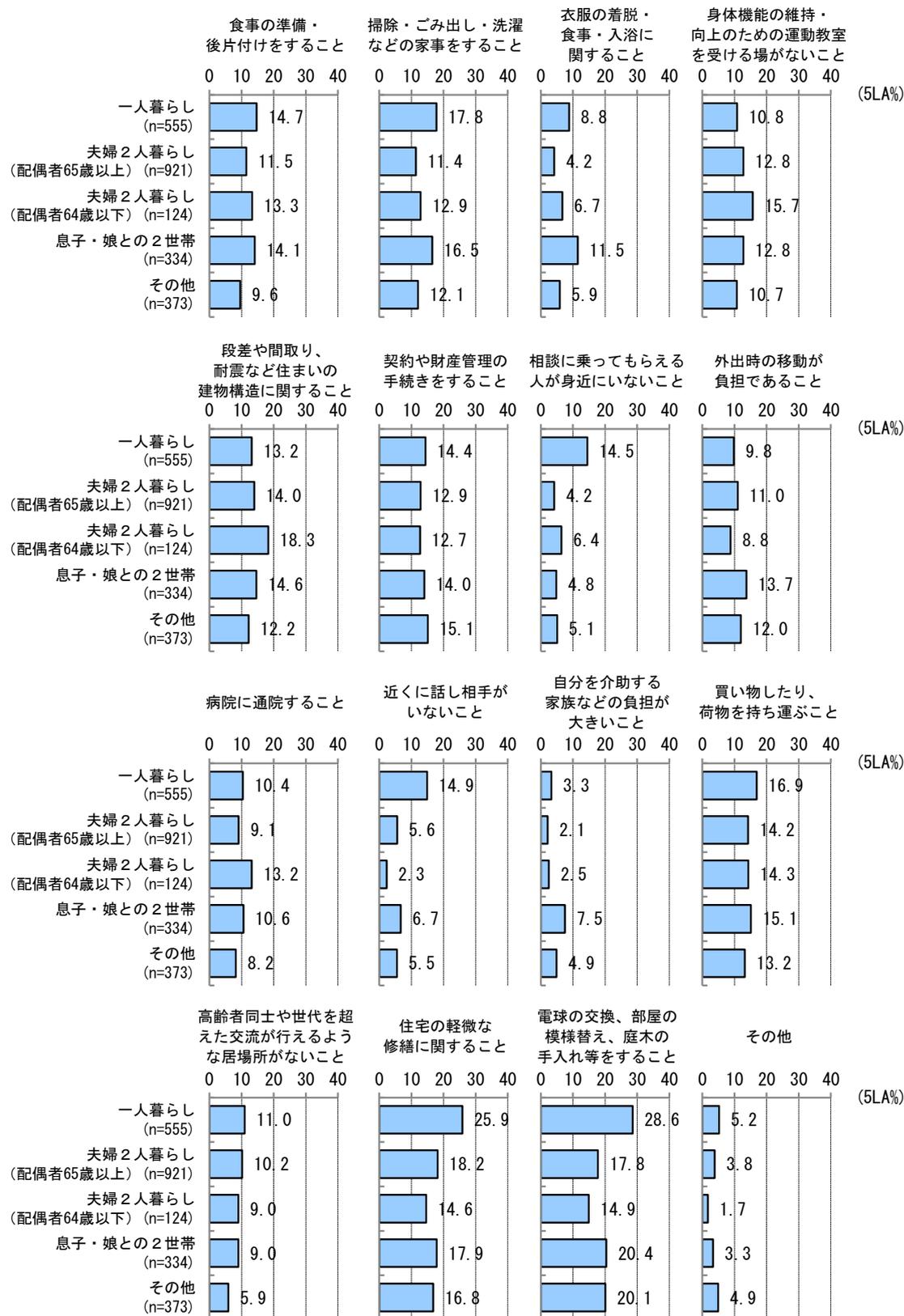
年齢別でみると、多くの項目で高齢になるほど割合が高くなる傾向にあります。 「身体機能の維持・向上のための運動教室を受ける場がないこと」、「段差や間取り、耐震など住まいの建物構造に関すること」、「相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと」、「高齢者同士や世代を超えた交流が行えるような場所がないこと」、「住宅の軽微な修繕に関すること」は、年齢による差が小さくなっています。(図7-3-1)

【図7-3-1 年齢別 日常生活で不自由に感じていること】



家族構成別でみると、一人暮らし世帯では「相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと」や「近くに話し相手がないこと」、「住宅の軽微な修繕に関すること」、「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をするここと」が、他の世帯と比べて高い割合になっています。(図7-3-2)

【図7-3-2 家族構成別 日常生活で不自由に感じていること】



8 社会参加について

(1) 知的能動性

① 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

表 知的能動性に関する設問（老研指標）

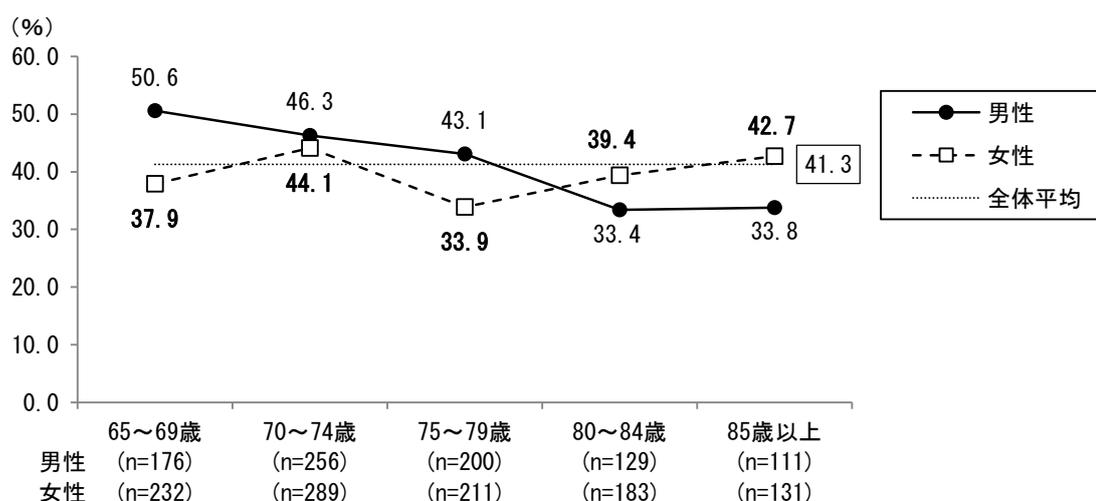
問番号	設問	該当する選択肢
問7Q1	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「はい」を1点とした各問の合計
問7Q2	新聞を読んでいますか	
問7Q3	本や雑誌を読んでいますか	
問7Q7	健康についての記事や番組に関心がありますか	

② 評価結果

3点以下を「低下者」とした評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、「低下者」に該当する人の割合は全体平均で41.3%となっています。

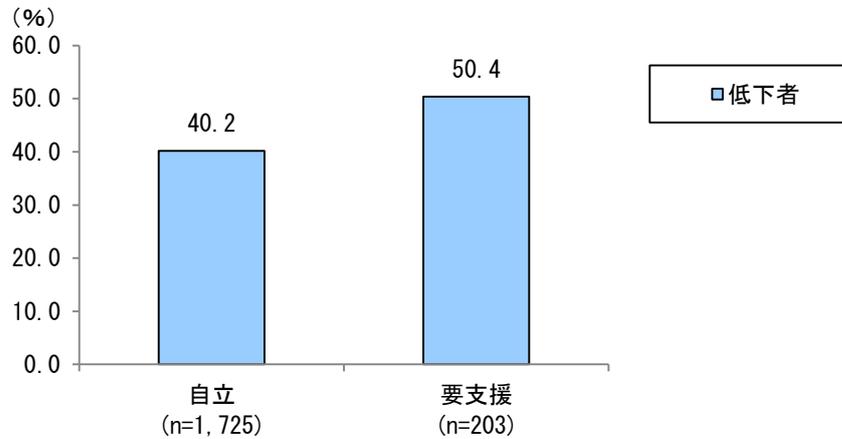
性・年齢別で見ると、男性は65～69歳が50.6%で最も高く、年代が上がるほど低下する傾向がみられます。一方、女性は70～74歳が44.1%で最も高く、次いで85歳以上が42.7%となっています。（図8-1-1）

【図8-1-1 性・年齢別 知的能動性】



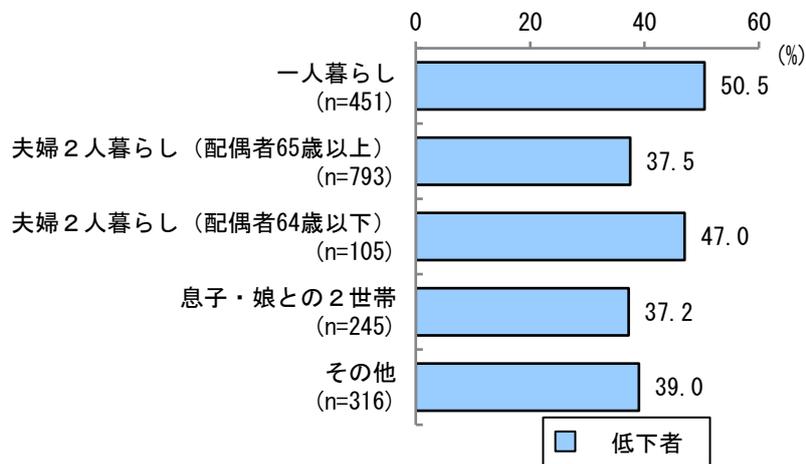
自立・要支援別で見ると、自立が40.2%に対し、要支援者が50.4%と高くなっています。(図8-1-2)

【図8-1-2 自立・要支援別 知的能動性】



家族構成別で見ると、一人暮らし世帯が50.5%で最も高く、次いで夫婦2人暮らし世帯（配偶者64歳以下）が47.0%となっています。(図8-1-3)

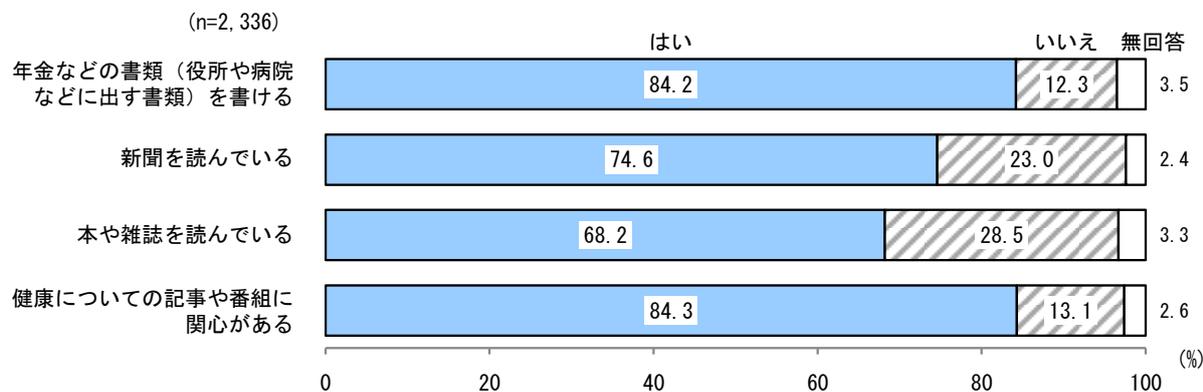
【図8-1-3 家族構成別 知的能動性】



③ 知的能動性評価に関する項目の回答状況

問7Q1	あなたは年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。〈〇は1つ〉
問7Q2	あなたは新聞を読んでいますか。〈〇は1つ〉
問7Q3	あなたは本や雑誌を読んでいますか。〈〇は1つ〉
問7Q7	あなたは健康についての記事や番組に関心がありますか。〈〇は1つ〉

【図8-2 知的能動性評価に関する項目】



年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるかについては、「はい」が84.2%、「いいえ」が12.3%となっています。

新聞を読んでいるかについては、「はい」が74.6%、「いいえ」が23.0%となっています。

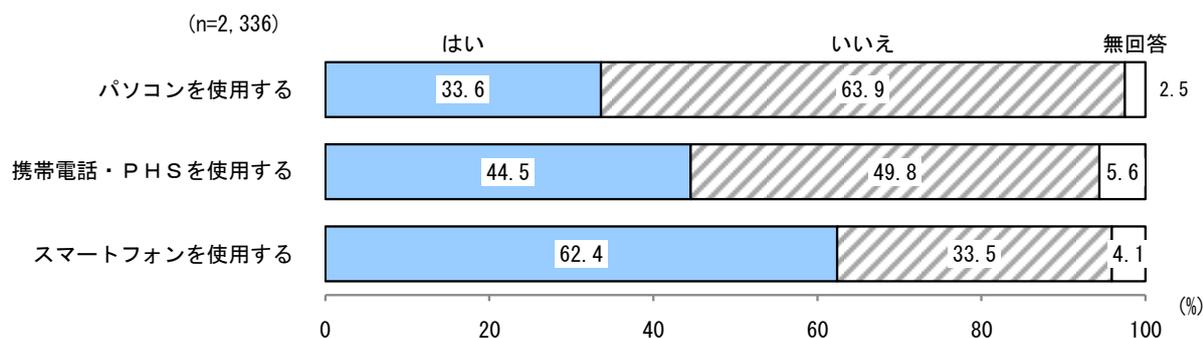
本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が68.2%、「いいえ」が28.5%となっています。

健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が84.3%、「いいえ」が13.1%となっています。（図8-2）

(2) パソコン・携帯電話・PHS・スマートフォンの使用状況

問7Q4	あなたはパソコンを使用されていますか。〈〇は1つ〉
問7Q5	あなたは携帯電話・PHSを使用されていますか（スマートフォンを除く）。〈〇は1つ〉
問7Q6	あなたはスマートフォンを使用されていますか。〈〇は1つ〉

【図8-3 パソコン・携帯電話・PHS・スマートフォンの使用状況】



パソコンの使用率（「はい」と回答）は33.6%、携帯電話・PHSの使用率は44.5%、スマートフォンの使用率は62.4%となっています。（図8-3）

(3) 社会的役割

① 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています。

評価は、知的能動性と同様に、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

表 社会的役割に関する設問（老研指標）

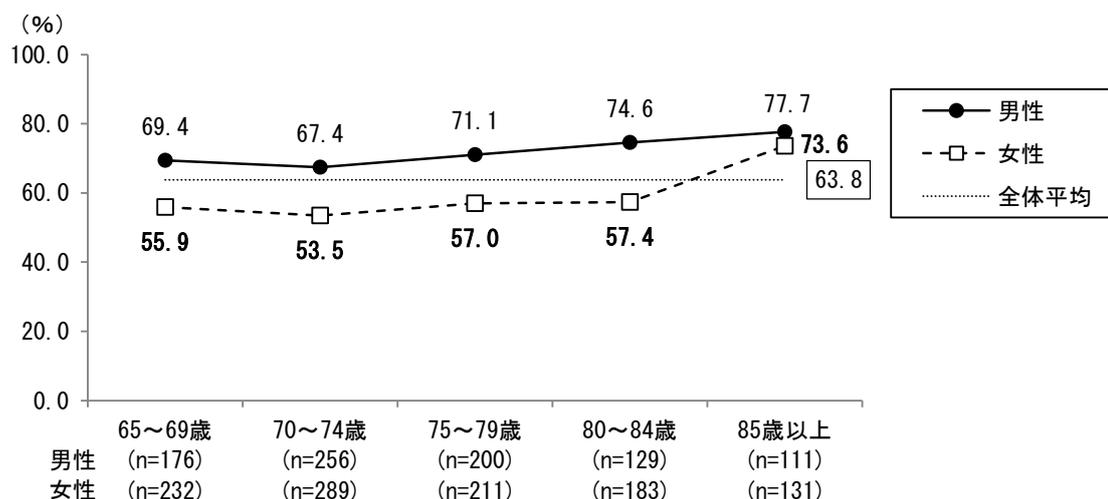
問番号	設問	該当する選択肢
問7Q8	友人の家を訪ねていますか	「はい」を1点とした各問の合計
問7Q9	家族や友人の相談にのっていますか	
問7Q10	病人を見舞うことができますか	
問7Q11	若い人に自分から話しかけることがありますか	

② 評価結果

3点以下を「低下者」とした評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、「低下者」に該当する人の割合は全体平均で63.8%となっています。

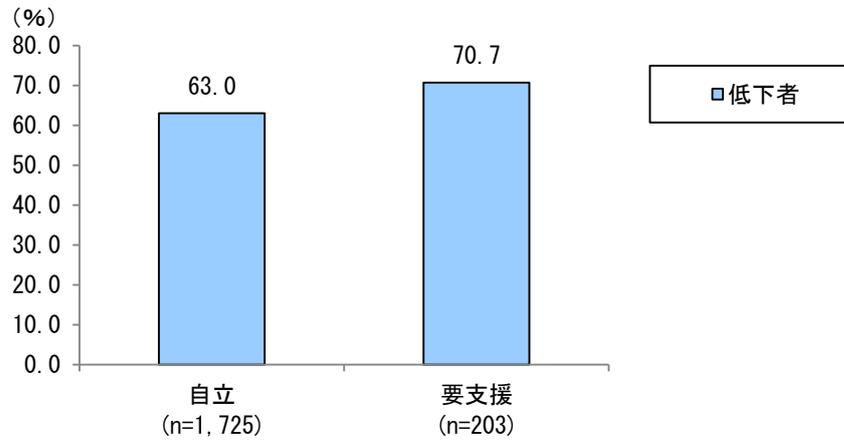
性・年齢別でみると、男性は、いずれの年代も女性より割合が高く、74歳以下までは6割台、75歳以降になると7割台に上昇しています。一方、女性は84歳以下まで5割台で推移していますが、85歳以上になると7割台まで上昇しています。（図8-4-1）

【図8-4-1 性・年齢別 社会的役割】



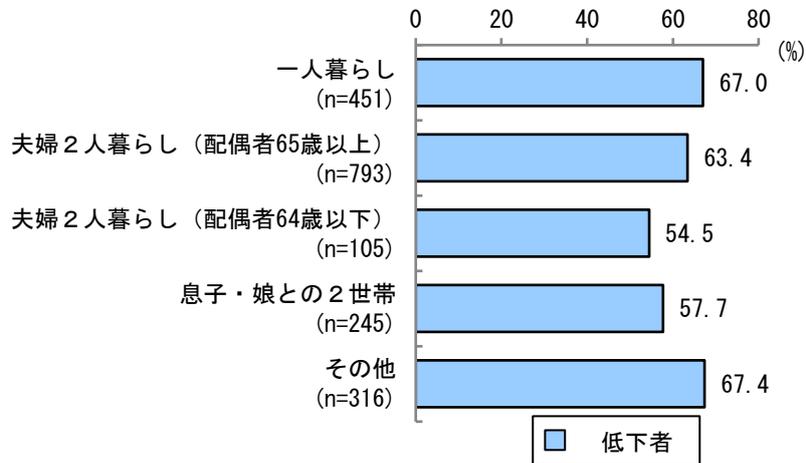
自立・要支援別で見ると、自立が63.0%に対し、要支援者が70.7%と高くなっています。(図8-4-2)

【図8-4-2 自立・要支援別 社会的役割】



家族構成別で見ると、その他世帯が67.4%で最も高く、次いで一人暮らし世帯が67.0%、夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上）が63.4%となっています。(図8-4-3)

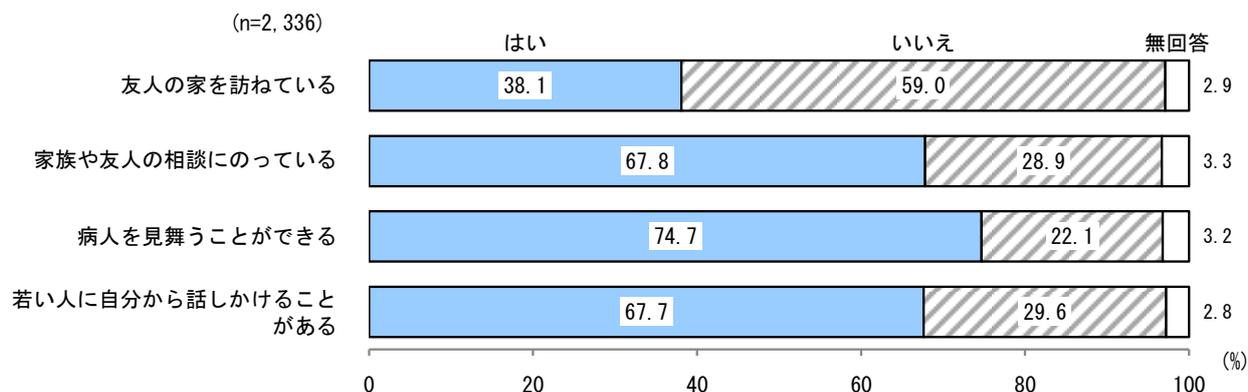
【図8-4-3 家族構成別 社会的役割】



③ 社会的役割評価に関する項目の回答状況

問7 Q8	あなたは友人の家を訪ねていますか。〈○は1つ〉
問7 Q9	あなたは家族や友人の相談にのっていますか。〈○は1つ〉
問7 Q10	あなたは病人を見舞うことができますか。〈○は1つ〉
問7 Q11	あなたは若い人に自分から話しかけることがありますか。〈○は1つ〉

【図8-5 社会的役割評価に関する項目】



友人の家を訪ねているかについては、「はい」が38.1%、「いいえ」が59.0%となっています。家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が67.8%、「いいえ」が28.9%となっています。

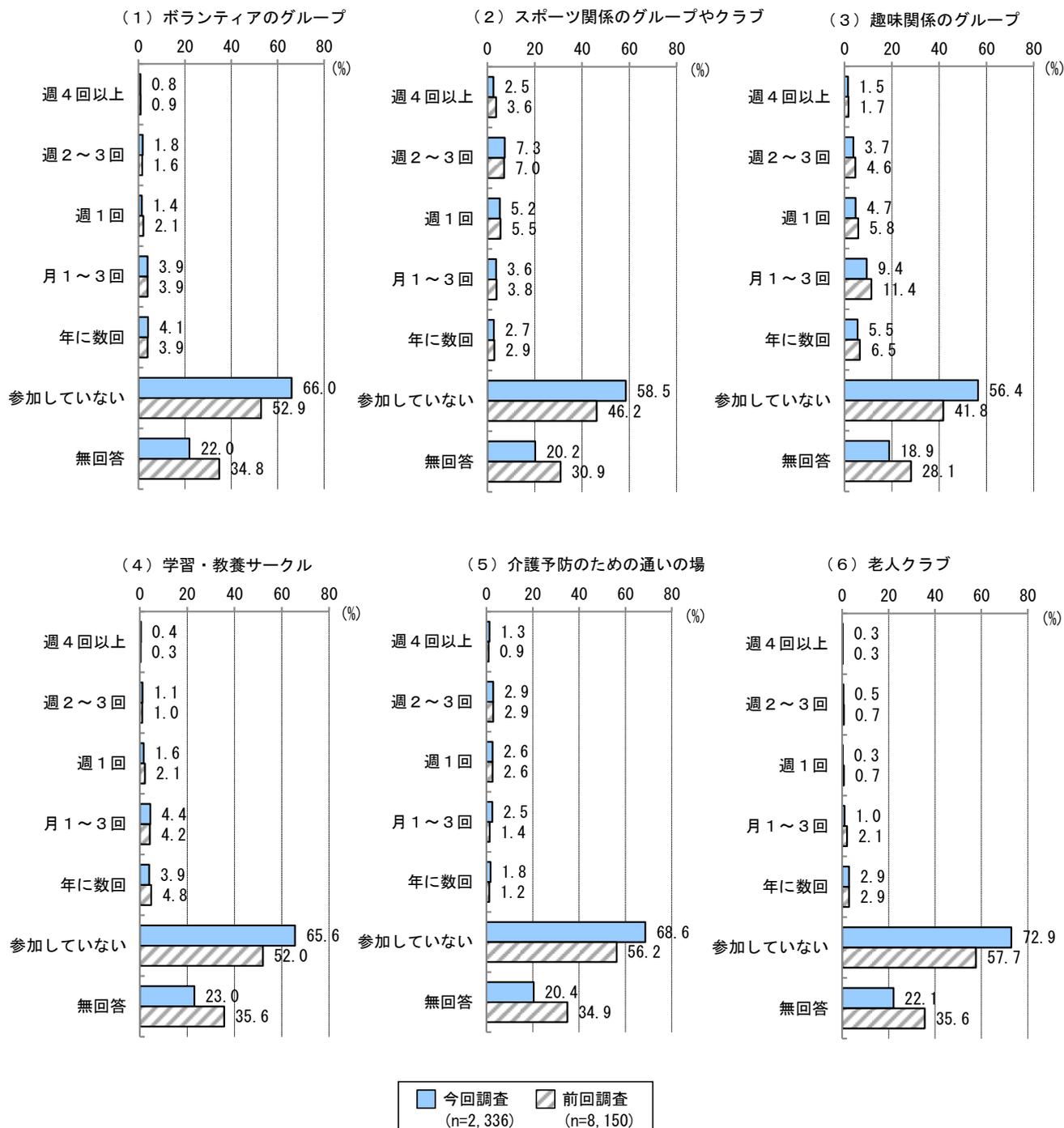
病人を見舞うことができるかについては、「はい」が74.7%、「いいえ」が22.1%となっています。

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が67.7%、「いいえ」が29.6%となっています。(図8-5)

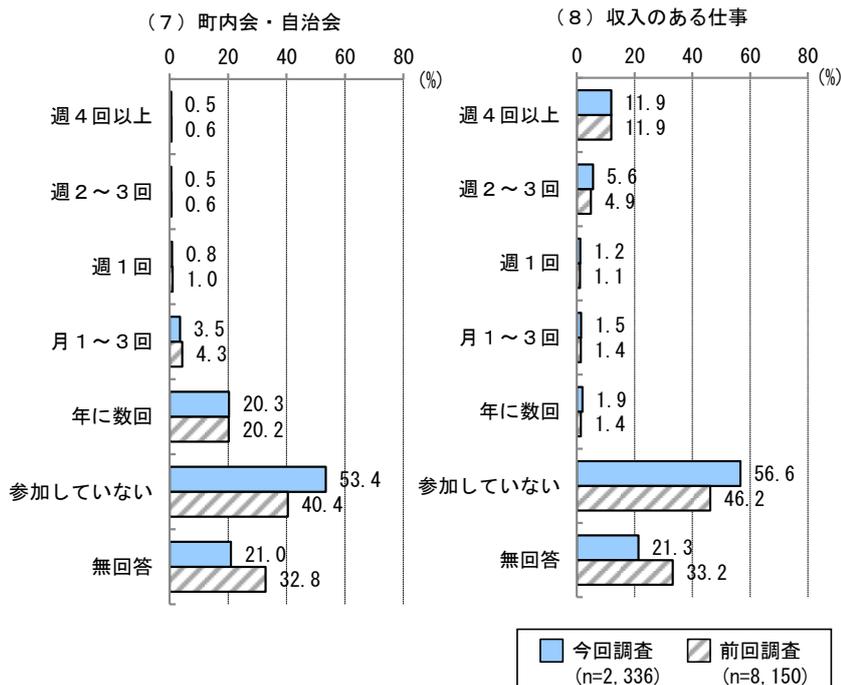
(4) 会・グループ等の参加頻度

問7 Q12 あなたは以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
 <(1)から(8)までそれぞれ〇は1つつつ>

【図8-6 会・グループ等の参加頻度①】



【図8-6 会・グループ等の参加頻度②】



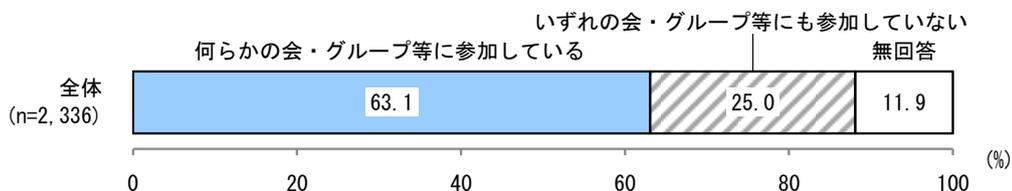
いずれの会・グループ等も「参加していない」が5割以上となっています。

参加している人では、ボランティアのグループが「年に数回」で4.1%、スポーツ関係のグループやクラブが「週2～3回」で7.3%、趣味関係のグループが「月1～3回」で9.4%、学習・教養サークルが「月1～3回」で4.4%、介護予防のための通いの場が「週2～3回」で2.9%、老人クラブが「年に数回」で2.9%、町内会・自治会が「年に数回」で20.3%、収入のある仕事が「週4回以上」で11.9%と、それぞれ最も多くなっています。

前回調査と比較すると、いずれの会・グループ等も「参加していない」が10ポイント以上高くなっています。(図8-6)

上記(1)～(8)の会・グループ等のうち、「何らかの会・グループ等に参加している」比率は63.1%となっています。(図8-6-1)

【図8-6-1 会・グループ等の参加比率】



- 高齢者調査の結果 -

年齢別でみると、年に数回以上参加している割合では、ボランティアのグループ、スポーツ関係のグループやクラブは70～74歳で最も高く（ボランティア 14.5%、スポーツ関係 26.4%）、趣味関係のグループは75～79歳（28.1%）が、学習・教養サークルは65～69歳と75～79歳（ともに12.9%）が、老人クラブは80～84歳（8.5%）が、それぞれ最も高くなっています。また、高齢になるほど、介護予防のための通いの場は高い割合になり、85歳以上で21.8%となっています。一方、町内会・自治会、収入のある仕事では、高齢になるほど割合は低くなっており、最も高い65～69歳の割合は町内会・自治会で35.2%、収入のある仕事で47.6%となっています。（表8-6-2）

【表8-6-2 年齢別 会・グループ等の参加頻度】

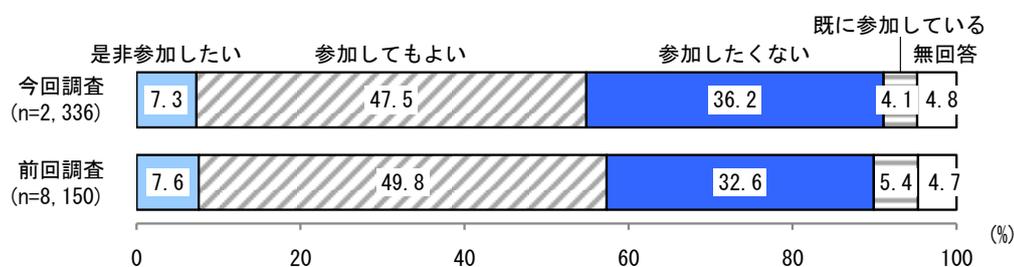
（単位：％）

(1) ボランティアのグループ							(2) スポーツ関係のグループやクラブ							
週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	な参加していない	無回答		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	な参加していない	無回答
0.3	1.8	1.8	5.6	4.6	79.5	6.6	65～69歳 (n=434)	1.5	8.4	5.3	3.3	5.1	70.6	5.8
0.7	1.8	2.5	5.5	4.0	69.2	16.3	70～74歳 (n=598)	3.3	8.7	6.7	5.2	2.5	59.3	14.3
1.6	1.4	1.2	4.7	5.2	62.1	23.9	75～79歳 (n=472)	2.1	7.2	5.8	5.2	1.9	56.1	21.6
0.7	2.9	0.2	1.4	4.8	54.6	35.3	80～84歳 (n=398)	2.2	7.5	5.3	2.9	2.7	47.6	31.9
0.7	1.4	0.9	1.4	1.9	63.3	30.3	85歳以上 (n=433)	3.1	4.0	2.6	0.5	1.6	58.2	30.1
(3) 趣味関係のグループ							(4) 学習・教養サークル							
週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	な参加していない	無回答		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	な参加していない	無回答
0.5	3.5	5.1	9.6	7.6	67.8	5.8	65～69歳 (n=434)	0.0	0.8	1.5	5.3	5.3	80.0	7.1
1.2	4.3	4.5	9.7	5.0	61.3	14.0	70～74歳 (n=598)	0.3	1.0	2.8	5.0	3.2	71.3	16.3
2.5	3.5	6.6	9.7	5.8	51.3	20.6	75～79歳 (n=472)	0.8	1.4	1.2	5.0	4.5	61.7	25.4
1.2	5.1	3.9	10.9	4.8	44.2	30.0	80～84歳 (n=398)	0.5	1.7	1.2	3.9	4.6	51.9	36.2
2.2	1.8	3.6	7.4	4.2	55.1	25.7	85歳以上 (n=433)	0.3	0.7	1.0	2.6	2.4	60.2	32.8
(5) 介護予防のための通いの場							(6) 老人クラブ							
週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	な参加していない	無回答		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	な参加していない	無回答
0.0	0.5	0.5	0.8	1.0	89.4	7.8	65～69歳 (n=434)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	91.9	7.1
0.8	1.3	0.8	1.5	1.8	78.0	15.7	70～74歳 (n=598)	0.0	0.3	0.3	0.5	2.7	80.5	15.7
1.6	2.7	2.5	3.1	1.6	65.8	22.7	75～79歳 (n=472)	0.0	1.2	0.4	1.6	2.5	70.5	23.9
1.9	4.1	4.6	3.9	0.7	52.2	32.6	80～84歳 (n=398)	1.0	0.7	0.5	2.9	3.4	56.8	34.8
2.4	6.6	5.6	3.6	3.6	53.4	24.9	85歳以上 (n=433)	0.7	0.3	0.5	0.5	5.1	61.5	31.5
(7) 町内会・自治会							(8) 収入のある仕事							
週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	な参加していない	無回答		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	な参加していない	無回答
0.3	0.0	0.5	5.3	29.1	58.0	6.8	65～69歳 (n=434)	30.4	9.9	1.5	2.0	3.8	45.6	6.8
0.0	0.7	0.8	4.5	22.8	55.8	15.3	70～74歳 (n=598)	14.7	8.2	2.0	2.3	2.5	56.0	14.3
0.8	1.0	1.4	2.9	21.9	50.9	21.2	75～79歳 (n=472)	8.5	5.6	0.8	1.7	1.2	60.2	21.9
1.0	0.2	1.0	2.2	16.9	44.4	34.3	80～84歳 (n=398)	3.4	2.4	1.4	1.2	1.4	55.1	35.0
0.5	0.7	0.2	2.1	10.0	57.0	29.6	85歳以上 (n=433)	1.4	0.5	0.0	0.0	0.2	66.6	31.3

(5) 地域づくり活動の参加者としての参加意向

問7 Q13 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。〈〇は1つ〉

【図8-7 地域づくり活動の参加者としての参加意向】

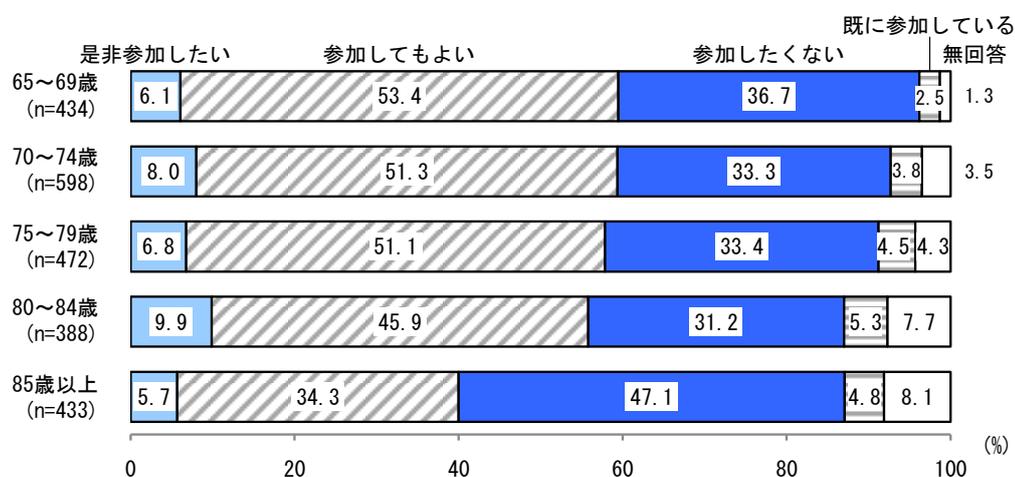


地域づくり活動の参加者としての参加意向については、「参加してもよい」が47.5%で最も多く、次いで「参加したくない」が36.2%、「是非参加したい」が7.3%となっています。

前回調査と比較すると、「参加したくない」が3.6ポイント高くなっています。(図8-7)

年齢別でみると、参加意向のある割合は、84歳以下の各年代で5割以上となっていますが、高齢になるほど低くなる傾向がみられます。(図8-7-1)

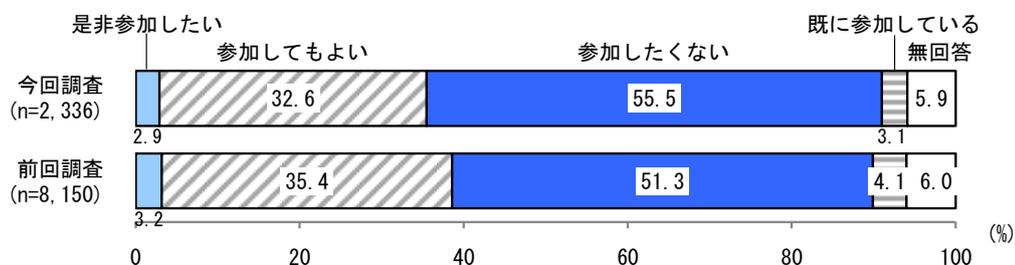
【図8-7-1 年齢別 地域づくり活動の参加者としての参加意向】



(6) 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向

問7 Q14 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。〈〇は1つ〉

【図8-8 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向】

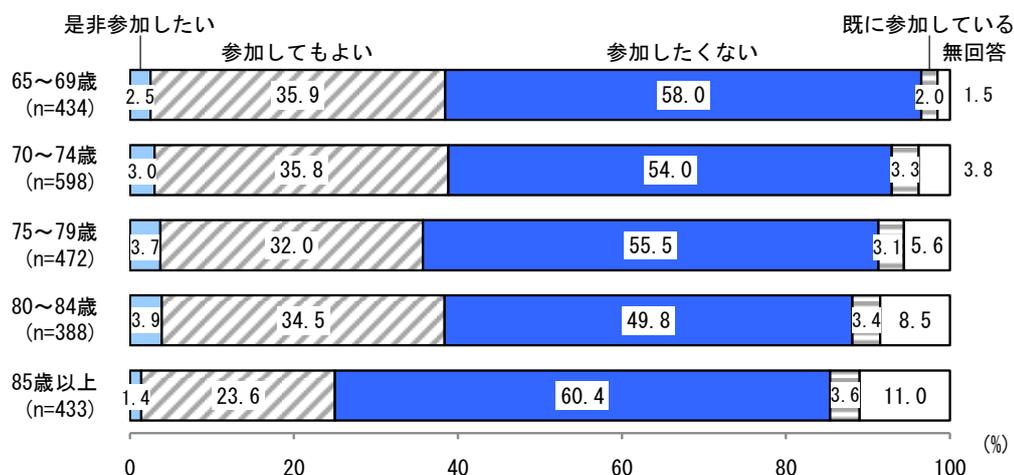


地域づくり活動の企画・運営としての参加意向については、「参加したくない」が55.5%で最も多く、次いで「参加してもよい」が32.6%、「既に参加している」が3.1%となっています。

前回調査と比較すると、「参加したくない」が4.2ポイント高くなっています。(図8-8)

年齢別でみると、参加意向のある割合は、84歳以下の各年代で3割台となっていますが、85歳以上では2割台に低下しています。(図8-8-1)

【図8-8-1 年齢別 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向】

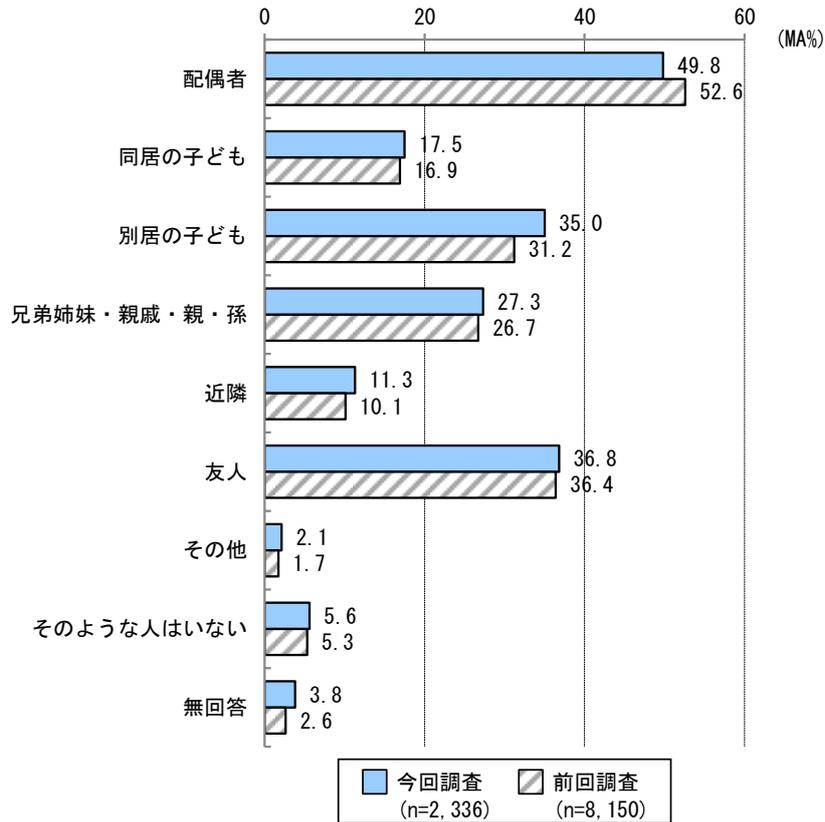


(7) たすけあいの状況

問7 Q15 あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
<(1)から(4)までそれぞれあてはまるものすべてに○>

① あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

【図8-9-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人】

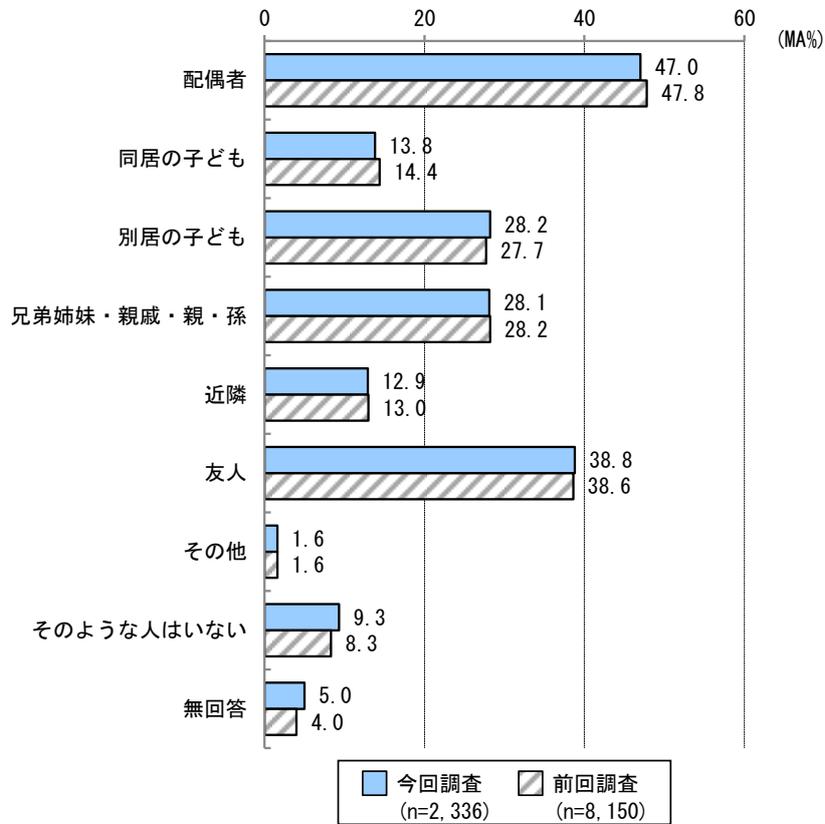


心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が49.8%で最も多く、次いで「友人」が36.8%、「別居の子ども」が35.0%となっています。

前回調査と比較すると、「別居の子ども」が3.8ポイント高くなっています。(図8-9-1)

② 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

【図8-9-2 心配事や愚痴を聞いてあげる人】

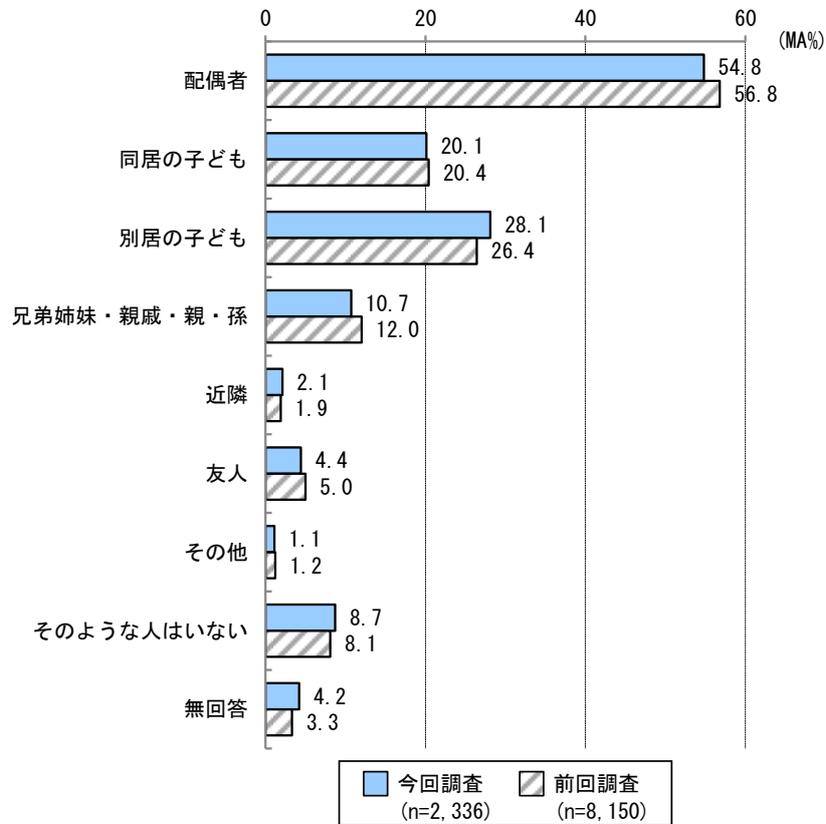


心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が47.0%で最も多く、次いで「友人」が38.8%、「別居の子ども」が28.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が28.1%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図8-9-2)

③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

【図8-9-3 看病や世話をしてくれる人】

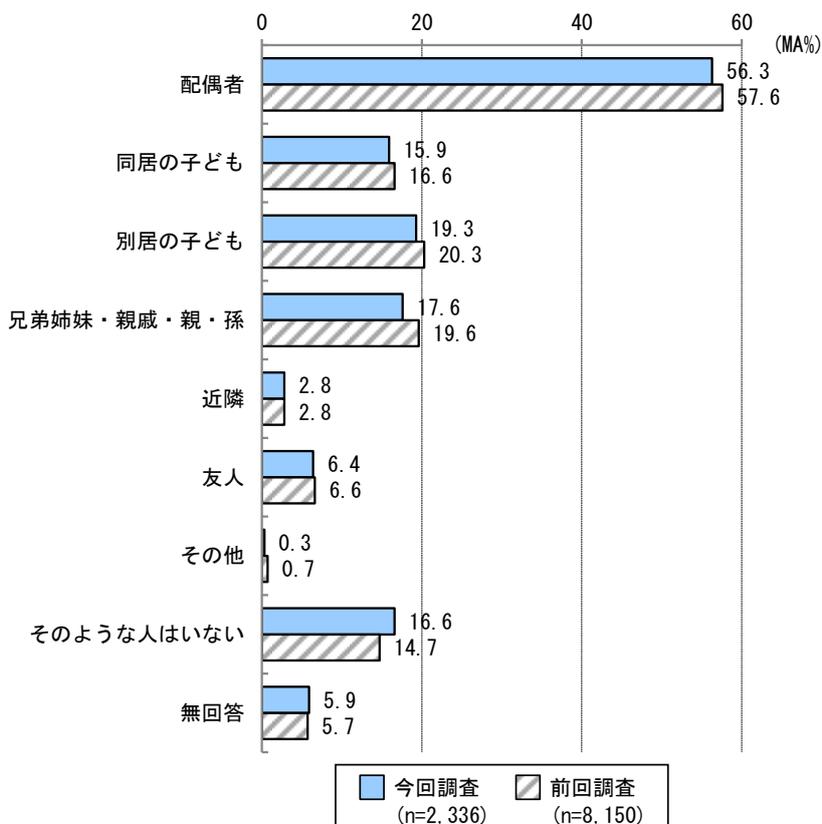


病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が54.8%で最も多く、次いで「別居の子ども」が28.1%、「同居の子ども」が20.1%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図8-9-3)

④ 反対に、あなたが看病や世話をしてくれる人

【図8-9-4 看病や世話をしてくれる人】



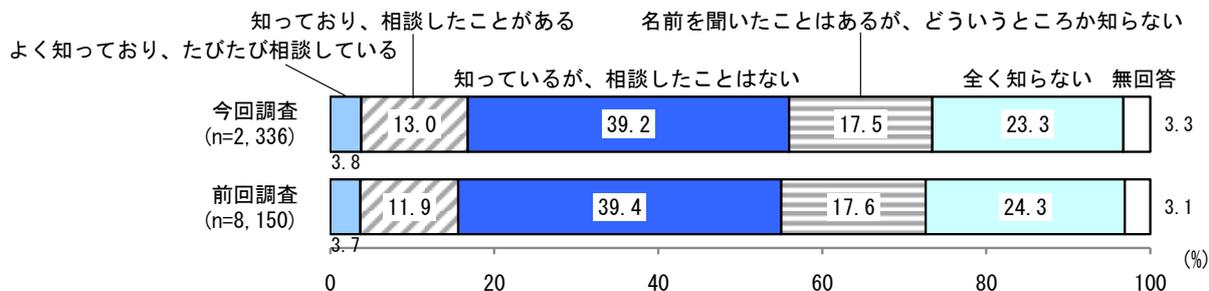
看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が56.3%で最も多く、次いで「別居の子ども」が19.3%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が17.6%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図8-9-4)

(8) 地域包括支援センターの認知・利用状況

問7 Q16 あなたは地域包括支援センター（愛称：高齢サポート）を知っていますか。また、相談したことはありますか。〈○は1つ〉

【図8-10 地域包括支援センターの認知・利用状況】

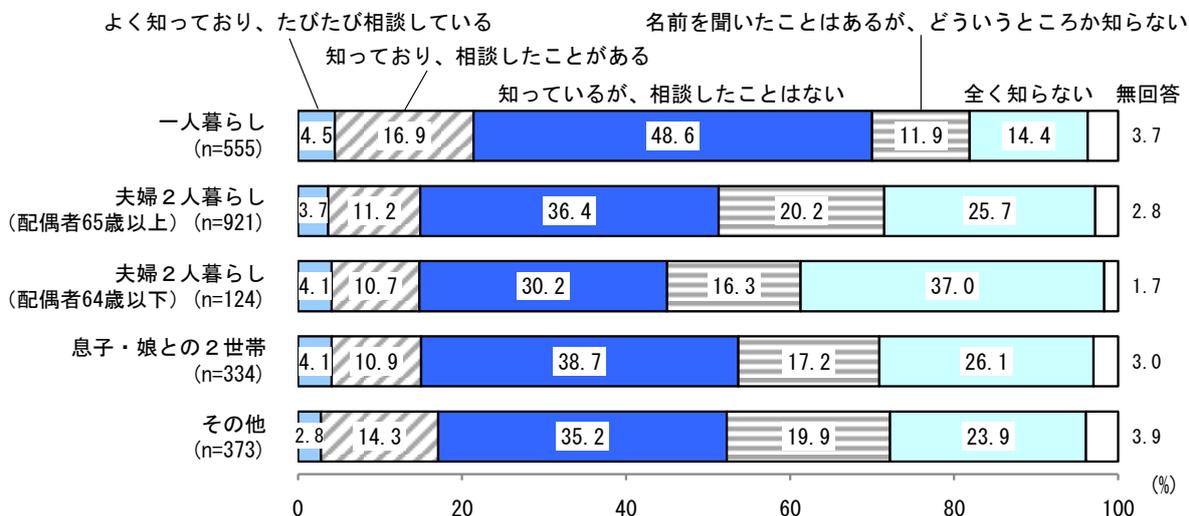


地域包括支援センターの認知・利用状況については、「知っているが、相談したことはない」が39.2%で最も多く、次いで「全く知らない」が23.3%、「名前を聞いたことはあるが、どういところか知らない」が17.5%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図8-10)

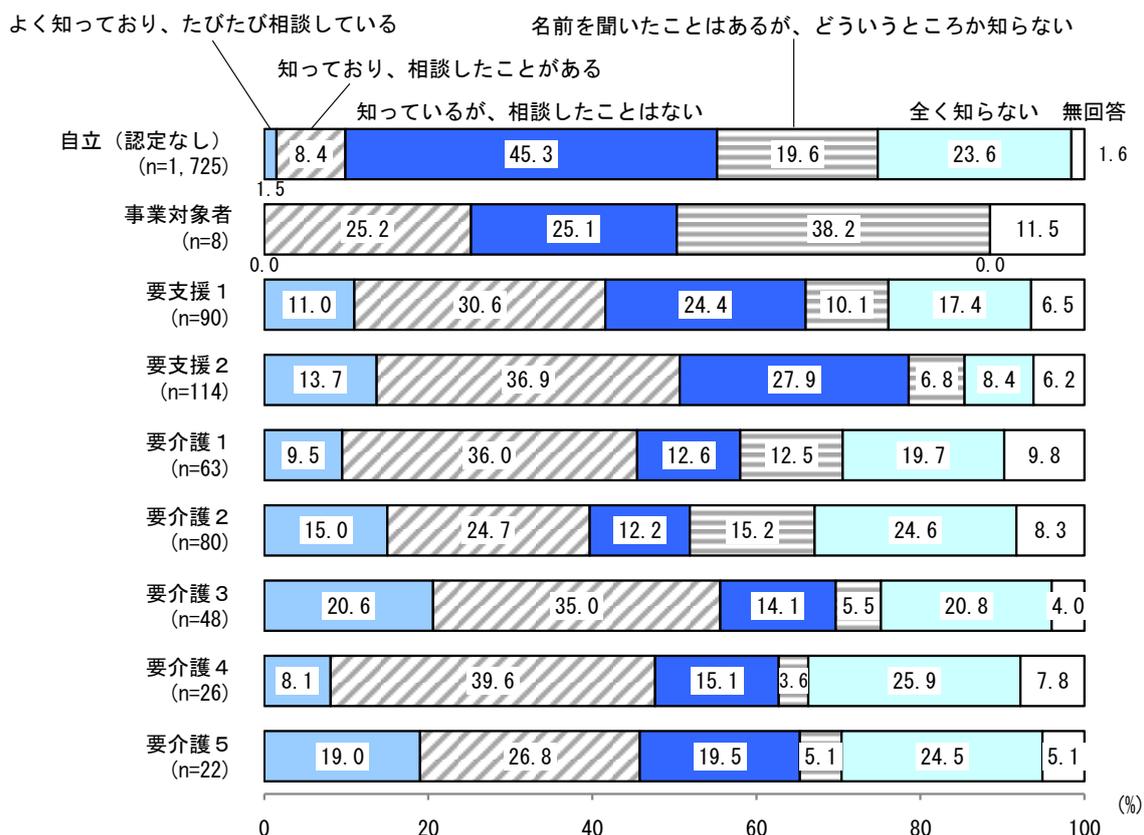
家族構成別でみると、相談経験のある割合は、一人暮らし世帯が21.4%と他の世帯より高くなっています。また、知っている割合も、一人暮らし世帯が70.0%と高く、夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上）や息子・娘との2世帯、その他世帯も5割台となっていますが、夫婦2人暮らし世帯（配偶者64歳以下）は45.0%と他の世帯と比べて低くなっています。（図8-10-1）

【図8-10-1 家族構成別 地域包括支援センターの認知・利用状況】



要介護認定区分別でみると、相談経験のある割合では、要介護2は39.7%、それ以外の認定者は4割以上となっています。なお、「よく知っており、たびたび相談している」割合では、要介護3が20.6%で最も高く、次いで要介護5が19.0%、要介護2が15.0%となっています。また、知っている割合では、自立（認定なし）の人でも55.2%となっています。（図8-10-2）

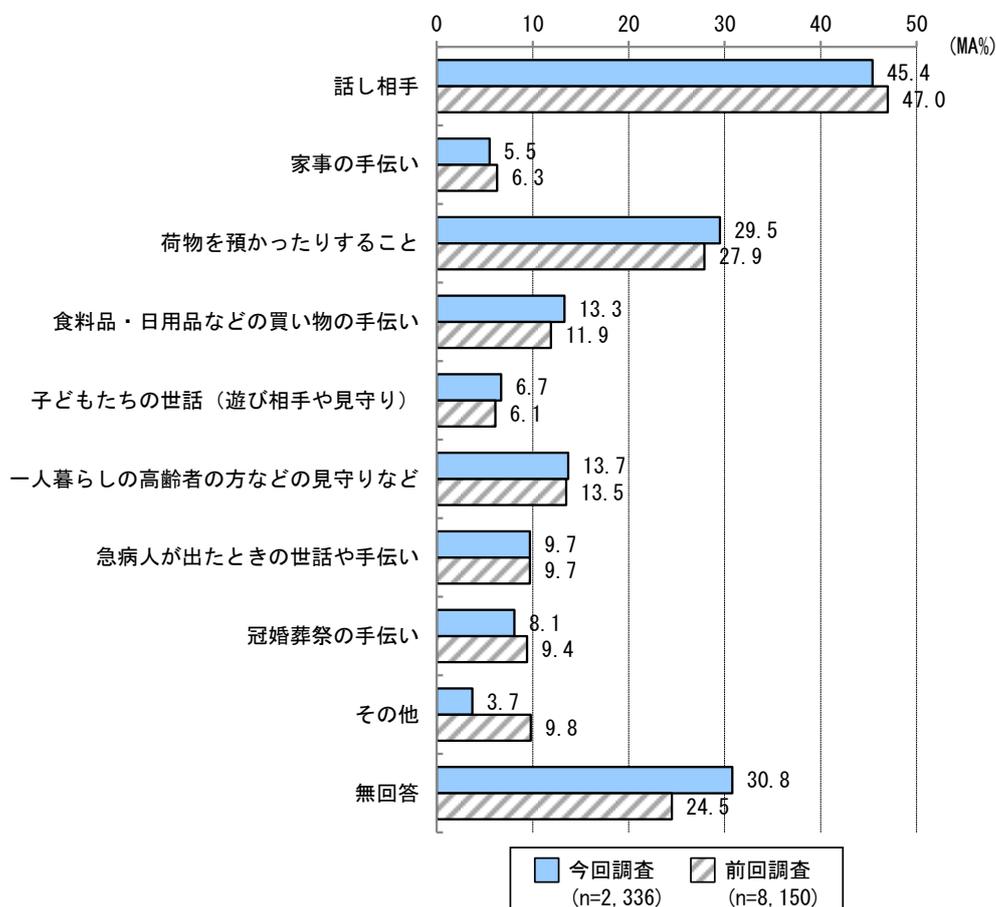
【図8-10-2 要介護認定区分別 地域包括支援センターの認知・利用状況】



(9) 近所で手助けや協力ができること

問7 Q17 近所づきあい・外出に関することについておうかがいします。
 あなた自身が御近所で手助けや協力ができることがありますか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図8-11 近所で手助けや協力ができること】



自身が近所で手助けや協力ができることについては、「話し相手」が45.4%で最も多く、次いで「荷物を預かったりすること」が29.5%、「一人暮らしの高齢者の方などの見守りなど」が13.7%となっています。

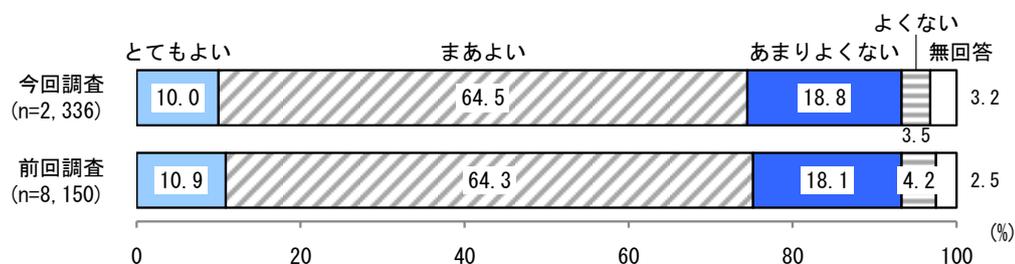
前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図8-11)

9 健康について

(1) 主観的健康観

問8 Q1 現在のあなたの健康状態はいかがですか。〈○は1つ〉

【図9-1 主観的健康観】

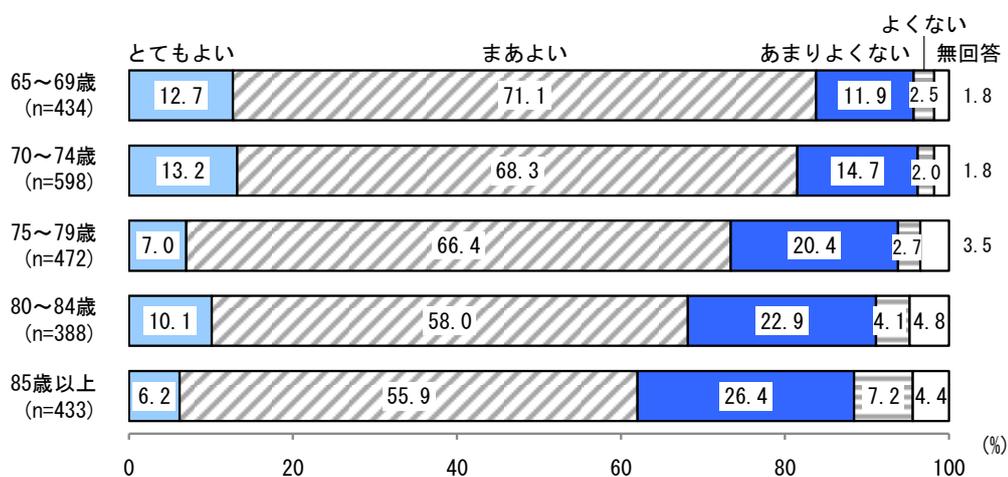


現在の健康状態については、「まあよい」が64.5%で最も多く、次いで「あまりよくない」が18.8%、「とてもよい」が10.0%となっています。また、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』割合は74.5%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図9-1)

年齢別でみると、『よい』割合は、いずれの年代も6割以上となっていますが、高齢になるほど低くなっています。(図9-1-1)

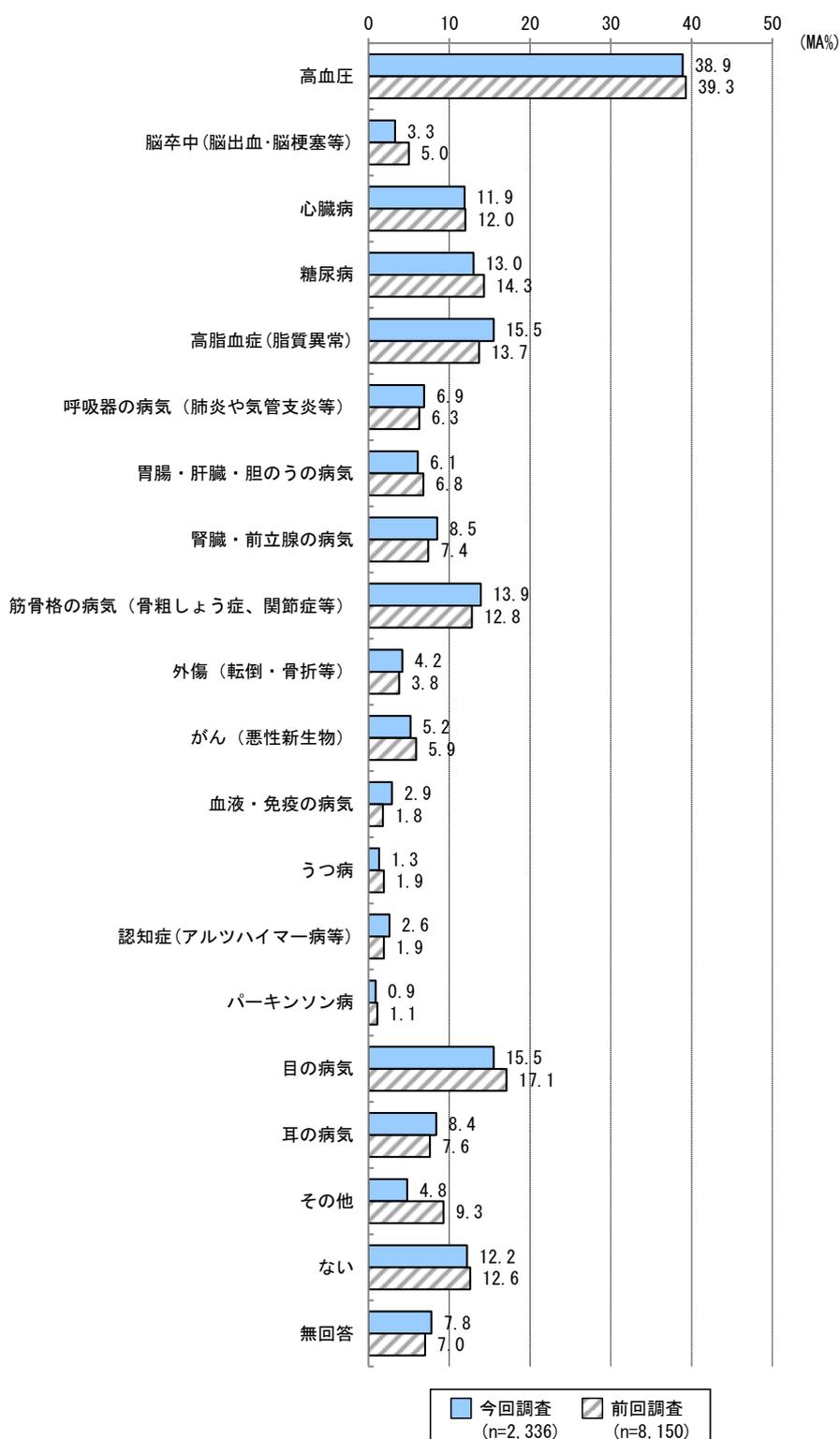
【図9-1-1 年齢別 主観的健康観】



(2) 現在治療中又は後遺症のある病気

問8 Q2 あなたは現在治療中又は後遺症のある病気はありますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図9-2 現在治療中又は後遺症のある病気】

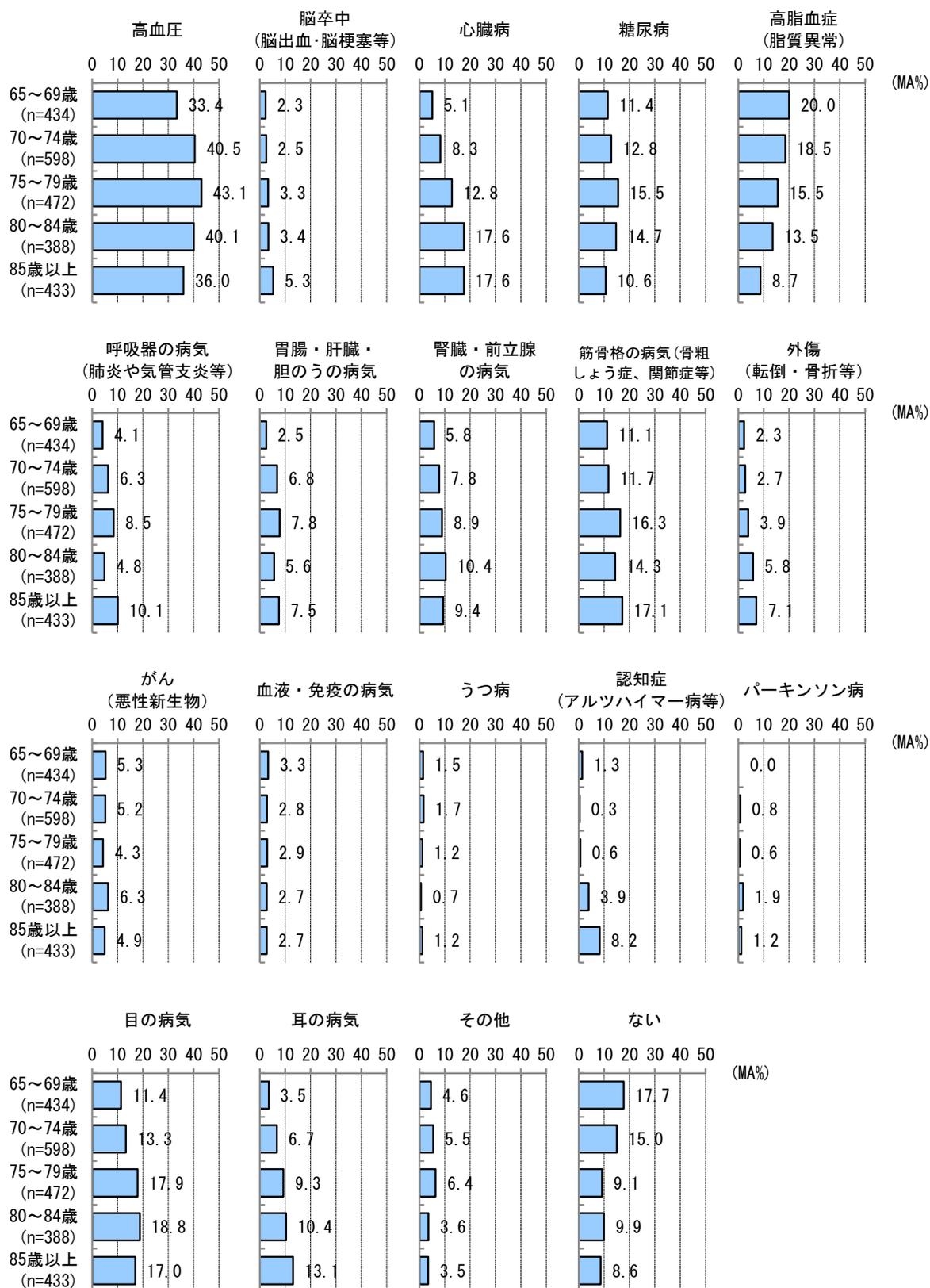


現在治療中又は後遺症のある病気については、「高血圧」が38.9%で最も多く、次いで「高脂血症(脂質異常)」と「目の病気」がともに15.5%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図9-2)

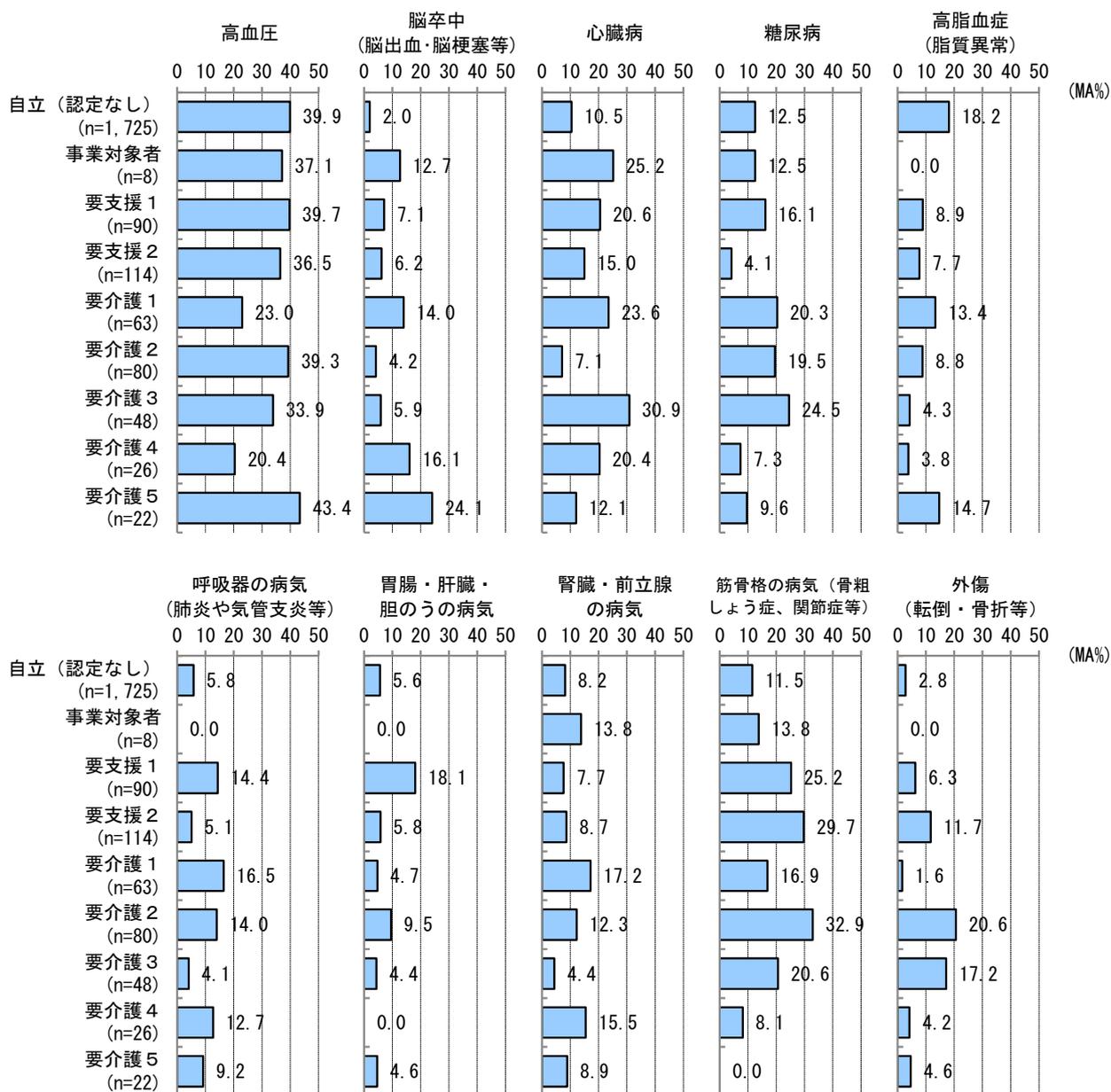
年齢別でみると、高齢になるほど、「高脂血症（脂質異常）」の割合は低くなっていますが、「心臓病」の割合は高くなっています。（図9-2-1）

【図9-2-1 年齢別 現在治療中又は後遺症のある病気】

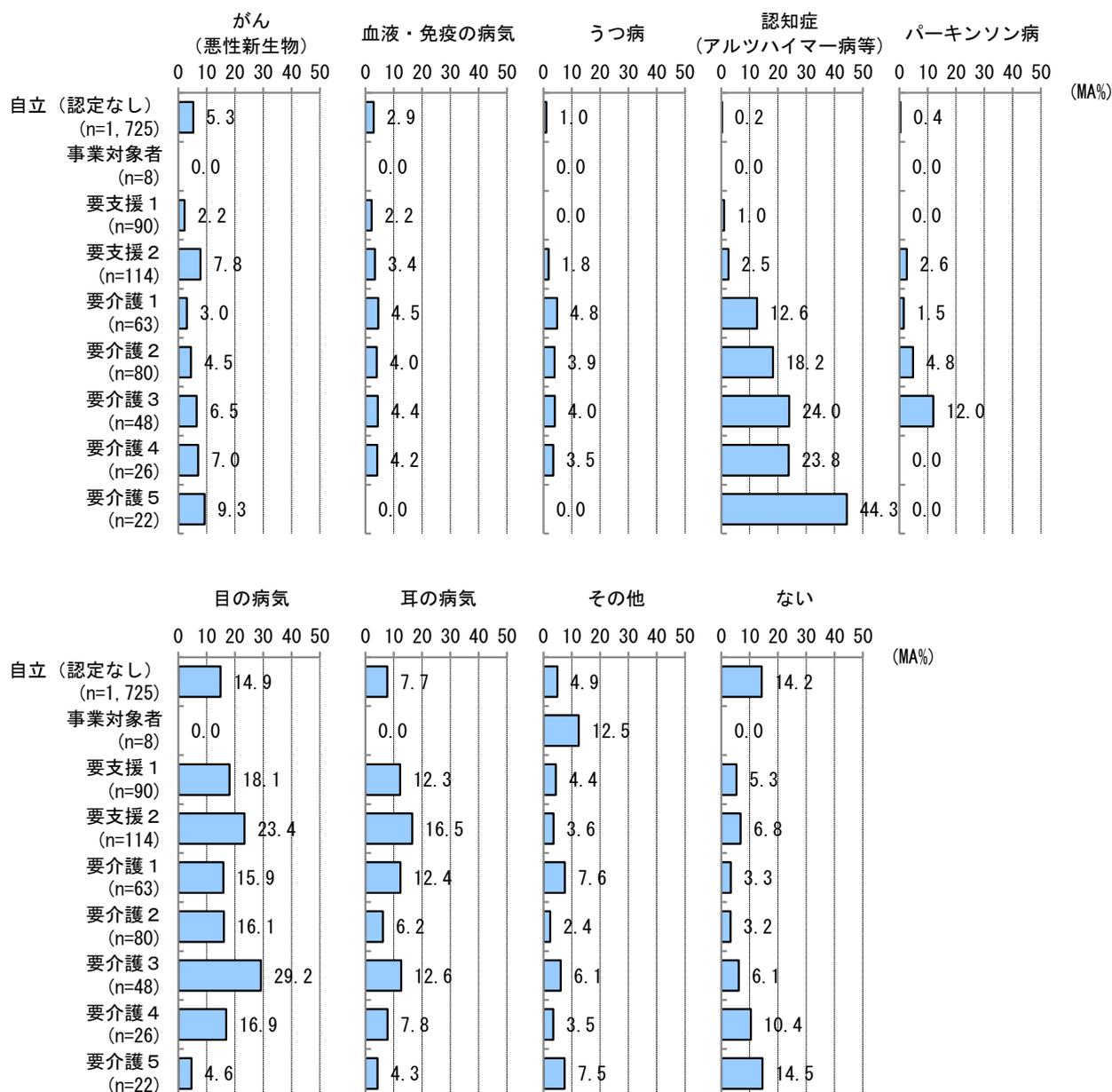


要介護認定区分別でみると、要支援1・2及び要介護2・3では「高血圧」が最も多く、次いで、要支援1・2及び要介護2は「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、要介護3は「心臓病」が、それぞれ多くなっています。要介護1では「心臓病」が最も多く、次いで「高血圧」となっています。要介護4・5では「認知症（アルツハイマー病等）」が最も多くなっており、次いで「高血圧」が多く、要介護4では同率で「心臓病」も2番目に多くなっています。（図9-2-2）

【図9-2-2 要介護認定区分別 現在治療中又は後遺症のある病気①】



【図9-2-2 要介護認定区分別 現在治療中又は後遺症のある病気②】



日常生活の中で不自由に感じていること別でみると、いずれの項目も「高血圧」が1番目に多くなっており、家事や買い物、外出など身体を動かすことに不自由を感じている人は「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が2番目に多くなっています。また、衣服の着脱・食事・入浴に関すること、自分を介助する家族などの負担が大きいことでは「認知症(アルツハイマー病等)」が上位に挙がっています。(表9-2-3)

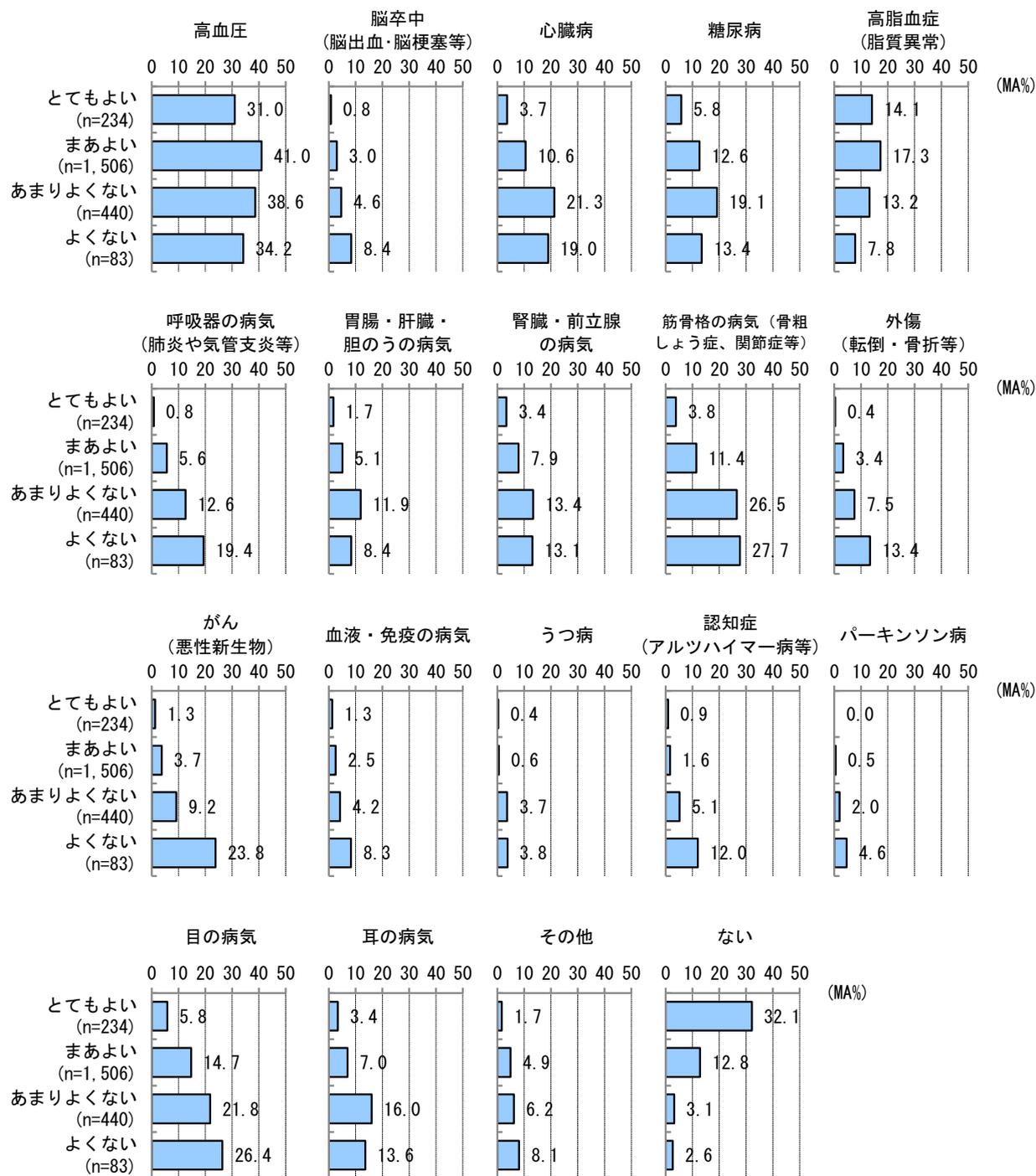
【表9-2-3 日常生活の中で不自由に感じていること別 現在治療中又は後遺症のある病気（上位5項目）】

（単位：MA%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
食事の準備・後片付けをすること (n=291)	高血圧 37.2	目の病気 17.9	心臓病 17.5	糖尿病 17.0	腎臓・前立腺の 病気 14.9
掃除・ごみ出し・洗濯などの家事をすること (n=324)	高血圧 39.6	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 20.2	心臓病 17.1	目の病気 16.5	糖尿病 15.9
衣服の着脱・食事・入浴に関すること (n=157)	高血圧 38.9	目の病気 22.1	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 20.6	認知症(アルツ ハイマー病等) 17.7	心臓病 16.0
身体機能の維持・向上のための運動教室を 受ける場がないこと (n=283)	高血圧 44.8	高脂血症(脂質 異常) 19.7	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 17.0	糖尿病 16.9	目の病気 15.7
段差や間取り、耐震など住まいの建物構造に 関すること (n=322)	高血圧 47.4	目の病気 20.1	高脂血症(脂質 異常) 17.7	糖尿病 16.1	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 15.6
契約や財産管理の手続きをすること (n=322)	高血圧 40.5	目の病気 20.3	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 19.3	高脂血症(脂質 異常) 16.0	糖尿病 14.7
相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと (n=164)	高血圧 36.3	目の病気 23.9	高脂血症(脂質 異常) 18.0	糖尿病 16.4	腎臓・前立腺の 病気 14.4
外出時の移動が負担であること (n=258)	高血圧 38.6	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 27.4	目の病気 19.4	糖尿病 18.8	心臓病 17.4
病院に通院すること (n=227)	高血圧 40.4	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 25.8	糖尿病 22.9	目の病気 20.2	耳の病気 15.5
近くに話し相手がないこと (n=184)	高血圧 34.7	糖尿病 20.3	目の病気 18.7	高脂血症(脂質 異常) 16.1	耳の病気 15.7
自分を介助する家族などの負担が大きいこと (n=87)	高血圧 40.9	目の病気 22.5	腎臓・前立腺の 病気 21.9	心臓病 21.6	認知症(アルツ ハイマー病等) 20.3
買い物したり、荷物を持ち運ぶこと (n=347)	高血圧 35.3	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 24.8	目の病気 19.7	心臓病 17.3	高脂血症(脂質 異常) 15.7
高齢者同士や世代を超えた交流が行える ような居場所がないこと (n=221)	高血圧 39.0	目の病気 20.3	糖尿病 18.9	高脂血症(脂質 異常) 17.9	心臓病 16.1
住宅の軽微な修繕に関すること (n=456)	高血圧 39.3	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 19.9	高脂血症(脂質 異常) 19.3	目の病気 19.2	心臓病 13.0
電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ 等をする事 (n=488)	高血圧 39.0	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 24.8	目の病気 18.2	高脂血症(脂質 異常) 18.0	心臓病 12.8
その他 (n=97)	高血圧 35.1	目の病気 21.6	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等) 20.5	心臓病 15.0	高脂血症(脂質 異常) 13.3

主観的健康観別でみると、多くの項目で、健康状態がよくない人ほど割合が高くなる傾向がみられますが、「高脂血症（脂質異常）」では健康状態がよい人のほうが高い割合になっています。（図9-2-4）

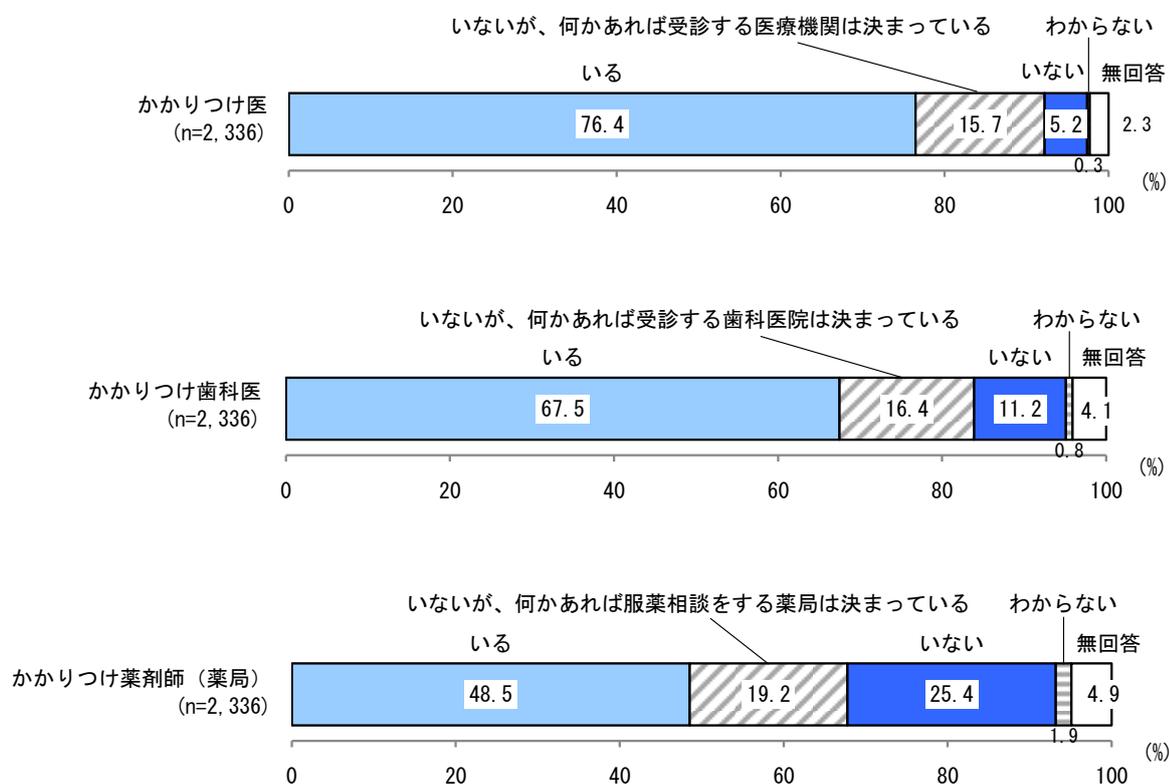
【図9-2-4 主観的健康観別 現在治療中又は後遺症のある病気】



(3) かかりつけ医等の有無

問8Q3 あなたには、気軽に相談でき、何かあれば診療を受ける、決まった「(1)かかりつけ医」、「(2)かかりつけ歯科医」、「(3)かかりつけ薬剤師(薬局)」がいますか。
 <(1)から(3)までそれぞれ〇は1つずつ>

【図9-3 かかりつけ医等の有無】



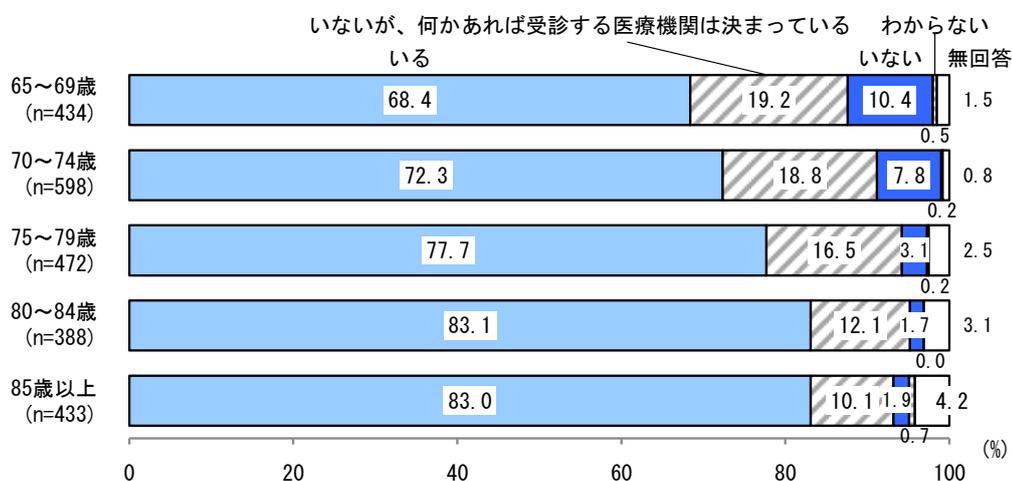
かかりつけ医の有無については、「いる」が76.4%で最も多く、次いで「いないが、何かあれば受診する医療機関は決まっている」が15.7%、「いない」が5.2%となっています。

かかりつけ歯科医の有無については、「いる」が67.5%で最も多く、次いで「いないが、何かあれば受診する歯科医院は決まっている」が16.4%、「いない」が11.2%となっています。

かかりつけ薬剤師(薬局)の有無については、「いる」が48.5%で最も多く、次いで「いない」が25.4%、「いないが、何かあれば服薬相談をする薬局は決まっている」が19.2%となっています。(図9-3)

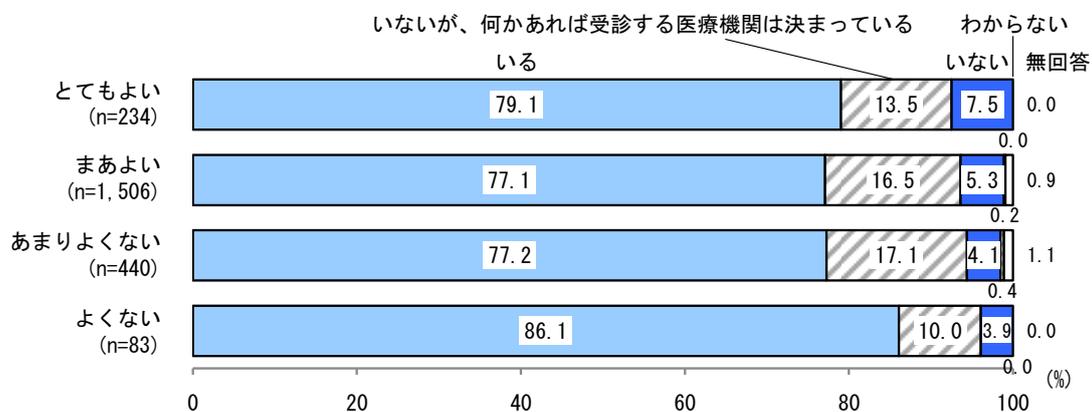
かかりつけ医の有無を、年齢別で見ると、「いる」が、いずれの年代も6割以上となっています。一方、「いない」では、65～69歳が10.4%となっています。(図9-3-1)

【図9-3-1 年齢別 かかりつけ医の有無】



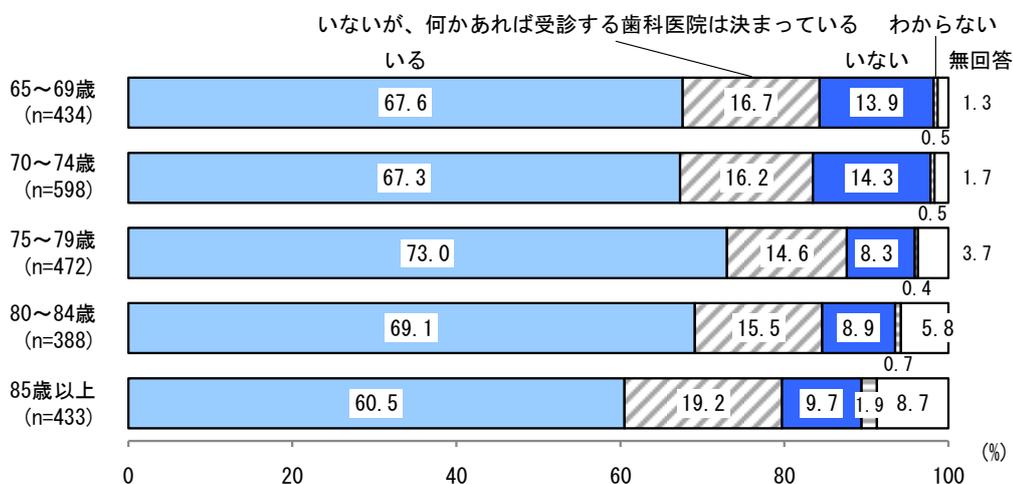
かかりつけ医の有無を、主観的健康観別で見ると、「いる」は、健康状態にかかわらず7割以上となっており、健康状態がよくない人では86.1%となっています。(図9-3-2)

【図9-3-2 主観的健康観別 かかりつけ医の有無】



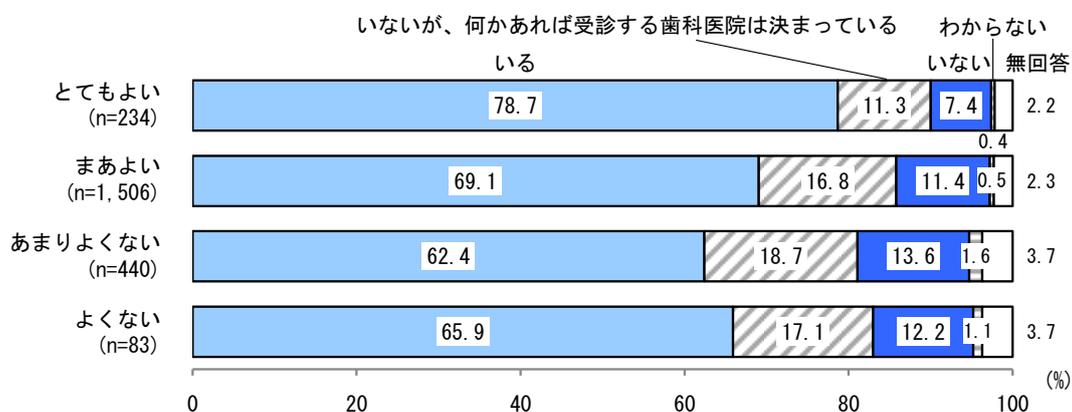
かかりつけ歯科医の有無を、年齢別で見ると、「いる」は、いずれの年代も6割以上となっています。一方、「いない」では、70～74歳が14.3%、65～69歳が13.9%となっています。(図9-3-3)

【図9-3-3 年齢別 かかりつけ歯科医の有無】



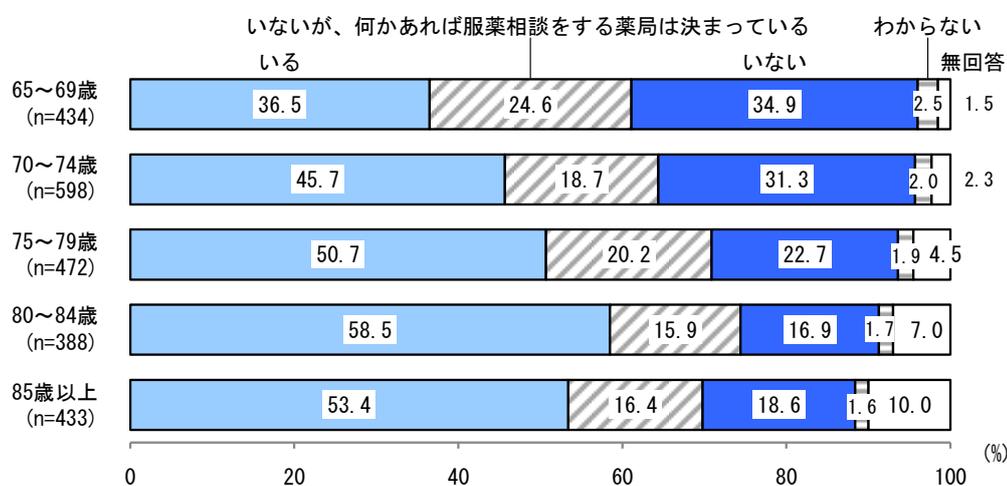
かかりつけ歯科医の有無を、主観的健康観別で見ると、「いる」は、健康状態にかかわらず6割以上となっており、健康状態のよい人のほうが高い割合となっています。(図9-3-4)

【図9-3-4 主観的健康観別 かかりつけ歯科医の有無】



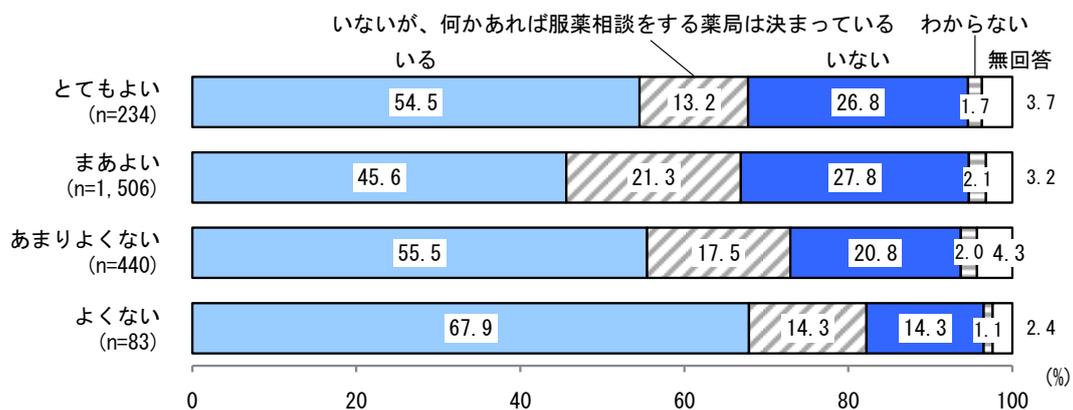
かかりつけ薬剤師（薬局）の有無を、年齢別でみると、「いる」は、年代があがるほど割合が高くなる傾向がみられ、75歳以降になると5割以上となります。（図9-3-5）

【図9-3-5 年齢別 かかりつけ薬剤師（薬局）の有無】



かかりつけ薬剤師（薬局）の有無を、主観的健康観別でみると、「いる」は、健康状態にかかわらず最も多くなっていますが、健康状態がまあよい人は45.6%と他の健康状態の人より低い割合になっています。（図9-3-6）

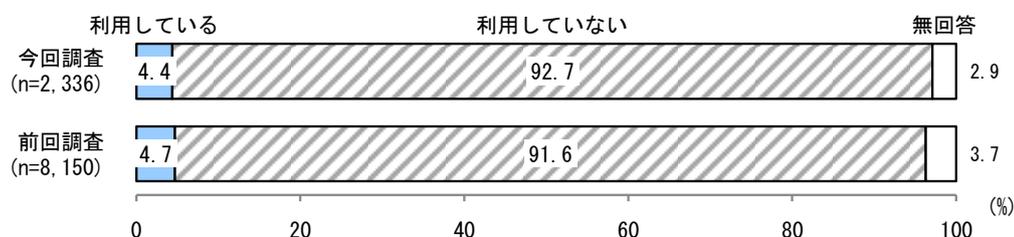
【図9-3-6 主観的健康観別 かかりつけ薬剤師（薬局）の有無】



(4) 訪問診療の利用有無

問8Q4 あらかじめ、かかりつけ医等の医師が診療計画を立てて、月1～2回程度定期的に患者さんの居宅に訪問することを訪問診療といいます。あなたは、現在、訪問診療を利用していますか。〈○は1つ〉

【図9-4 訪問診療の利用有無】



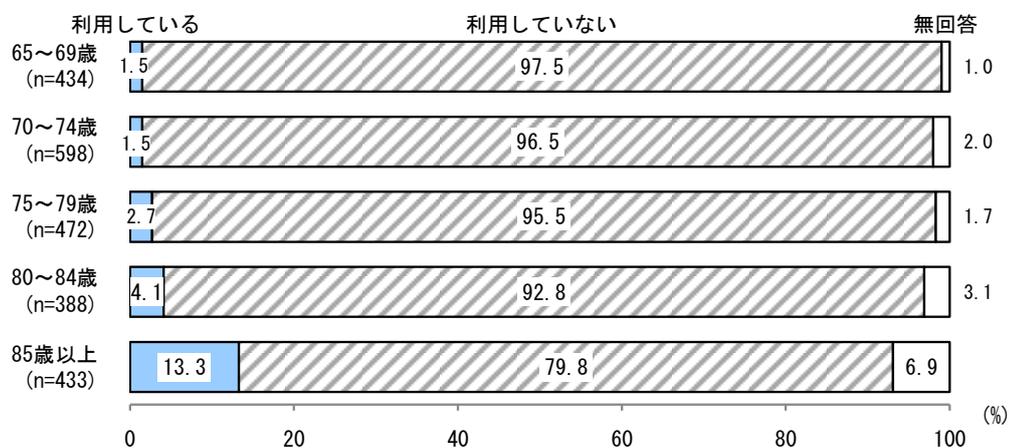
訪問診療の利用有無については、「利用している」が4.4%、「利用していない」が92.7%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図9-4)

年齢別でみると、「利用している」は、85歳以上が13.3%で比較的高い割合になっています。

(図9-4-1)

【図9-4-1 年齢別 訪問診療の利用有無】



(5) 訪問歯科診療の利用有無

問8Q5 あらかじめ、かかりつけ歯科医等の医師が診療計画を立てて、月1～2回程度定期的に患者さんの居宅に訪問することを訪問歯科診療といいます。あなたは、現在、訪問歯科診療を利用していますか。〈○は1つ〉

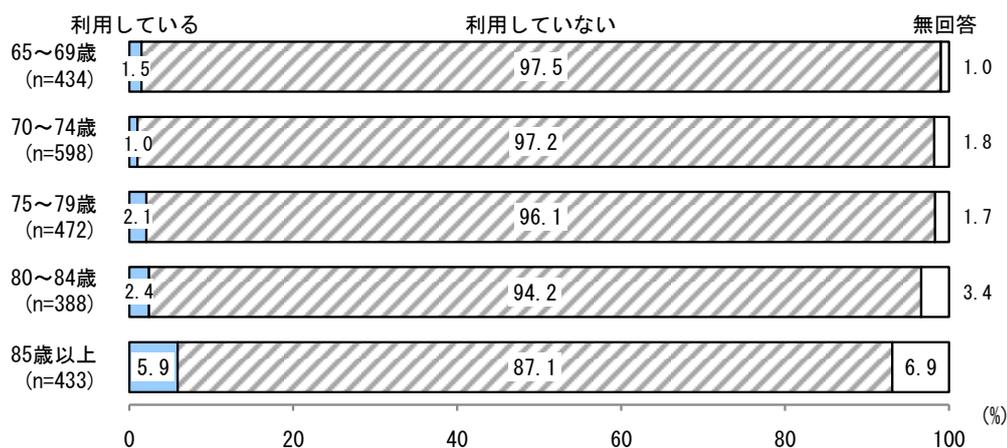
【図9-5 訪問歯科診療の利用有無】



訪問歯科診療の利用有無については、「利用している」が2.5%、「利用していない」が94.6%となっています。(図9-5)

年齢別でみると、「利用している」は、85歳以上が5.9%で比較的高い割合になっています。(図9-5-1)

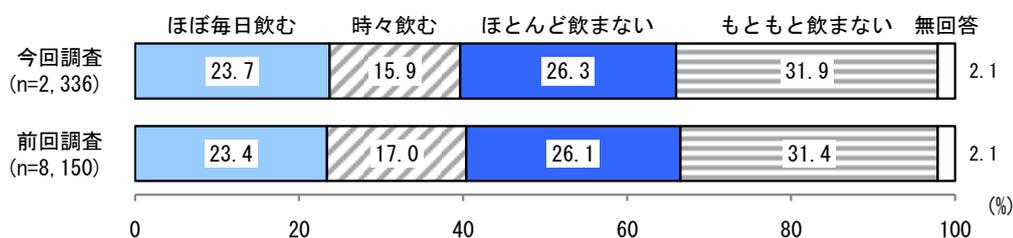
【図9-5-1 年齢別 訪問歯科診療の利用有無】



(6) 飲酒習慣

問8Q6 あなたはお酒を飲みますか。〈○は1つ〉

【図9-6 飲酒習慣】

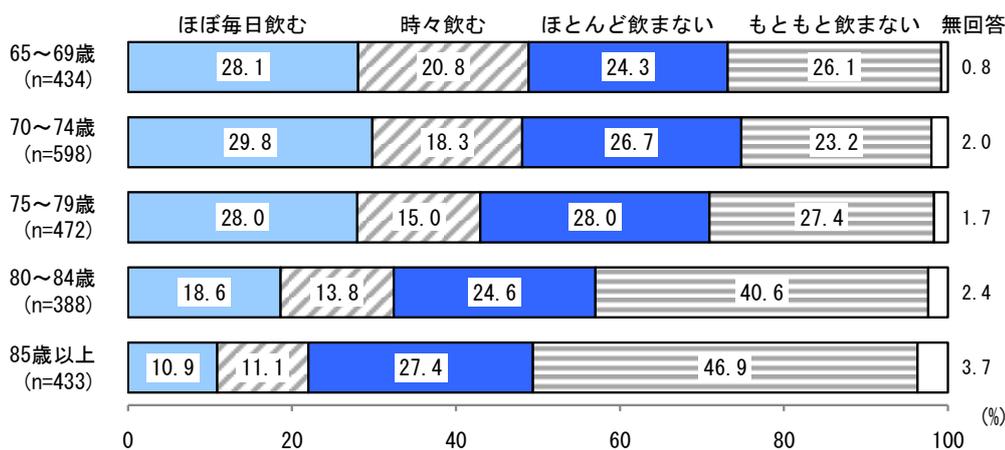


飲酒習慣については、「もともと飲まない」が31.9%で最も多く、次いで「ほとんど飲まない」が26.3%、「ほぼ毎日飲む」が23.7%となっています。「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』割合は39.6%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図9-6)

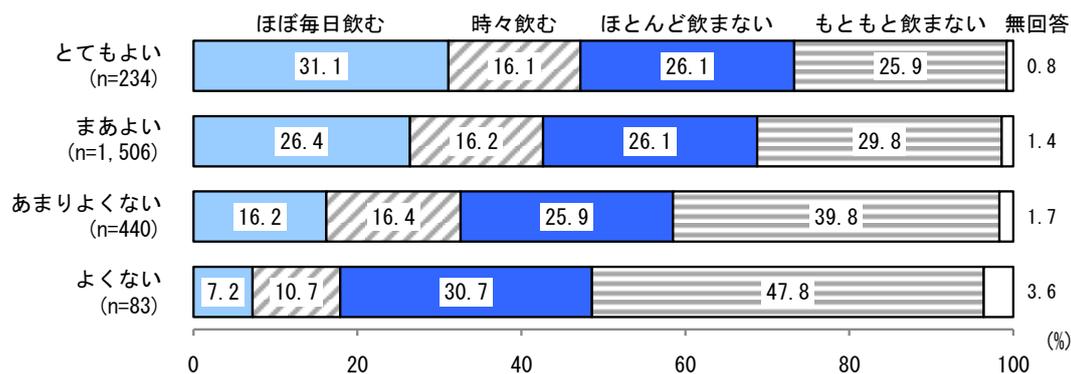
年齢別でみると、79歳以下の各年代で「ほぼ毎日飲む」が約3割を占めていますが、高齢になるほど『飲む』割合が低くなっています。(図9-6-1)

【図9-6-1 年齢別 飲酒習慣】



主観的健康観別でみると、「ほぼ毎日飲む」及び『飲む』割合は、健康状態がよい人ほど高くなっています。(図9-6-2)

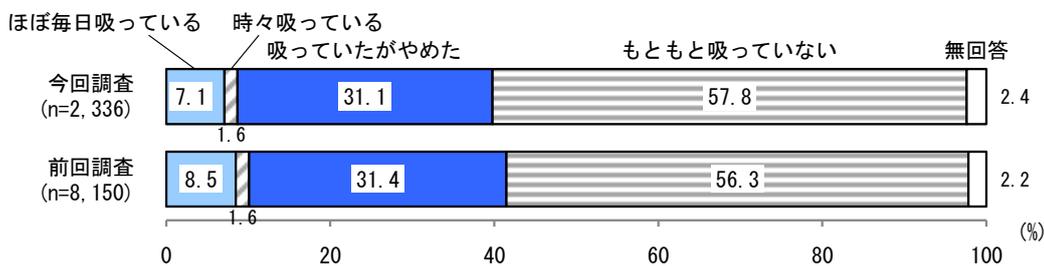
【図9-6-2 主観的健康観別 飲酒習慣】



(7) 喫煙習慣

問8 Q7 あなたはタバコを吸っていますか。〈○は1つ〉

【図9-7 喫煙習慣】

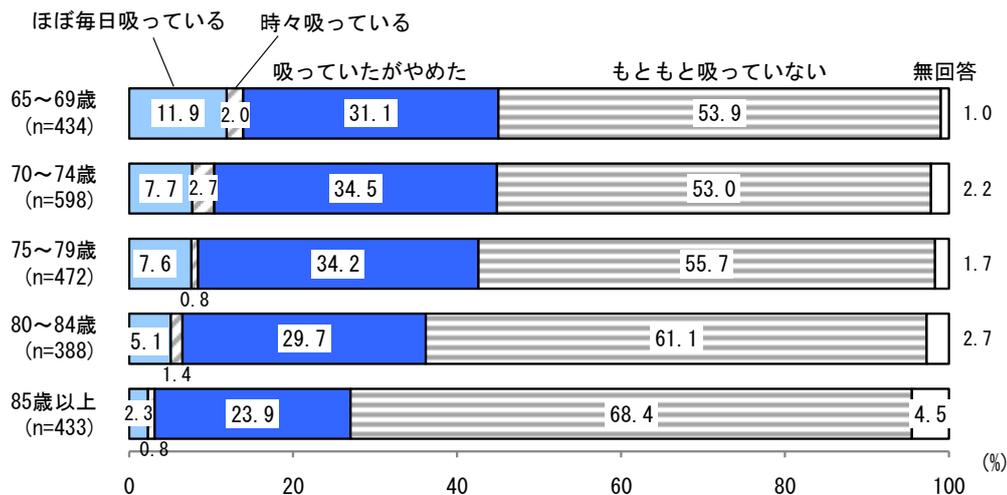


喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が57.8%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が31.1%、「ほぼ毎日吸っている」が7.1%となっています。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』割合は8.7%となっています。

前回調査と比較すると、『吸っている』割合が1.4ポイント低くなっています。(図9-7)

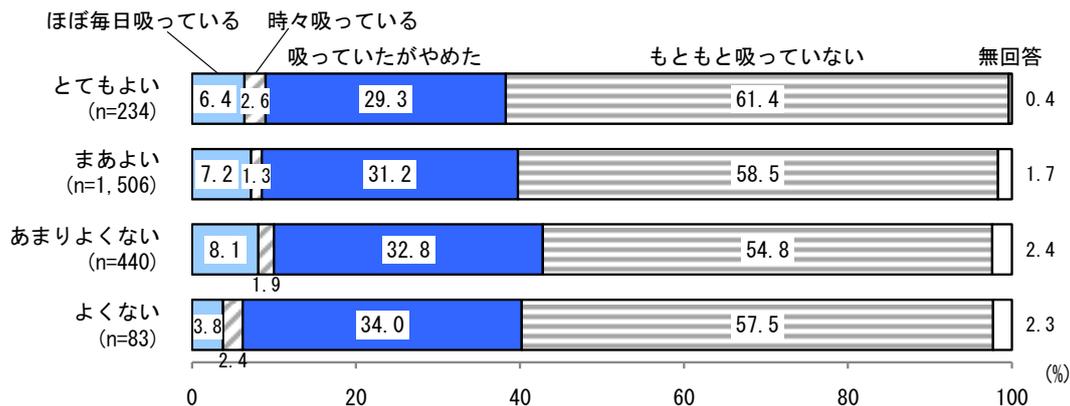
年齢別でみると、「ほぼ毎日吸っている」割合は、65～69歳で11.9%と最も高く、高齢になるほど低くなっています。(図9-7-1)

【図9-7-1 年齢別 喫煙習慣】



主観的健康観別でみると、「ほぼ毎日吸っている」割合は、健康状態があまりよくない人が8.1%で最も高く、次いで、まあよい人が7.2%、とてもよい人が6.4%、よくない人は3.8%となっています。(図9-7-2)

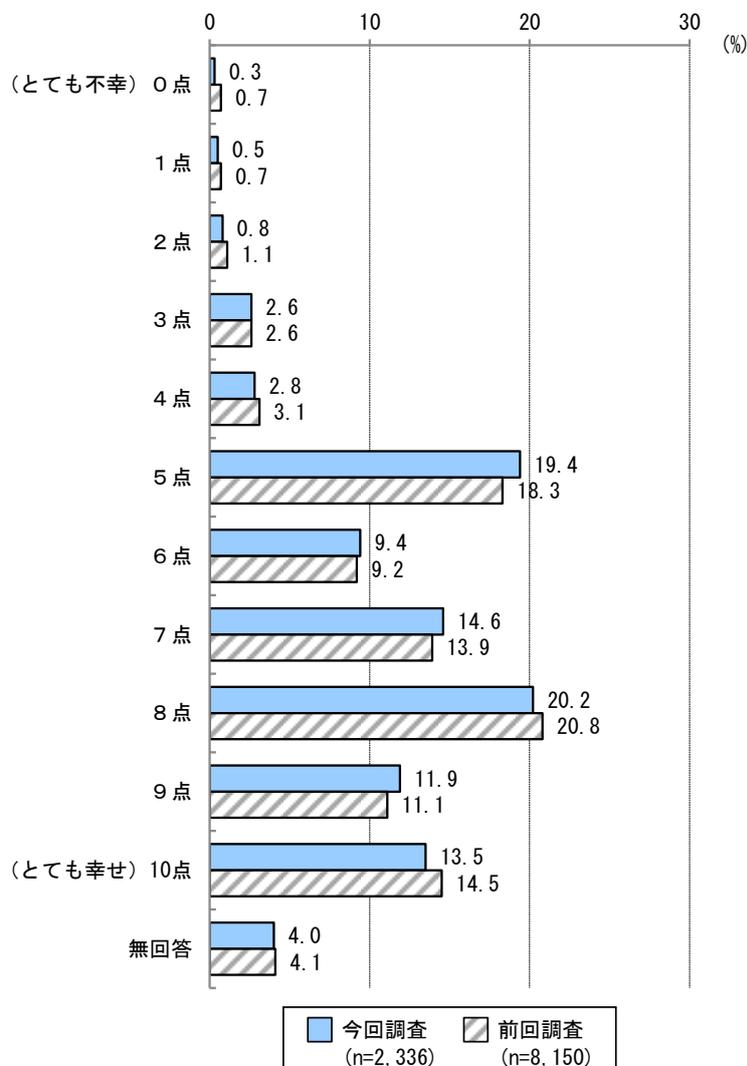
【図9-7-2 主観的健康観別 喫煙習慣】



(8) 幸福度

問8Q8 あなたは現在どの程度幸せですか(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)。<〇は1つ>

【図9-8 幸福度】



幸福度については、「8点」が20.2%で最も多く、次いで「5点」が19.4%、「7点」が14.6%となっており5点以上の割合は89.0%となっています。また、平均点は7.1点となっています。

前回調査と比較すると、5点以上の割合は1.2ポイント高くなっています。(図9-8)

年齢別でみると、いずれの年代も平均点数は7点台となっています。(表9-8-1)

主観的健康観別でみると、健康状態がよい人ほど平均点数は高く、とてもよい人で8.3点となっています。(表9-8-2)

【表9-8-1 年齢別 幸福度】

	平均 (点)
全体	7.1
65~69歳	7.1
70~74歳	7.1
75~79歳	7.2
80~84歳	7.1
85歳以上	7.0

【表9-8-2 主観的健康観別 幸福度】

	平均 (点)
全体	7.1
とてもよい	8.3
まあよい	7.2
あまりよくない	6.2
よくない	5.6

(9) うつリスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問2問中1問以上に該当した場合にうつの「リスクあり」に該当します。

表 うつに関する設問（基本チェックリスト）

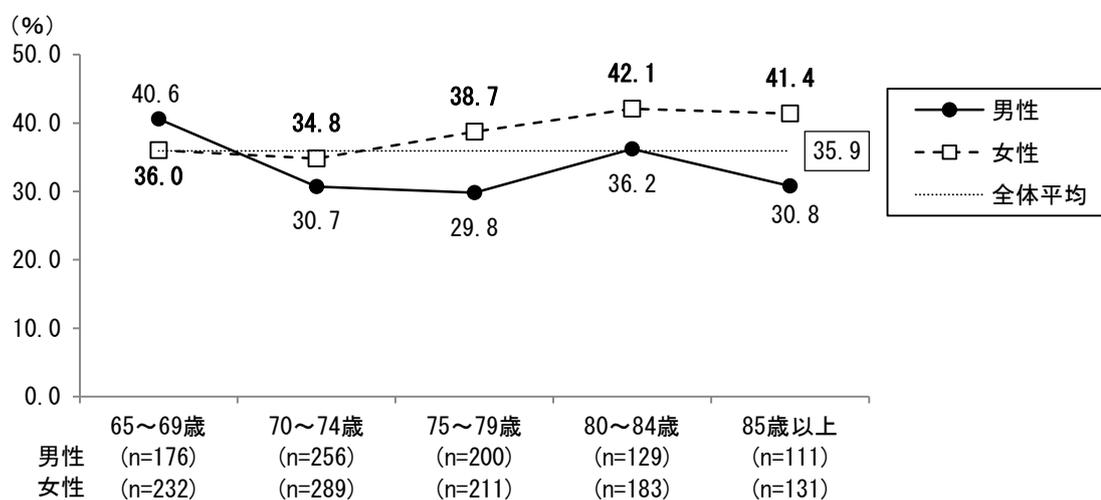
問番号	設問	該当する選択肢
問8Q9 (1)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「はい」
問8Q9 (2)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「はい」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者1,936人のうち、うつの「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で35.9%となっています。

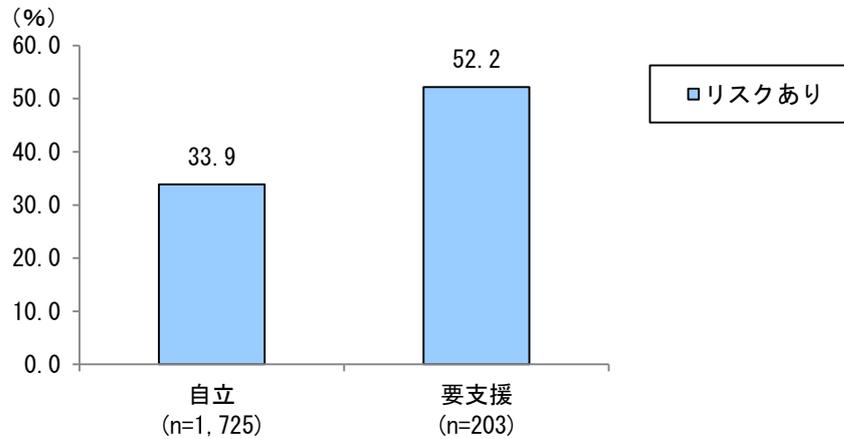
性・年齢別でみると、男性は65～69歳が40.6%で最も高く、80～84歳で36.2%となっていますが、70歳代と85歳以上は3割前後となっています。一方、女性は79歳以下まで3割台、80歳以降になると4割台に上昇しています。また、女性の70歳以降は同年代の男性より高い割合になっています。(図9-9-1)

【図9-9-1 性・年齢別 うつリスク】



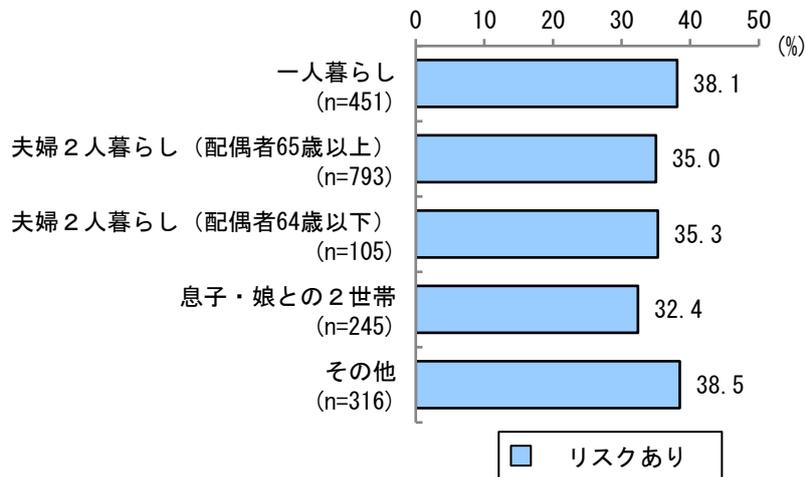
自立・要支援別で見ると、自立が33.9%に対し、要支援者が52.2%と高くなっています。(図9-9-2)

【図9-9-2 自立・要支援別 うつリスク】



家族構成別で見ると、その他世帯が38.5%で最も高く、次いで一人暮らし世帯が38.1%となっています。また、息子・娘との2世帯は32.4%と他の世帯より比較的低い割合となっています。(図9-9-3)

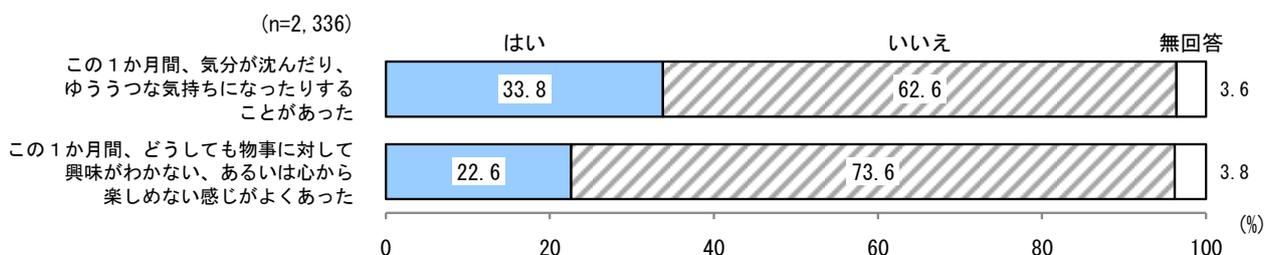
【図9-9-3 家族構成別 うつリスク】



③ うつリスク判定に関する項目の回答状況

問8Q9 あなたの心身の状況についておうかがいします。＜(1)から(2)までそれぞれ○は1つずつ＞
(1) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
(2) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

【図9-10 うつリスク判定に関する項目】



この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が33.8%、「いいえ」が62.6%となっています。

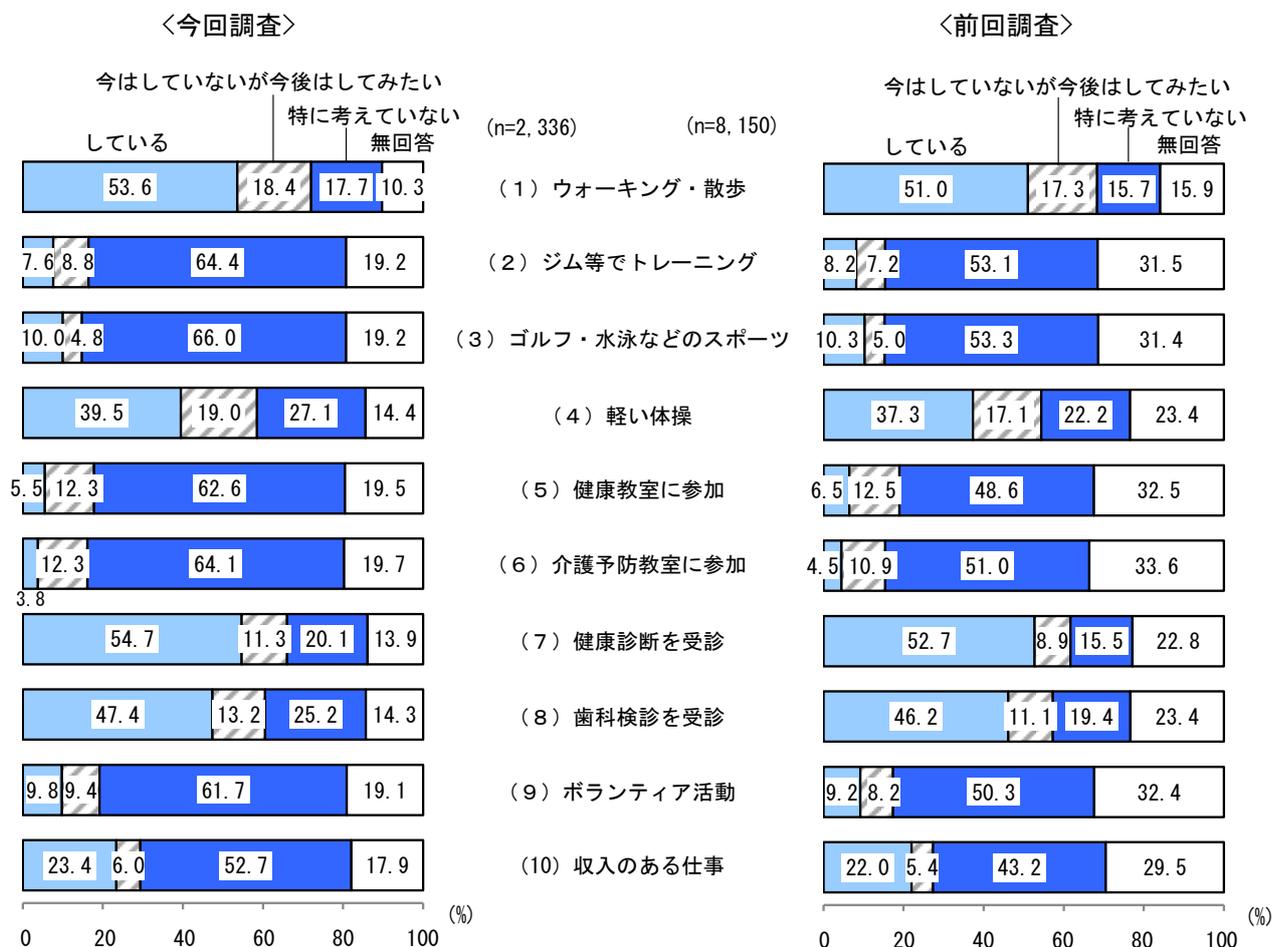
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについては、「はい」が22.6%、「いいえ」が73.6%となっています。(図9-10)

10 健康づくりや介護予防、見守りについて

(1) 健康づくりや介護予防で取り組んでいること

問9 Q1 あなたは、健康づくりや介護予防のために、どのようなことをしていますか。
 <(1)から(10)までそれぞれ〇は1つつつ>

【図10-1 健康づくりや介護予防で取り組んでいること】



健康づくりや介護予防で取り組んでいることについて、「している」割合では、「(7) 健康診断を受診」が54.7%で最も高く、次いで「(1) ウォーキング・散歩」が53.6%、「(8) 歯科検診を受診」が47.4%となっています。

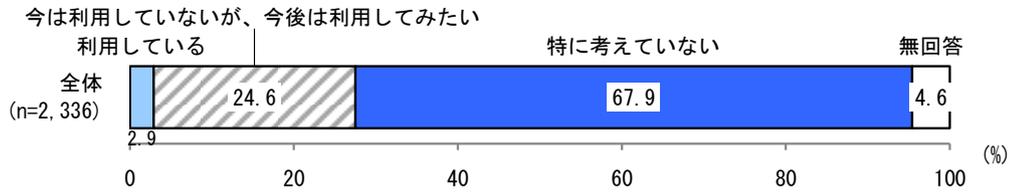
「今はしていないが今後はしてみたい」割合では、「(4) 軽い体操」が19.0%で最も高く、次いで「(1) ウォーキング・散歩」が18.4%、「(8) 歯科検診を受診」が13.2%となっています。

前回調査と比較すると、「している」割合が高くなった取組は、「(1) ウォーキング・散歩」で2.6ポイント、「(4) 軽い体操」で2.2ポイント、「(7) 健康診断を受診」で2.0ポイント、「(10) 収入のある仕事」で1.4ポイント、「(8) 歯科検診の受診」で1.2ポイント、「(9) ボランティア活動」で0.6ポイントとなっています。(図10-1)

(2) 緊急時の見守り・駆け付けサービスの利用状況

問9Q2 あなたは、緊急時の見守り・駆け付けサービスを利用していますか。(京都市の緊急通報システム事業を除く) <○は1つ>

【図10-2 緊急時の見守り・駆け付けサービスの利用状況】



緊急時の見守り・駆け付けサービスを利用しているかについては、「特に考えていない」が67.9%で最も多く、次いで「今は利用していないが、今後は利用してみたい」が24.6%、「利用している」が2.9%となっています。(図10-2)

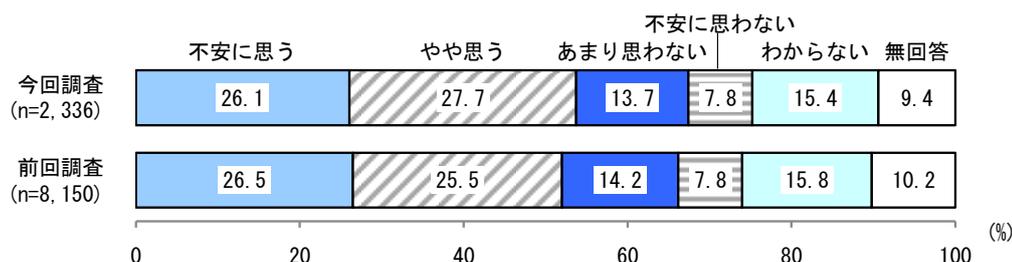
11 在宅療養について

(1) 自宅での療養を検討する際に不安なこと

問10Q1 もし、あなたが病気や老い等の理由で、自宅での療養を検討するとした場合、不安に思うことは何ですか。〈(1)から(6)までそれぞれ〇は1つつつ〉

① 適切に自宅に訪問して対応してくれる医師・看護師がいるかどうか

【図11-1-1 適切に自宅に訪問して対応してくれる医師・看護師がいるかの不安】

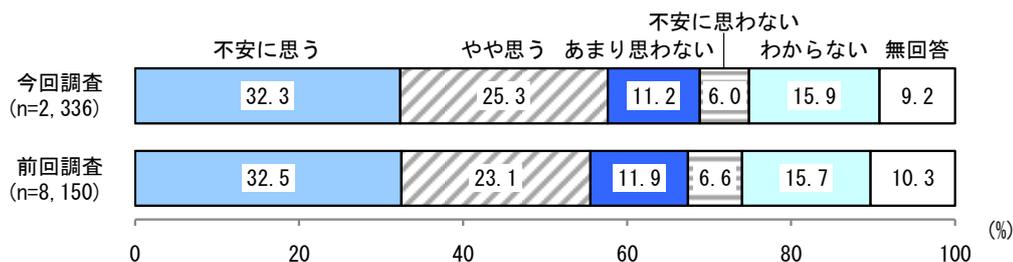


適切に自宅に訪問して対応してくれる医師・看護師がいるかどうかについては、「やや思う」が27.7%で最も多く、次いで「不安に思う」が26.1%となっており、両者を合わせた『不安』割合は53.8%となっています。

前回調査と比較すると、「やや思う」が2.2ポイント高くなっています。(図11-1-1)

② 夜間・緊急時に対応してくれる医師・看護師がいるかどうか

【図11-1-2 夜間・緊急時に対応してくれる医師・看護師がいるかの不安】

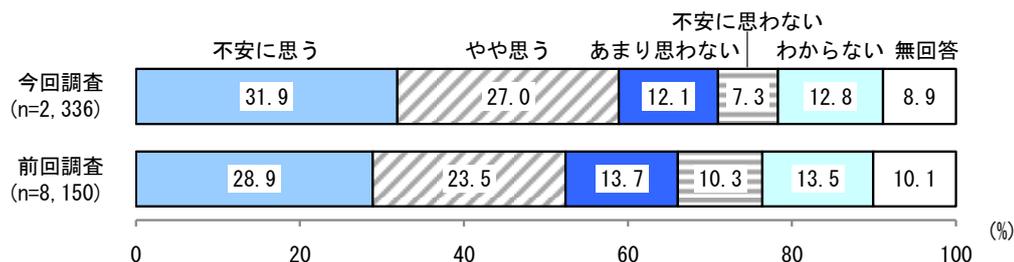


夜間・緊急時に対応してくれる医師・看護師がいるかどうかについては、「不安に思う」が32.3%で最も多く、次いで「やや思う」が25.3%となっており、両者を合わせた『不安』割合は57.6%となっています。

前回調査と比較すると、「やや思う」が2.2ポイント高くなっています。(図11-1-2)

③ 病状が急変した時に、すぐに一時的に入院できる病院があるかどうか

【図11-1-3 病状が急変した時に、すぐに一時的に入院できる病院があるかの不安】

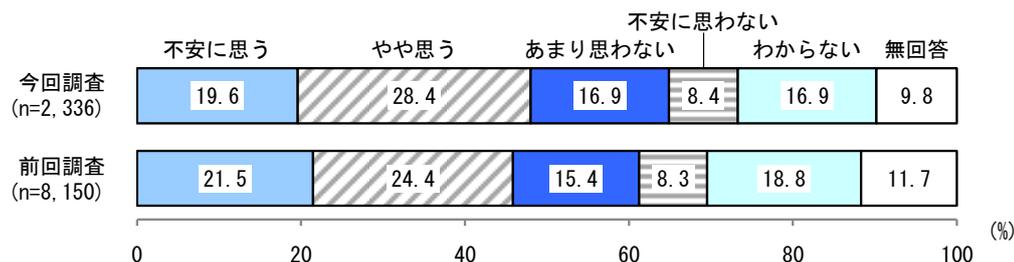


病状が急変した時に、すぐに一時的に入院できる病院があるかどうかについては、「不安に思う」が31.9%で最も多く、次いで「やや思う」が27.0%となっており、両者を合わせた『不安』割合は58.9%となっています。

前回調査と比較すると、『不安』割合は6.5ポイント高くなっています。(図11-1-3)

④ 適切に自宅に訪問してくれる介護サービスがあるかどうか

【図11-1-4 適切に自宅に訪問してくれる介護サービスがあるかの不安】

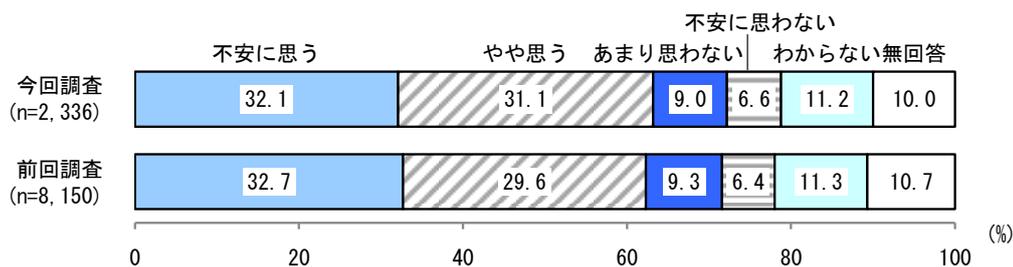


適切に自宅に訪問してくれる介護サービスがあるかどうかについては、「やや思う」が28.4%で最も多く、次いで「不安に思う」が19.6%となっており、両者を合わせた『不安』割合は48.0%となっています。

前回調査と比較すると、『不安』割合が2.1ポイント高くなっています。(図11-1-4)

⑤ 介護してくれる家族等への負担

【図11-1-5 介護してくれる家族等への負担】

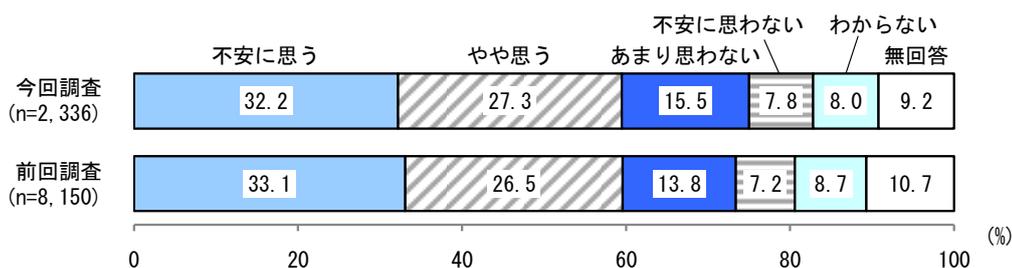


介護してくれる家族等への負担については、「不安に思う」が32.1%で最も多く、次いで「やや思う」が31.1%となっており、両者を合わせた『不安』割合は63.2%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図11-1-5)

⑥ 経済的な負担

【図11-1-6 経済的な負担】



経済的な負担については、「不安に思う」が32.2%で最も多く、次いで「やや思う」が27.3%となっており、両者を合わせた『不安』割合は59.5%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図11-1-6)

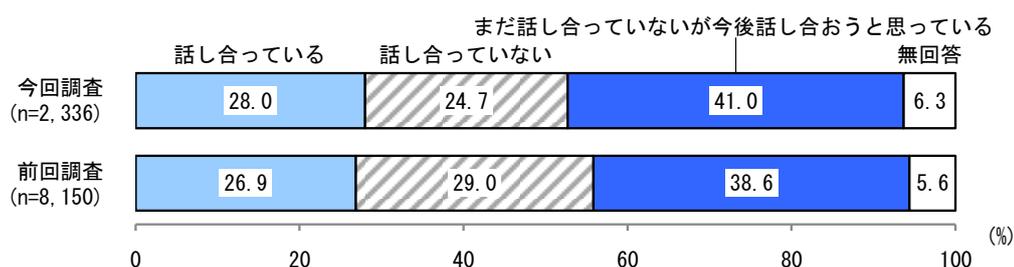
12 人生の終い支度について

(1) 人生の終い支度の状況

問11Q1 もし、あなたが万一治らない病気になったり、死期が迫っていると診断された時に、どのような医療や介護が受けたいかや、財産の相続や葬儀等をどうして欲しいか、周囲の人と話し合っていますか。〈(1)から(2)までそれぞれ〇は1つずつ〉

① 家族や親しい人と

【図12-1-1 家族や親しい人との話し合い】

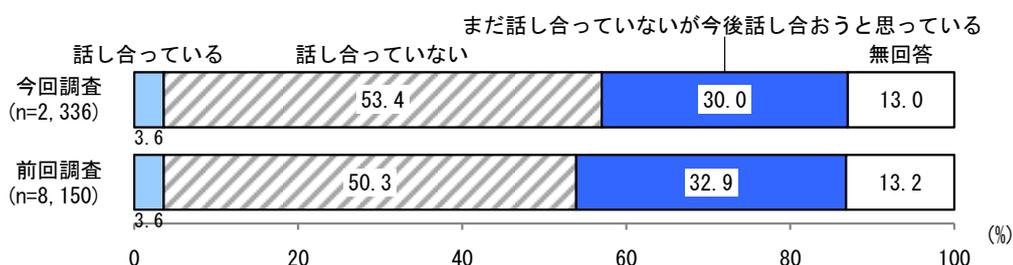


万一治らない病気になったり、死期が迫っていると診断された時に、どのような医療や介護が受けたいかや、財産の相続や葬儀等をどうして欲しいかについての、家族や親しい人との話し合いは、「まだ話し合っていないが今後話し合おうと思っている」が41.0%で最も多く、次いで「話し合っている」が28.0%、「話し合っていない」が24.7%となっています。

前回調査と比較すると、「話し合っていない」は4.3ポイント低くなっており、「まだ話し合っていないが今後話し合おうと思っている」が2.4ポイント高くなっています。(図12-1-1)

② 医療機関等や介護サービス事業者と

【図12-1-2 医療機関等や介護サービス事業者との話し合い】



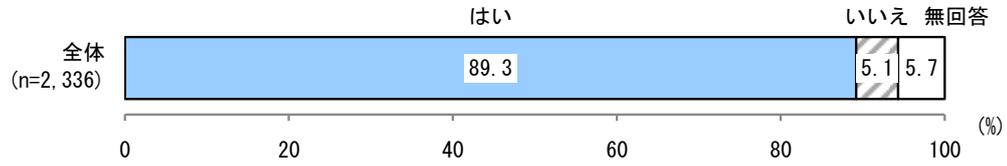
万一治らない病気になったり、死期が迫っていると診断された時に、どのような医療や介護が受けたいかや、財産の相続や葬儀等をどうして欲しいかについての、医療機関等や介護サービス事業者との話し合いは、「話し合っていない」が53.4%で最も多く、次いで「まだ話し合っていないが今後話し合おうと思っている」が30.0%、「話し合っている」が3.6%となっています。

前回調査と比較すると、「話し合っていない」が3.1ポイント高くなっており、「まだ話し合っていないが今後話し合おうと思っている」は2.9ポイント低くなっています。(図12-1-2)

(2) 亡くなった後の葬儀や家財の処分をしてくれる人の有無

問11Q2 あなたが亡くなった後の葬儀や家財の処分をしてくれる方はいますか。〈○は1つ〉

【図12-2 亡くなった後の葬儀や家財の処分をしてくれる人の有無】



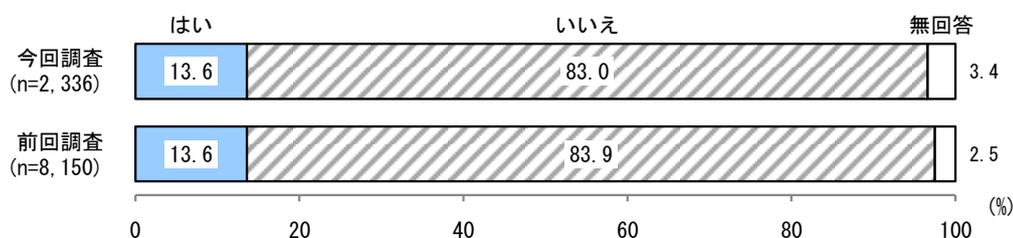
自分が亡くなった後の葬儀や家財の処分をしてくれる人がいるかについては、「はい」が89.3%、「いいえ」が5.1%となっています。(図12-2)

13 認知症について

(1) 自身または家族の認知症の症状の有無

問12Q1 あなたは認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人はいいますか。〈○は1つ〉

【図13-1 自身または家族の認知症の症状の有無】



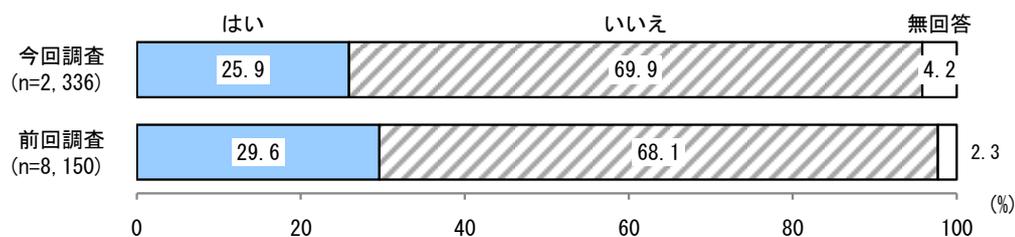
自身に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人はいるかについて、「はい」が13.6%、「いいえ」が83.0%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図13-1)

(2) 認知症について症状や対応等を学んだ経験

問12Q2 あなたは認知症の症状や認知症の方への対応等について学んだことはありますか。〈○は1つ〉

【図13-2 認知症について症状や対応等を学んだ経験】



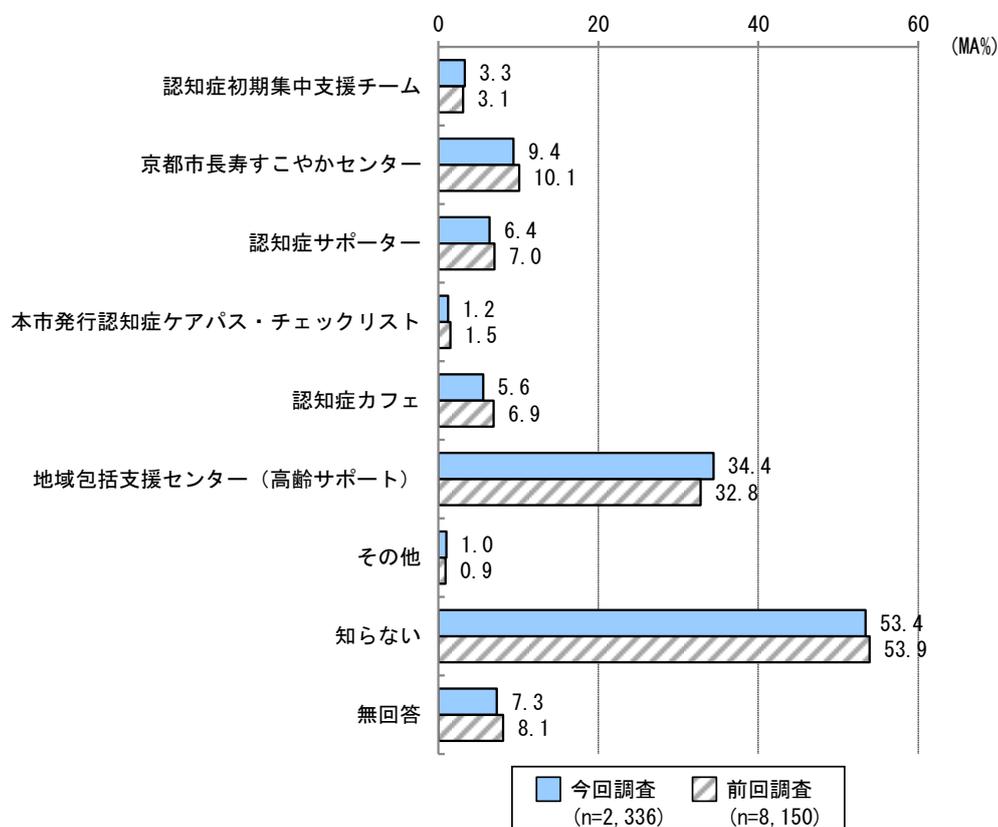
認知症の症状や認知症の人への対応等を学んだことはあるかについて、「はい」が25.9%、「いいえ」が69.9%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が3.7ポイント低くなっています。(図13-2)

(3) 認知症の人を支援する機関や取組で知っているもの

問12Q3 あなたは認知症の方を支援する機関や取組について知っていますか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図13-3 認知症の人を支援する機関や取組で知っているもの】



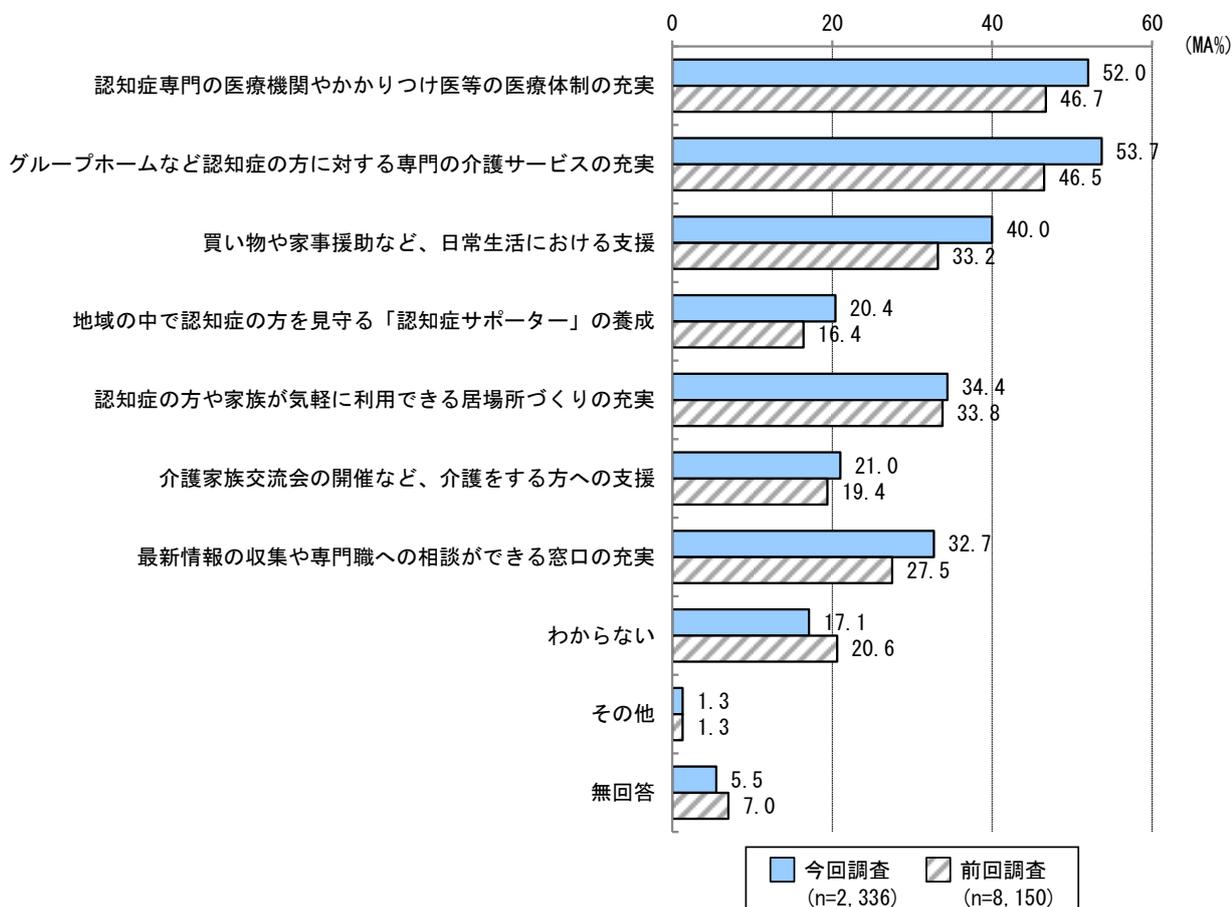
認知症の人を支援する機関や取組で知っているものについては、「知らない」が53.4%で最も多くなっています。一方、知っているものでは、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が34.4%で最も多く、次いで「京都市長寿すこやかセンター」が9.4%、「認知症サポーター」が6.4%、「認知症カフェ」が5.6%となっています。

前回調査と比較すると、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が1.6ポイント高くなっています。（図13-3）

(4) 認知症になった場合にあればよいと思う支援

問12Q4 あなたが認知症になった場合、どのような支援があればよいと思いますか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図13-4 認知症になった場合にあればよいと思う支援】



自身が認知症になった場合にあればよいと思う支援については、「グループホームなど認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が53.7%で最も多く、次いで「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が52.0%、「買い物や家事援助など、日常生活における支援」が40.0%となっています。

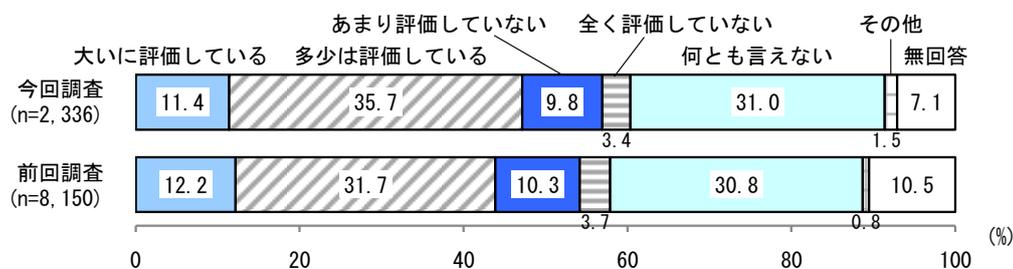
前回調査と比較すると、「グループホームなど認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が7.2ポイント、「買い物や家事援助など、日常生活における支援」が6.8ポイント、「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が5.3ポイント、「最新情報の収集や専門職への相談ができる窓口の充実」が5.2ポイント、「地域の中で認知症の方を見守る「認知症サポーター」の養成」が4.0ポイント高くなっています。(図13-4)

14 介護保険制度等について

(1) 介護保険制度への評価

問13Q1 あなたの介護保険制度への評価として、御自身の考えに近いものは次のどれですか。
<○は1つ>

【図14-1 介護保険制度への評価】

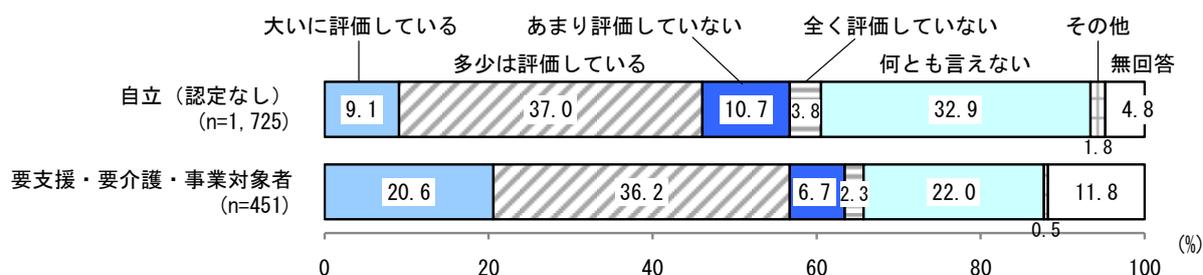


介護保険制度への評価については、「多少は評価している」が35.7%で最も多く、次いで「何とも言えない」が31.0%、「大いに評価している」が11.4%となっています。「大いに評価している」と「多少は評価している」を合わせた『評価している』割合は47.1%となっています。

前回調査と比較すると、『評価している』割合が3.2ポイント高くなっています。(図14-1)

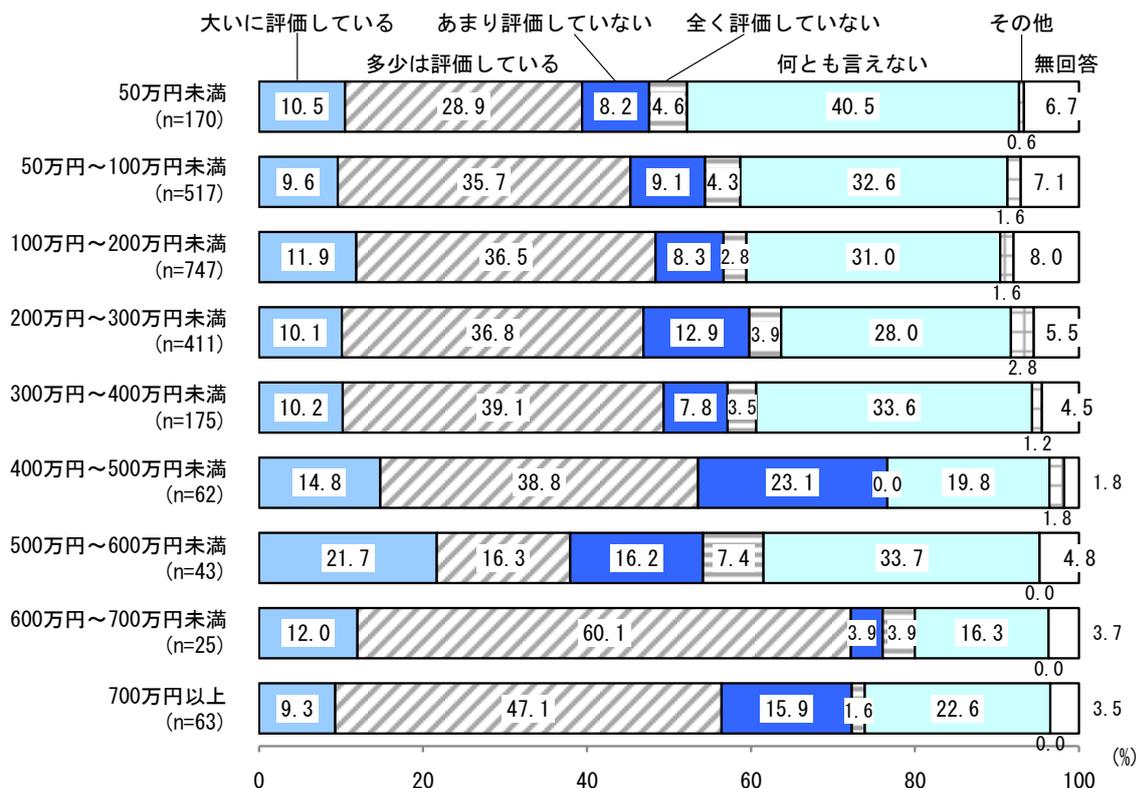
自立・認定者別でみると、自立の人と比べて、要支援・要介護及び事業対象に認定された人では「大いに評価している」が11.5ポイント高い割合になっています。(図14-1-1)

【図14-1-1 自立・認定者別 介護保険制度への評価】



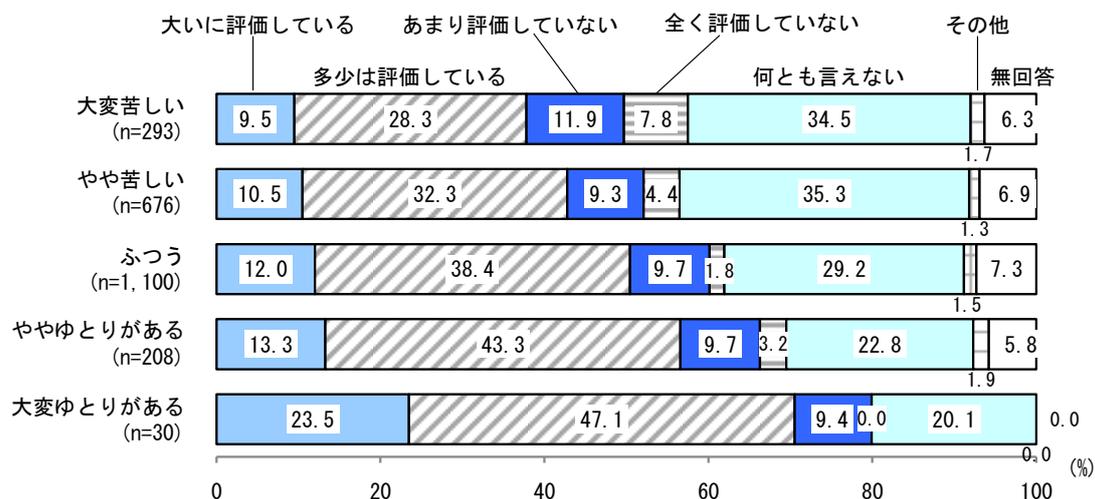
個人の年間総収入別で見ると、500万円～600万円未満の人は、「大いに評価している」が21.7%と高い割合ですが、『評価している』割合では38.0%となっており、50万円未満の人（39.4%）と同等の割合で低くなっています。なお、「あまり評価していない」と「全く評価していない」を合わせた『評価していない』割合では、500万円～600万円未満の人が23.6%、400万円～500万円未満の人が23.1%と高くなっています。（図14-1-2）

【図14-1-2 個人の年間総収入別 介護保険制度への評価】



経済状況別で見ると、「大いに評価している」及び「多少は評価している」ともに、経済的にゆとりがある人ほど割合が高くなる傾向がみられます。なお、『評価している』割合は、経済的にふつうの人、ゆとりのある人で5割以上となっています。（図14-1-3）

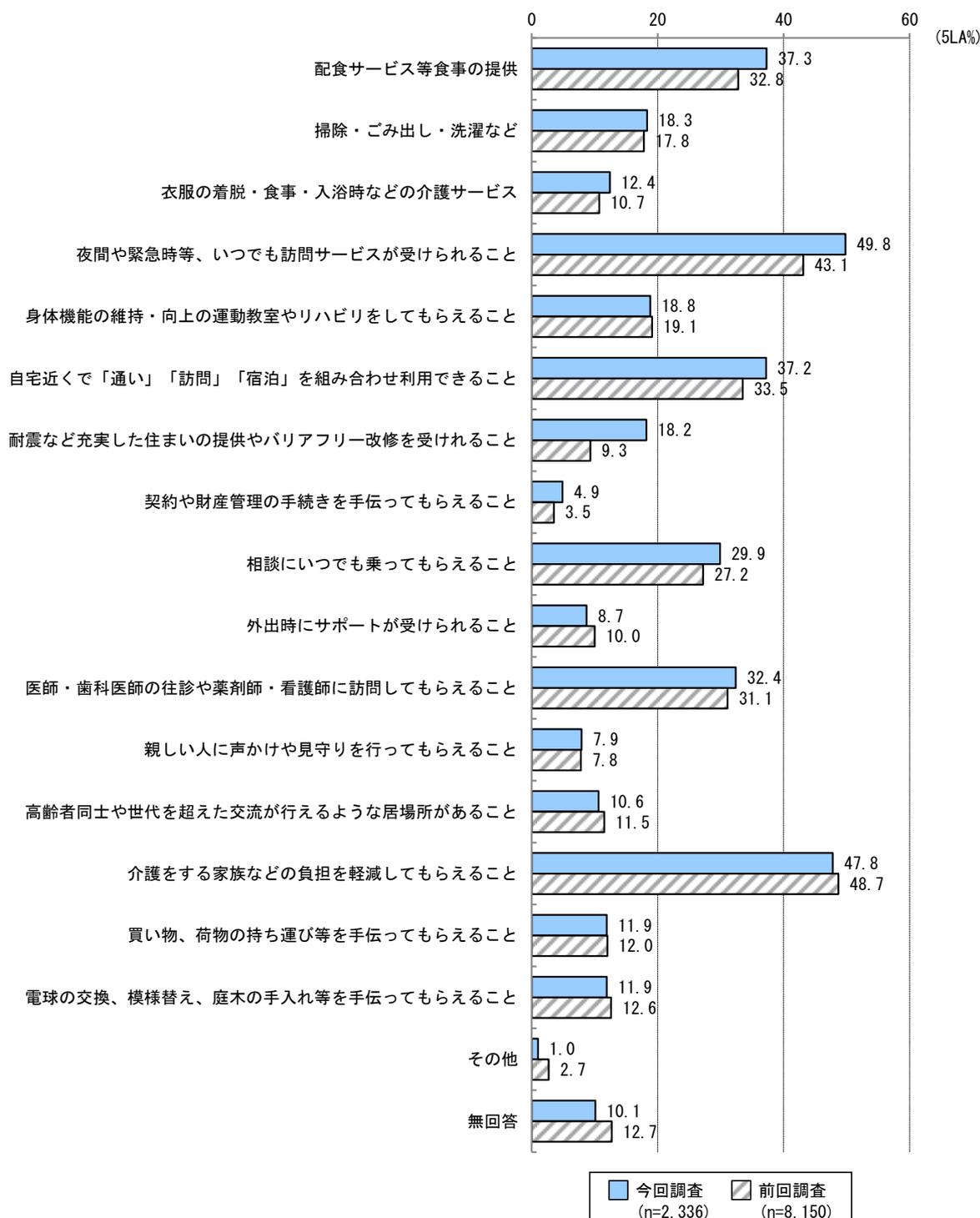
【図14-1-3 経済状況別 介護保険制度への評価】



(2) 住み慣れた地域で生活をするために充実すべき支援

問13Q2 あなたは、今後も住み慣れた地域で生活するには、どのような支援を充実すべきだと思いますか。＜○は5つまで。うち最もそう感じるものに◎＞

【図14-2 住み慣れた地域で生活をするために充実すべき支援】



住み慣れた地域で生活をするために充実すべき支援については、「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が49.8%で最も多く、次いで「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が47.8%、「配食サービス等食事の提供」が37.3%、「自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること」が37.2%となっています。

- 高齢者調査の結果 -

前回調査と比較すると、「耐震など充実した住まいの提供やバリアフリー改修を受けられること」が8.9ポイント、「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が6.7ポイント、「配給サービス等食事の提供」が4.5ポイント、「自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること」が3.7ポイント、「相談にいつでも乗ってもらえること」が2.7ポイント高くなっています。(図14-2)

年齢別で見ると、70歳以上の全ての年齢層で「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が第1位(65歳～69歳では第2位)となっており、「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が第2位(65歳～69歳では第1位)となっています。(表14-2-1)

【表14-2-1 年齢別 住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援(上位5項目)】

(単位:5LA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
65～69歳 (n=434)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 51.9	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 48.6	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 42.3	配食サービス等食事の提供 37.5	相談にいつでも乗ってもらえること 34.2
70～74歳 (n=598)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 53.5	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 51.2	配食サービス等食事の提供 39.0	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 37.0	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 29.8
75～79歳 (n=472)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 48.5	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 48.2	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 42.1	配食サービス等食事の提供 36.7	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 33.6
80～84歳 (n=388)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 50.2	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 48.6	配食サービス等食事の提供 37.4	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 36.7	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 32.9
85歳以上 (n=433)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 47.4	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 38.2	配食サービス等食事の提供 35.0	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 34.1	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 30.7

- 高齢者調査の結果 -

家族構成別で見ると、一人暮らし世帯では、「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」(51.1%)が第1位となっています。また、「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」の割合では、息子・娘との2人暮らし世帯が57.0%で最も高く、次いで夫婦2人暮らし世帯(配偶者65歳以上)が54.0%、夫婦2人暮らし世帯(配偶者64歳以下)が47.9%となっており、いずれも第1位となっていますが、一人暮らし世帯は29.7%と他の世帯と比べて低い割合になっています。(表14-2-2)

【表14-2-2 家族構成別 住み慣れた地域で生活するために充実すべき支援(上位5項目)】

(単位:5LA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
一人暮らし (n=555)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 51.1	配食サービス等食事の提供 39.9	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 33.0	相談にいつでも乗ってもらえること 31.7	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 29.7
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) (n=921)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 54.0	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 52.3	配食サービス等食事の提供 40.9	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 38.0	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 35.9
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) (n=124)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 47.9	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 41.7	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 37.5	配食サービス等食事の提供 35.6	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 30.5
息子・娘との2世帯 (n=334)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 57.0	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 43.6	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 40.6	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 32.5	配食サービス等食事の提供 27.9
その他 (n=373)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 50.5	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 50.2	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 38.7	配食サービス等食事の提供 34.4	相談にいつでも乗ってもらえること 34.3

- 高齢者調査の結果 -

要介護認定区分別でみると、要介護4を除く全ての区分で「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が第1位（要介護4では第2位）となっています。（表14-2-3）

【表14-2-3 要介護認定区分別 住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援（上位5項目）】

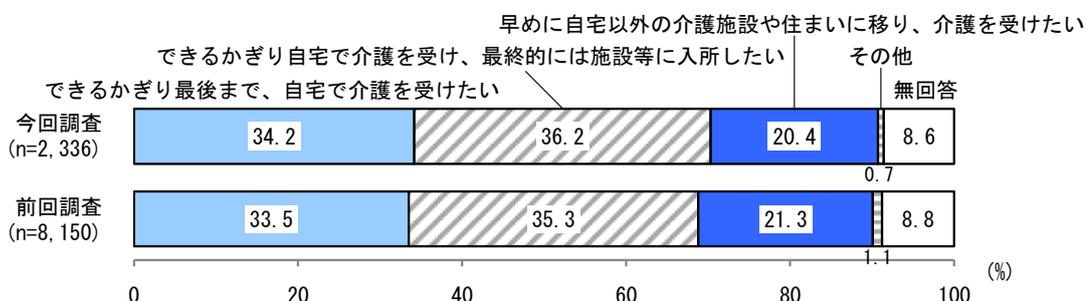
（単位：5LA%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
自立（認定なし） (n=1,725)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 51.3	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 50.4	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 39.1	配食サービス等食事の提供 37.4	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 32.4
事業対象者 (n=8)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 63.2	相談にいつでも乗ってもらえること 50.4	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 49.3	配食サービス等食事の提供 37.6	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること/耐震など充実した住まいの提供やバリアフリー改修を受けられること 36.6
要支援1 (n=90)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 49.8	配食サービス等食事の提供 43.5	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 37.6	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 33.0	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 32.1
要支援2 (n=114)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 44.2	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 40.5	配食サービス等食事の提供 40.2	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 34.6	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 30.1
要介護1 (n=63)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 43.7	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 35.5	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 35.2	配食サービス等食事の提供 34.4	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 30.6
要介護2 (n=80)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 48.5	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 44.2	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 41.8	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 40.1	配食サービス等食事の提供 28.6
要介護3 (n=48)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 59.0	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 46.4	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 43.9	配食サービス等食事の提供 42.6	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービス 34.5
要介護4 (n=26)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 57.0	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 51.7	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービス 39.7	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師に訪問してもらえること 35.9	配食サービス等食事の提供 34.3
要介護5 (n=22)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 48.2	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 37.0	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービス 28.3	配食サービス等食事の提供 24.0	自宅近くで「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ利用できること 19.8

(3) 介護が必要になった場合に介護を受けたい場所

問13Q3 あなたはもし、御自身に介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいですか。
 <〇は1つ>

【図14-3 介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】

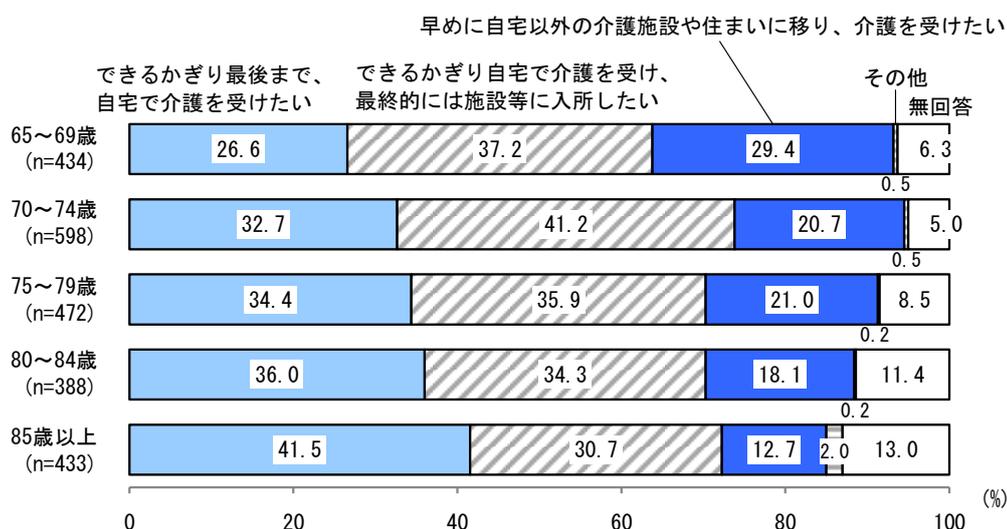


自身に介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいかについては、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が36.2%で最も多く、次いで「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が34.2%、「早めに自宅以外の介護施設や住まいに移り、介護を受けたい」が20.4%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図14-3)

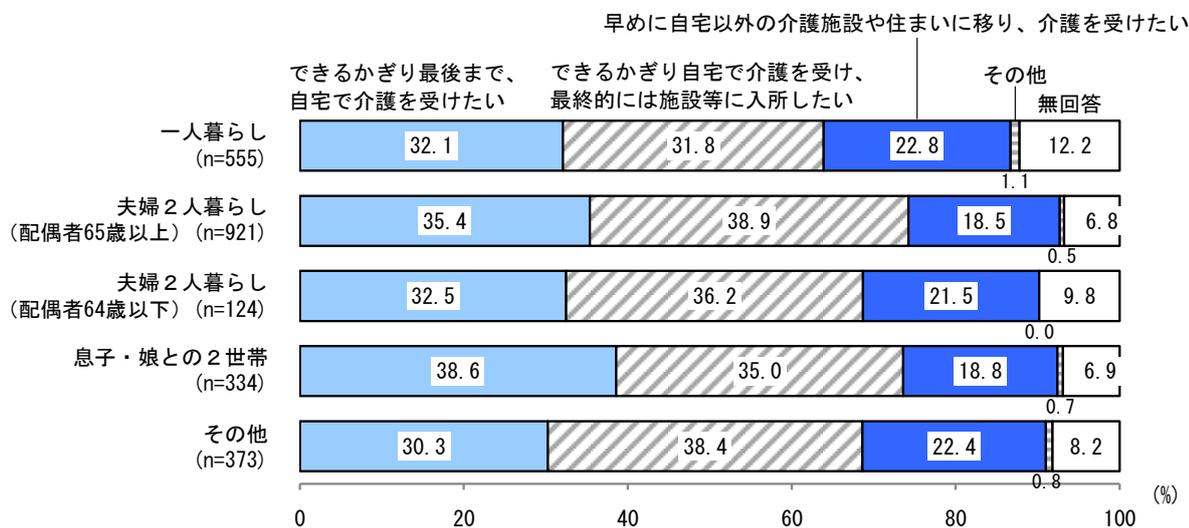
年齢別でみると、高齢になるほど、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」割合が高くなっており、「早めに自宅以外の介護施設や住まいに移り、介護を受けたい」割合は低くなる傾向がみられます。また、79歳以下の各年代では「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多い回答となっています。(図14-3-1)

【図14-3-1 年齢別 介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】



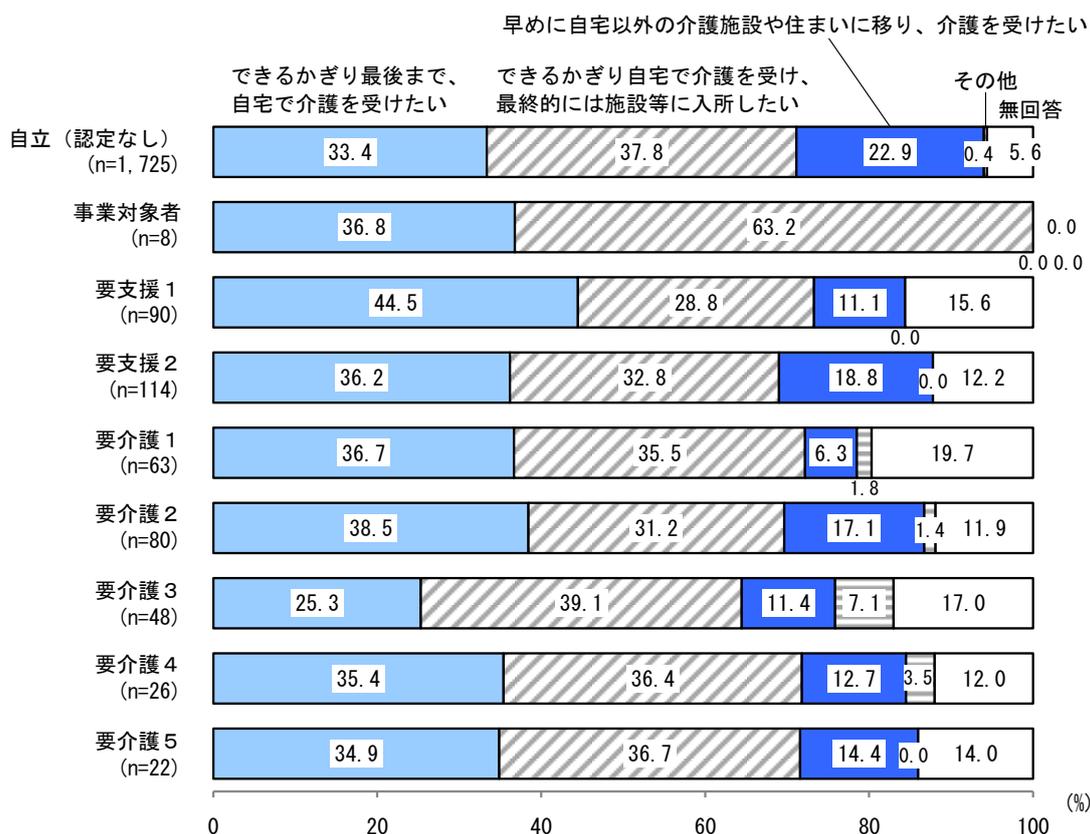
家族構成別でみると、一人暮らし世帯と息子・娘との2世帯は「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が最も多く、夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上・64歳以下とも）は「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多くなっています。（図14-3-2）

【図14-3-2 家族構成別 介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】



要介護認定区分別でみると、要支援1・2や要介護1・2は「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が最も多くなっていますが、要介護3以上になると「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多くなっています。（図14-3-3）

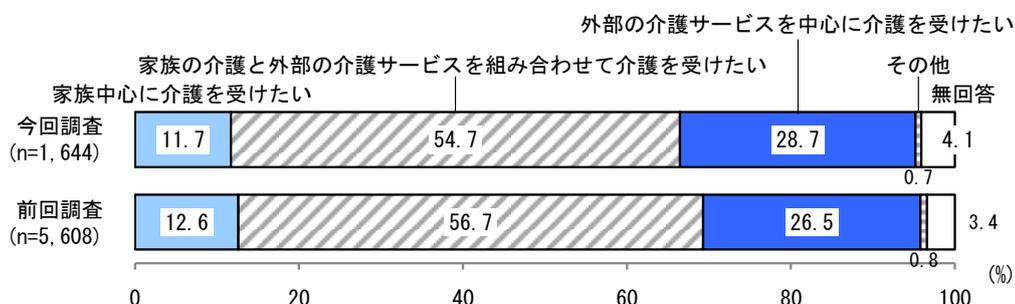
【図14-3-3 要介護認定区分別 介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】



(4) 希望する在宅の介護方法

問13Q3-1 Q3で「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」又は「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」と回答した方にお聞きます。どのような介護を希望しますか。〈○は1つ〉

【図14-4 希望する在宅の介護方法】

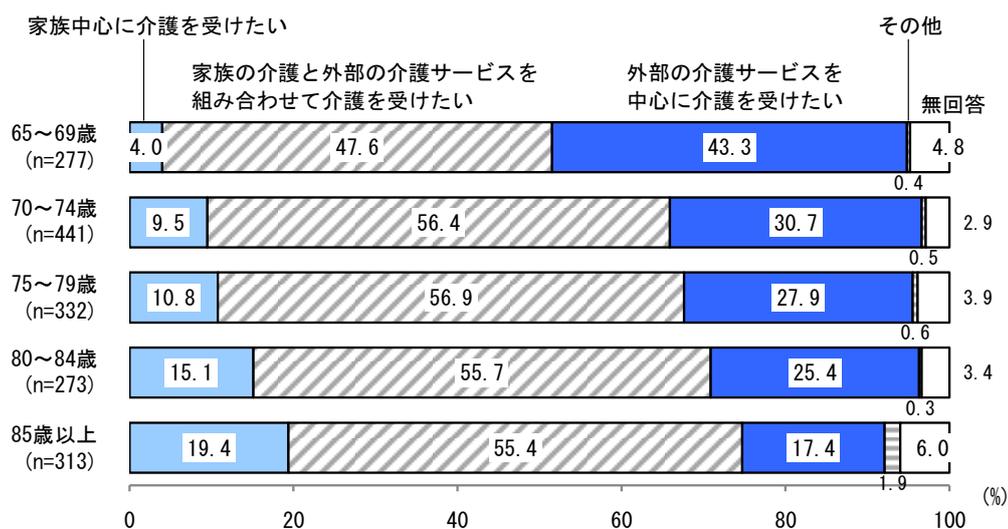


できるかぎり自宅で介護を受けたいと回答した人に、希望する在宅の介護方法をたずねたところ、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が54.7%で最も多く、次いで「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が28.7%、「家族中心に介護を受けたい」が11.7%となっています。

前回調査と比較すると、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が2.0ポイント低くなっており、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」は2.2ポイント高くなっています。(図14-4)

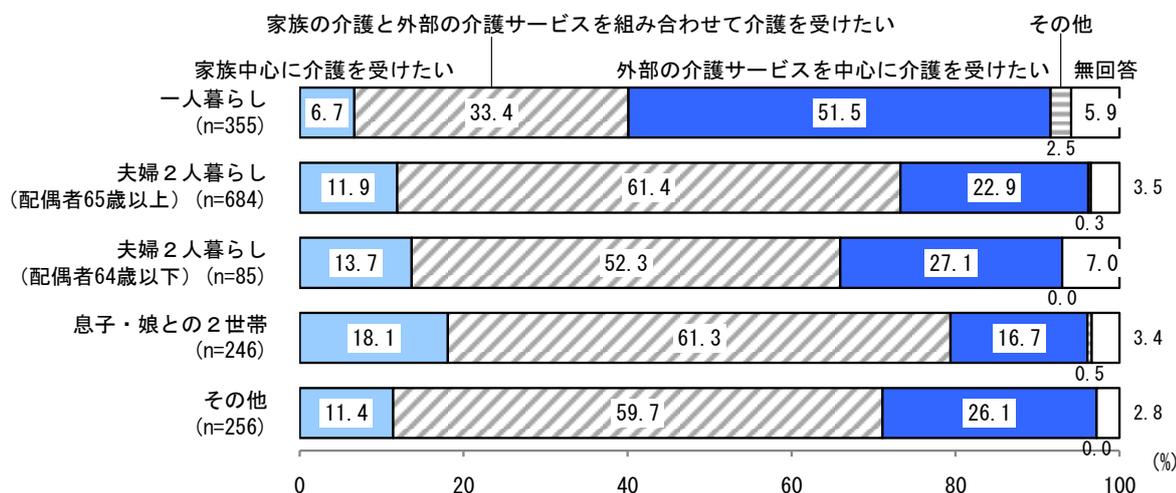
年齢別でみると、高齢になるほど、「家族中心に介護を受けたい」割合が高くなる一方、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」割合は低くなる傾向にあります。(図14-4-1)

【図14-4-1 年齢別 希望する在宅の介護方法】



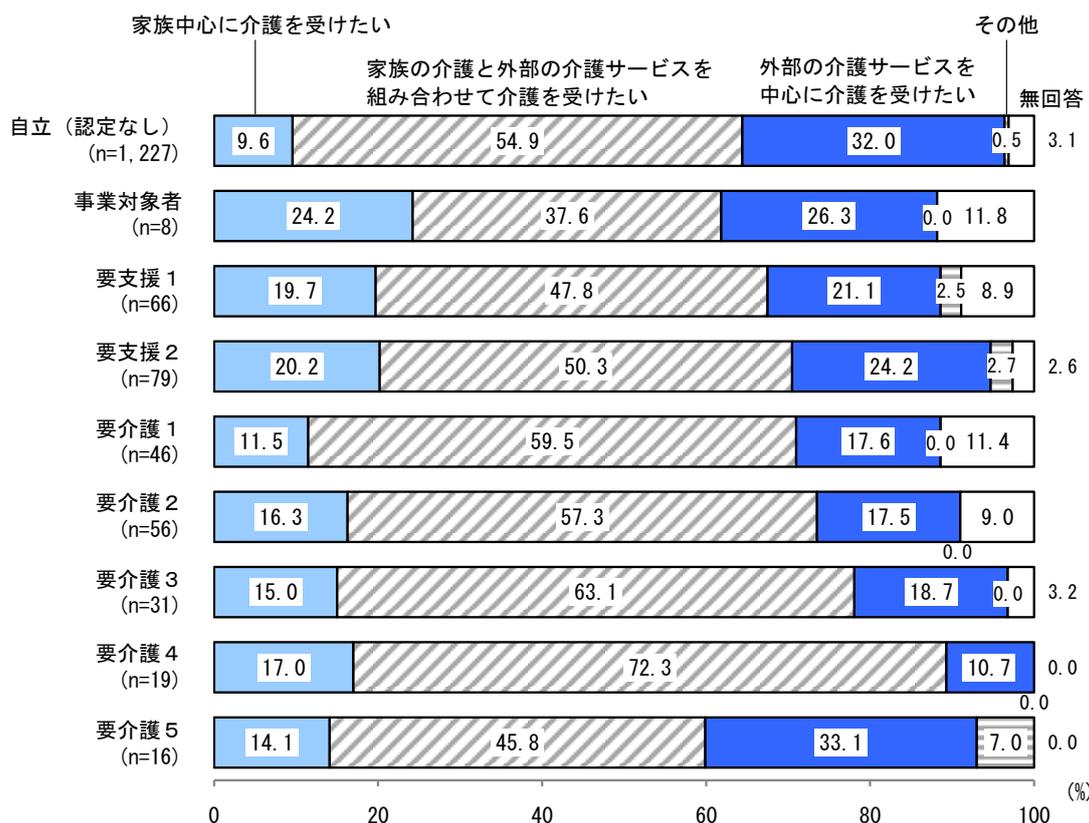
家族構成別でみると、一人暮らし世帯は「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が51.5%と最も多く、他の世帯と比べて20ポイント以上高い割合になっています。一方、同居者のいる世帯では「家族中心に介護を受けたい」が、息子・娘との2世帯で18.1%、夫婦2人暮らし世帯（配偶者64歳以下）で13.7%、夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上）で11.9%となっており、若い世代と同居している人ほど割合が高くなっています。（図14-4-2）

【図14-4-2 家族構成別 希望する在宅の介護方法】



要介護認定区分別でみると、要支援1・2は「家族中心に介護を受けたい」が2割前後となっており、要介護1以上と比べて割合が高くなっています。また、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」の割合では、要介護5の母数が少ないので一概にはいえませんが、33.1%で最も高く、次いで自立（認定なし）が32.0%となっており、要支援1・2は2割台となっています。（図14-4-3）

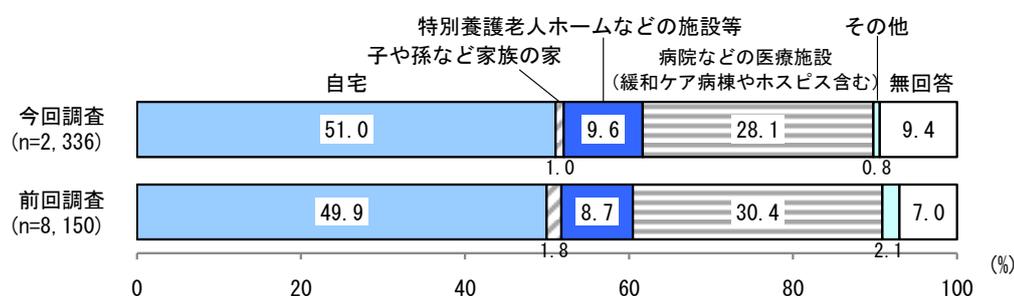
【図14-4-3 要介護認定区分別 希望する在宅の介護方法】



(5) 人生の終末を迎えたい場所

問13Q4 あなたは、どこで人生の終末を迎えたいですか。〈○は1つ〉

【図14-5 人生の終末を迎えたい場所】

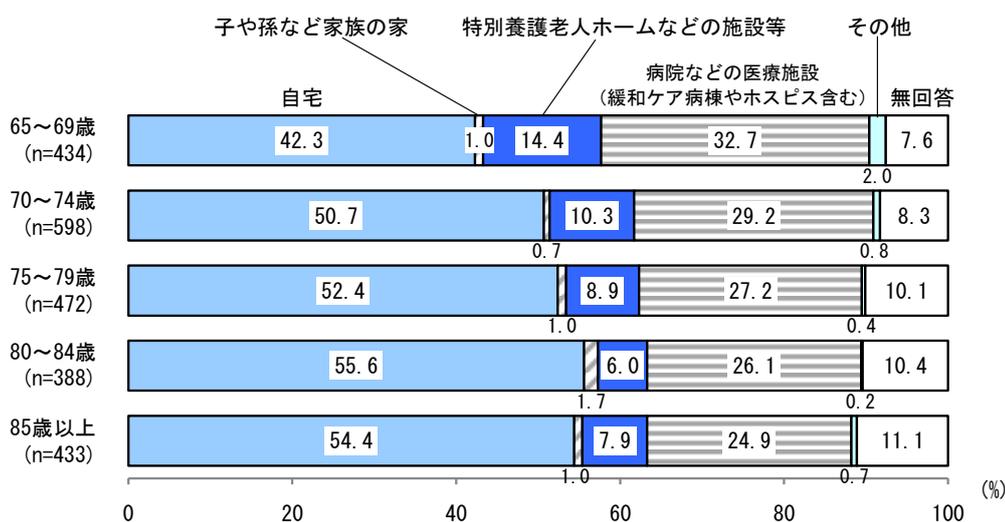


どこで人生の終末を迎えたいかについては、「自宅」が51.0%で最も多く、次いで「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」が28.1%、「特別養護老人ホームなどの施設等」が9.6%となっています。

前回調査と比較すると、「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」が2.3ポイント低くなっています。(図14-5)

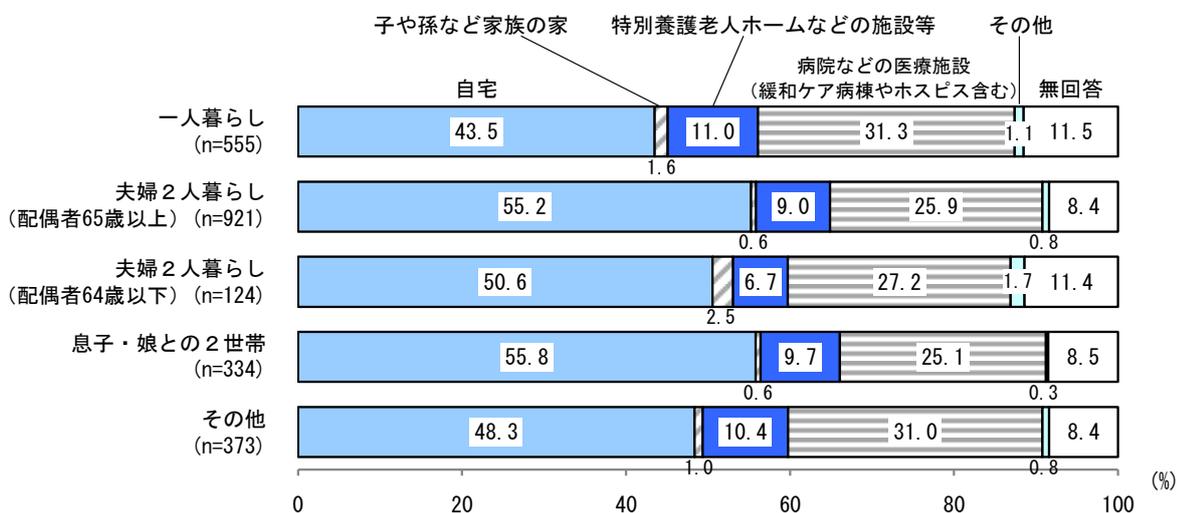
年齢別でみると、いずれの年代も「自宅」が最も多く、65～69歳は42.3%、70歳以降になると5割台となっています。一方、「特別養護老人ホームなどの施設等」と「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」は、65～69歳(特養等 14.4%、病院等 32.7%)が比較的高い割合になっており、「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」では高齢になるほど割合が低くなっています。(図14-5-1)

【図14-5-1 年齢別 人生の終末を迎えたい場所】



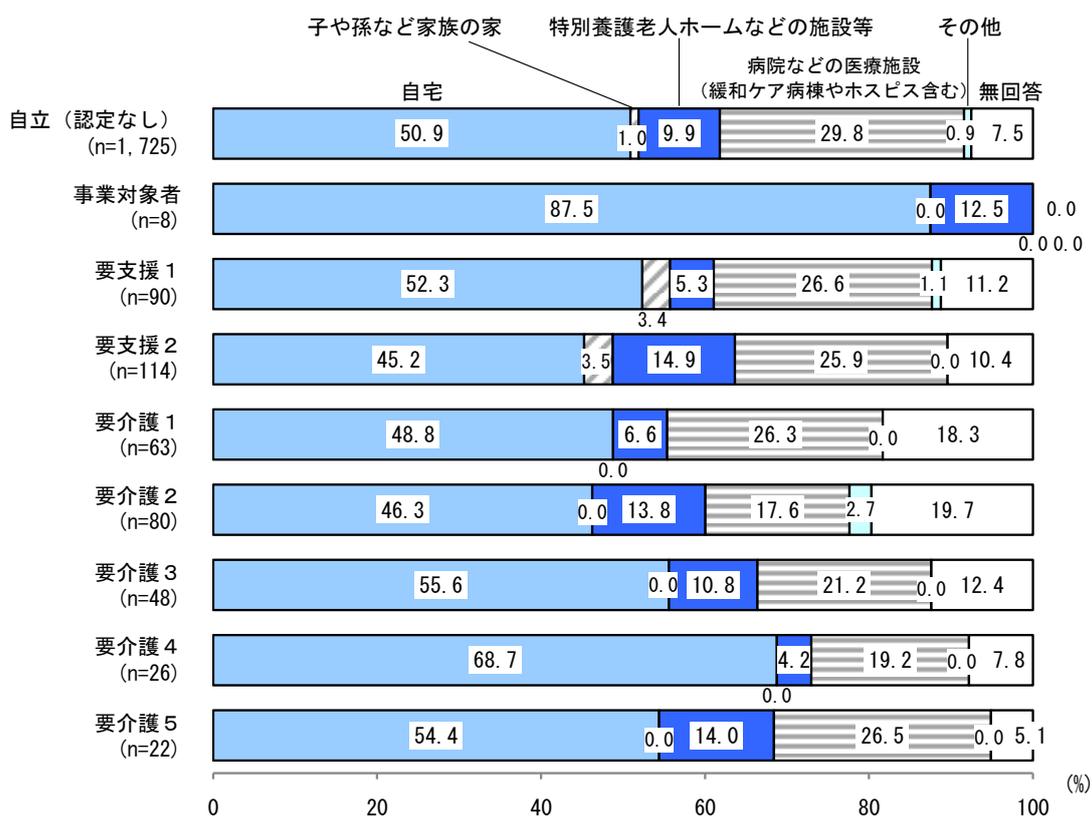
家族構成別でみると、いずれの世帯も「自宅」が最も多くなっていますが、一人暮らし世帯は同居者のいる世帯と比べて低い割合になっています。一方、「特別養護老人ホームなどの施設等」と「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む）」は、一人暮らし世帯のほうが比較的高い割合になっています。（図14-5-2）

【図14-5-2 家族構成別 人生の終末を迎えたい場所】



要介護認定区分別でみると、要介護認定の有無などにかかわらず「自宅」が最も多くなっています。自立は「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む）」が29.8%となっており、要介護認定を受けている人より比較的高い割合になっています。（図14-5-3）

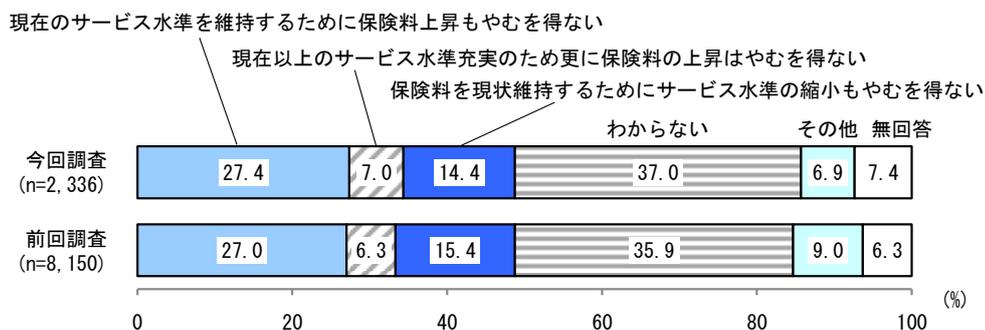
【図14-5-3 要介護認定区分別 人生の終末を迎えたい場所】



(6) 介護保険料と介護サービスのあり方について

問13Q5 介護保険料は、介護サービス等の利用に必要な費用を基に算定しています。一人当たりが使う介護サービスが同じであっても、介護サービスを利用する高齢者数が増加すると、介護保険事業全体の総費用は増加し、保険料が上昇することとなります。あなたは、今後の介護保険料と介護サービスのあり方について、御自身の考え方に近いものは次のどれですか。〈○は1つ〉

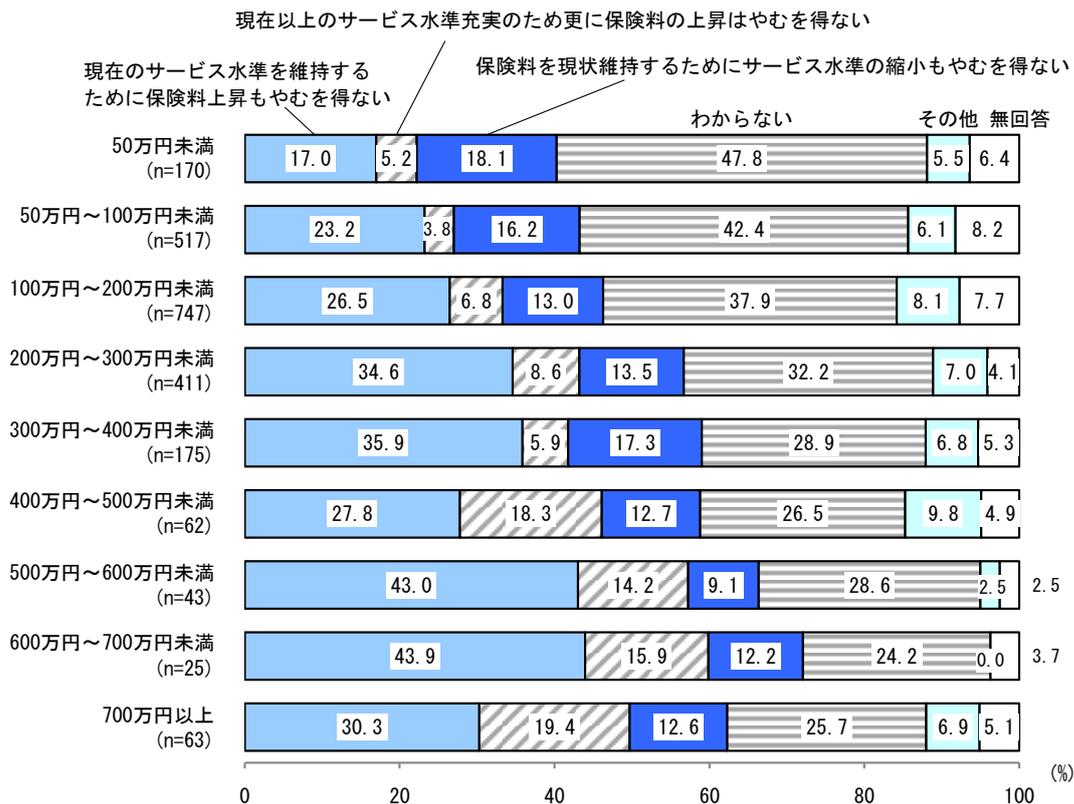
【図14-6 介護保険料と介護サービスのあり方について】



今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方については、「わからない」が37.0%で最も多く、次いで「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」が27.4%、「保険料を現状維持するためにサービス水準の縮小もやむを得ない」が14.4%となっています。前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図14-6)

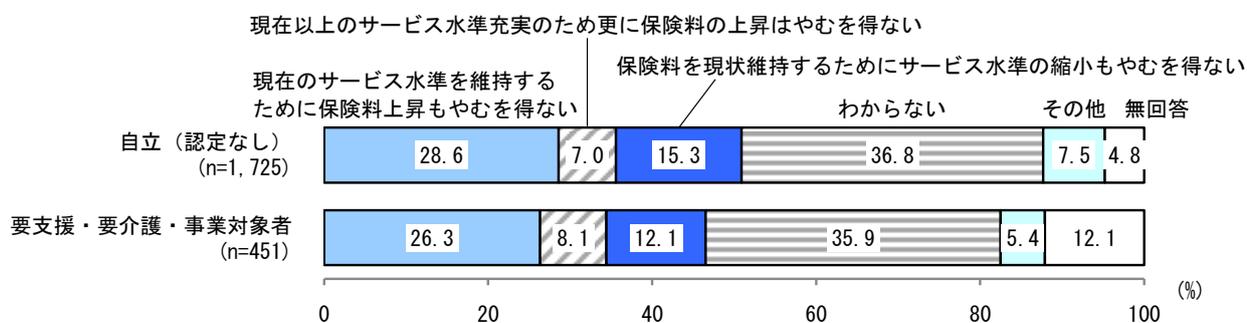
個人の年間総収入別でみると、高収入な人ほど「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」割合が高くなる傾向にあり、年収400万円以上の人になると「現在以上のサービス水準充実のため更に保険料の上昇はやむを得ない」が1割台に上昇しています。(図14-6-1)

【図14-6-1 個人の年間総収入別 介護保険料と介護サービスのあり方について】



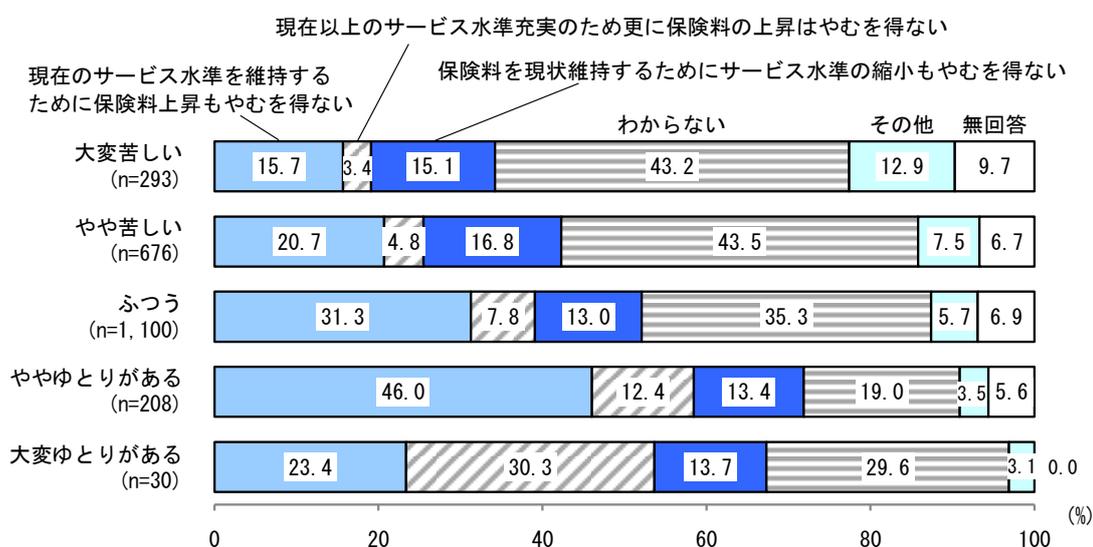
自立・認定者別で見ると、自立の人と比べて、要支援・要介護及び事業対象に認定された人では「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」で2.3ポイント低い割合になっていますが、「保険料を現状維持するためにサービス水準の縮小もやむを得ない」も3.2ポイント低くなっています。(図14-6-2)

【図14-6-2 自立・認定者別 介護保険料と介護サービスのあり方について】



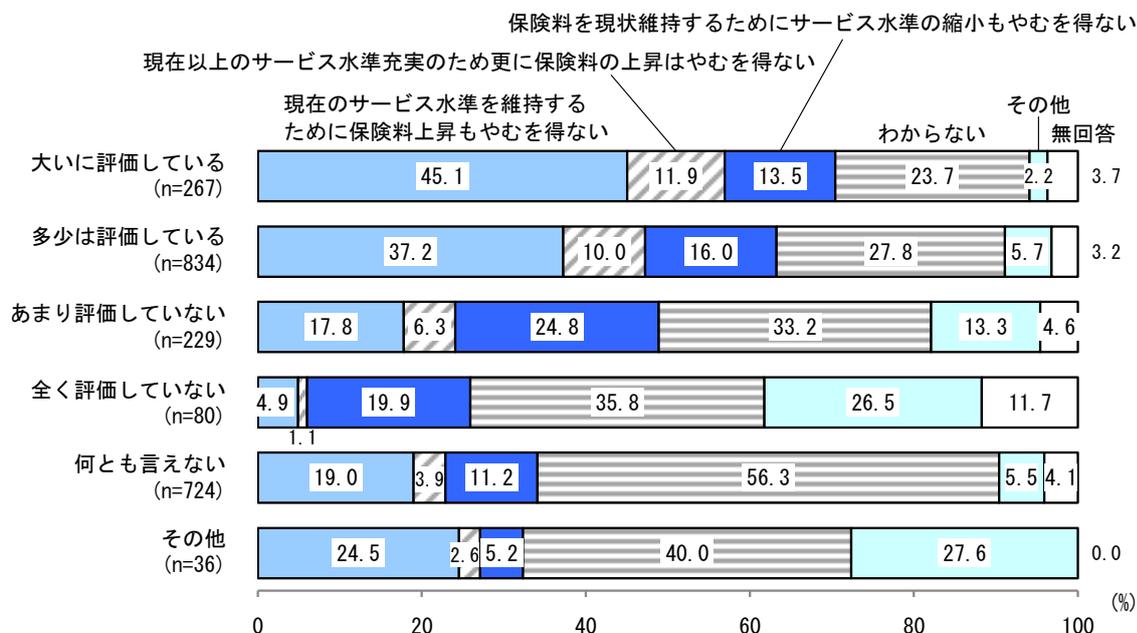
経済状況別で見ると、経済的にゆとりのある人ほど「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」割合が高くなる傾向にあり、大変ゆとりがある人では「現在以上のサービス水準充実のため更に保険料の上昇はやむを得ない」が30.3%と高い割合になっています。(図14-6-3)

【図14-6-3 経済状況別 介護保険料と介護サービスのあり方について】



介護保険制度への評価別で見ると、評価が高い人ほど「現在のサービス水準を維持するために保険料上昇もやむを得ない」と「現在以上のサービス水準充実のため更に保険料の上昇はやむを得ない」の割合が高くなっています。一方、評価が低い人では、保険料の上昇する考え方より、「保険料を現状維持するためにサービス水準の縮小もやむを得ない」の割合が多くなっています。(図14-6-4)

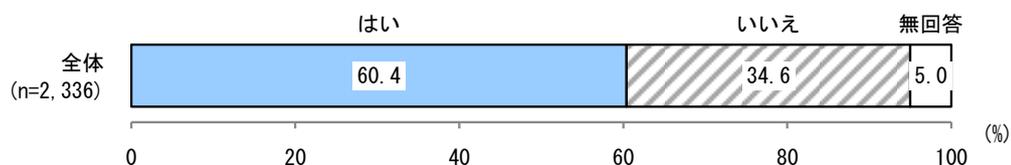
【図14-6-4 介護保険制度への評価別 介護保険料と介護サービスのあり方について】



(7) 成年後見制度の認知有無

問13Q6 成年後見制度とは、認知症や障害などの理由で判断能力の不十分な人に代わり、財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだりする支援を行う制度です。あなたは成年後見制度を知っていますか。〈〇は1つ〉

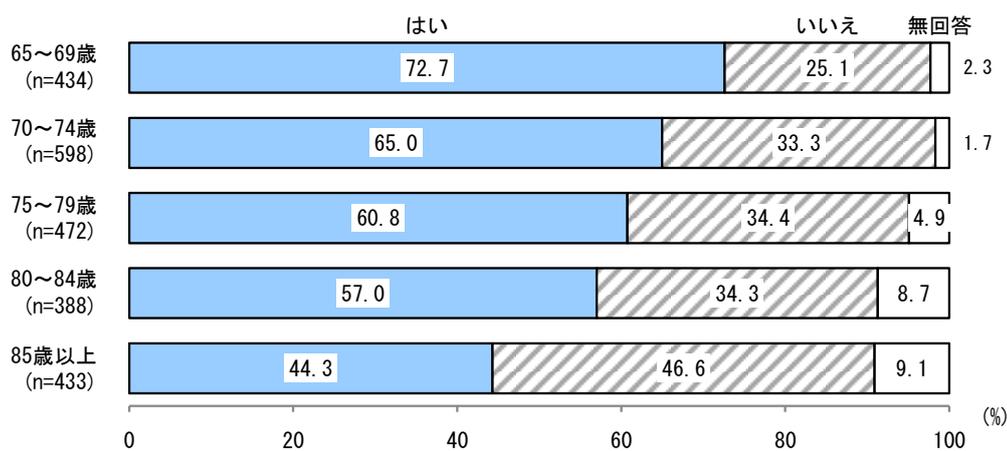
【図14-7 成年後見制度の認知有無】



成年後見制度を知っているかについては、「はい」が60.4%、「いいえ」が34.6%となっています。(図14-7)

年齢別でみると、高齢になるほど「はい」の割合が低くなっており、85歳以上になると44.3%と半数未満になっています。(図14-7-1)

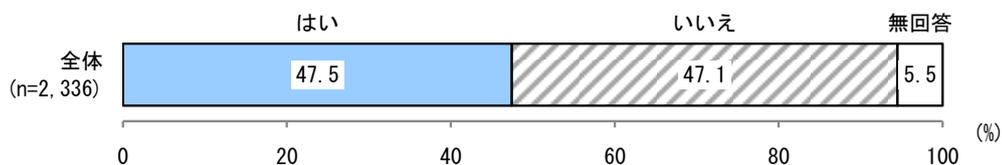
【図14-7-1 年齢別 成年後見制度の認知有無】



(8) 任意後見制度の認知有無

問13Q7 任意後見制度とは、成年後見制度の1つで、判断能力がある間に、本人が選んだ任意後見人と公正証書で契約しておき、本人の判断能力が低下した後、契約に基づき、本人の契約行為や財産管理を支援する制度です。あなたは任意後見制度を知っていますか。〈〇は1つ〉

【図14-8 任意後見制度の認知有無】



任意後見制度を知っているかについては、「はい」が47.5%、「いいえ」が47.1%となっています。(図14-8)

年齢別でみると、「はい」の割合は、65～69歳が52.4%で最も高く、70歳代と80～84歳が約半数となっていますが、85歳以上になると38.9%と低くなっています。(図14-8-1)

【図14-8-1 年齢別 任意後見制度の認知有無】

